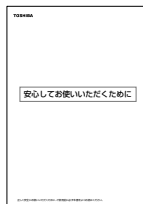
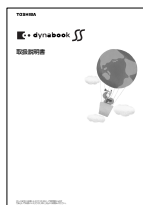
マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

● パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書（本書）

● Windowsのセットアップ
● 基本機能
● モバイル活用法
● 周辺機器の接続
● 困ったときは
● 再セットアップ

オンラインマニュアル

本製品の電源を入れた状態でデスクトップの［オンラインマニュアル］アイコンをダブルクリックすると起動します。
アプリケーションの紹介や用語集などジャンル別にさまざまな情報を検索できます。

リリース情報

● 本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で次の操作を行うと表示されます。
［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリック

もくじ

４章　周辺機器の接続 97

5章　バッテリ駆動　123

6章　システム環境の変更　139

7章　困ったときは　189

8章　再セットアップ　233

9章　こんなときは　251

付録 273

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠ 危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠ 警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「　」 他のマニュアルへの参照の場合 …『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム　特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows または Windows XP
Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版を示します。

MS-IME　Microsoft® IME 2003／ナチュラル インプット 2003 を示します。

Office Personal 2003
Microsoft® Office Personal Edition 2003 を示します。

Office OneNote 2003
Microsoft® Office OneNote® 2003 を示します。

Office 搭載モデル
Microsoft® Office Personal Edition 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

OneNote 搭載モデル
Microsoft® Office OneNote® 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

無線 LAN モデル
無線 LAN 機能が内蔵されているモデルを示します。

Bluetooth モデル
Bluetooth 機能が内蔵されているモデルを示します。

無線通信機能モデル
無線 LAN 機能と Bluetooth 機能が内蔵されているモデルを示します。

記載について

- 記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。モデルについては、「用語について」を参考にしてください。
- インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや同梱のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、OneNoteは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Pentiumは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- 「駅前探険倶楽部」、「駅探」は登録商標です。
- i.LINKとi.LINKロゴは商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- 駅すぱあとは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
- Javaはサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- infoPepperは東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- DIONはKDDI株式会社の登録商標です。
- @niftyは、ニフティ株式会社の商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
・AC アダプタを接続せずにバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用している場合
・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
　目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
・目安として、気温 5 ～ 30℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

お願い

・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
・Windowsのシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェア領域を壊すおそれがあります。
・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
・購入時に決められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
・指紋の認識率には、個人差があります。
・指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。
本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
・ご使用の際は必ず本書をはじめとする各説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。
本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参照 詳細について「9章 3-❶ 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ」

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。
本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

・誤った使いかたをしたとき
・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
・長期間使っていなかったために、バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）の充電量がなくなったとき
・故障、修理、バッテリ交換のとき
・バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

1章

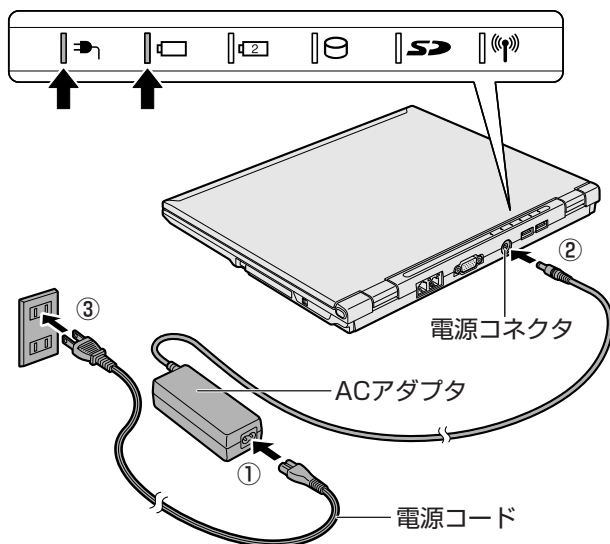
セットアップ

電源を入れて、パソコンを使えるようにするためのWindowsのセットアップを行います。

1 パソコンの準備

ここでは、電源コードと AC アダプタを接続して電源を入れる方法について説明します。

① 電源コードと AC アダプタを接続する

電源コードと AC アダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。
はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。

インジケータ図は、パソコン本体正面から見た場合の並び順です。

接続すると、DC IN LED が青色に点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

⚠ 警 告

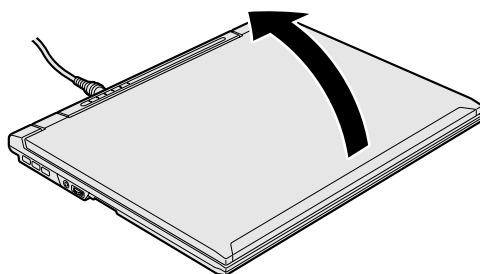
- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や（+）（−）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず上記の順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

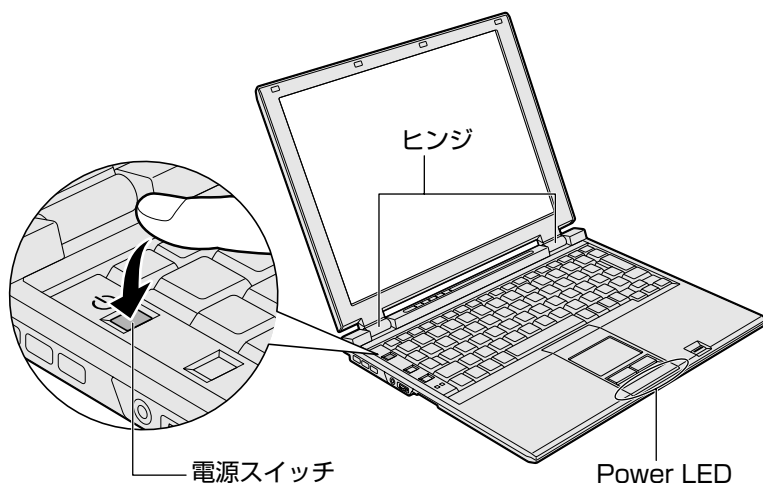
2 電源を入れる

お願い 本体液晶ディスプレイを開けるときは

本製品の本体液晶ディスプレイは180度まで開きません。本体液晶ディスプレイを開きすぎるとヒンジ（下図参照）に力がかかり、破損や故障の原因となります。ヒンジに無理な力が加わらないよう開閉角度に注意してご使用ください。

1 ディスプレイを開ける

片手でパームレスト（キーボードの手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

2 電源スイッチを押す

Power LED が青色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。

2 Windowsのセットアップ

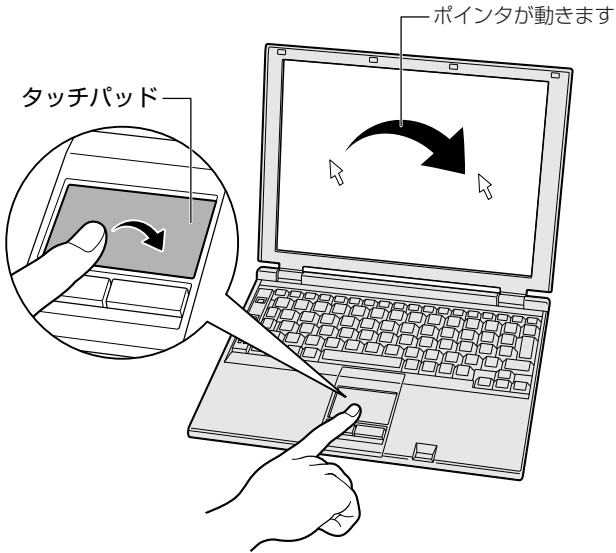
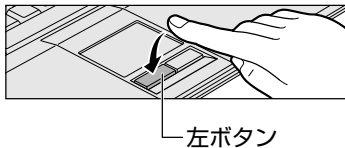
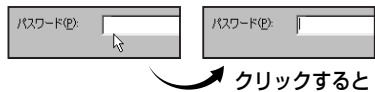
パソコンを使えるようにするために、Windowsのセットアップを行います。
セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードやACアダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

- 周辺機器は接続しないでください
  セットアップはACアダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。
- 途中で電源を切らないでください
  セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。
- 操作は時間をあけないでください
  セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう1度表示するには、Shiftキーを押すか、タッチパッドをさわってください。
- 使用するWindowsの管理番号を「Product Key」といいます。
  Product Keyはパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からサービスが受けられなくなります。

1 タッチパッドの使いかた

タッチパッドに指を置き、押さえながら上下左右に動かします。
指の動きにあわせてディスプレイ上の「 」（ポインタ）が動きます。

目的の位置にポインタをあわせたあと、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

 を文字入力欄にあわせてクリックすると、「｜」（カーソル）が点滅します。「｜」の位置から入力できます。

2 Windows XP のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
初めて電源を入れると、[Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。

音量は本体左側面にあるボリュームダイヤルで調節できます。

参照 音量の調節について「3 章 6 サウンド機能」

1 操作方法

1 [次へ] ボタンをクリックする

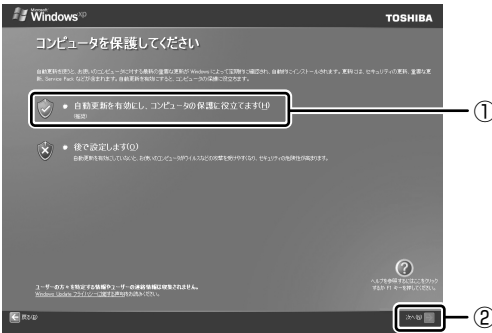
画面右下の ? ボタンをクリックするか F1 キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。
[使用許諾契約] 画面が表示されます。

2 ［使用許諾契約］の内容を確認して［同意します］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。

▼ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。

［コンピュータを保護してください］画面が表示されます。

3 ［自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［コンピュータに名前を付けてください］画面が表示されます。

4 ［このコンピュータの名前］にコンピュータ名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

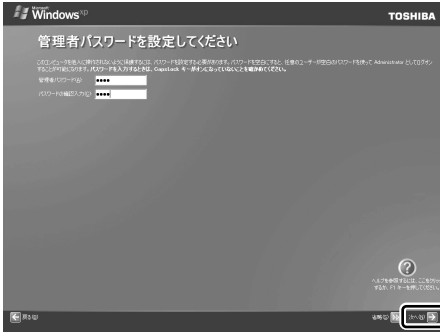
半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。
企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
［管理者パスワードを設定してください］画面が表示されます。

5 ［管理者パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力する

Administratorと呼ばれる管理者のユーザアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。
パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

参照 入力に使うキーの位置について「3章 2 キーボード」

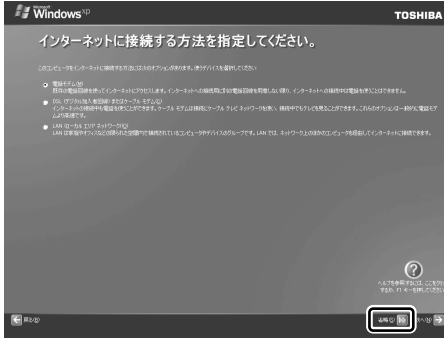
［管理者パスワード］欄での入力後、Tabキーを押すと「｜」が［パスワードの確認入力］欄に移動します。「｜」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

6 ［次へ］ボタンをクリックする

［このコンピュータをドメインに参加させますか？］画面が表示されます。
ドメインの設定はセットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

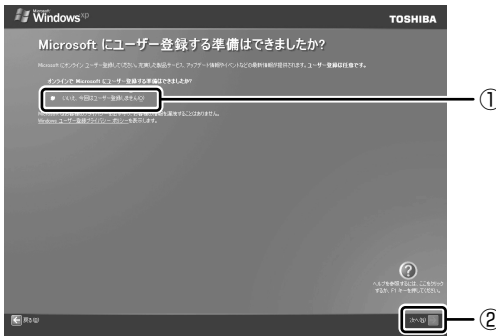
7 ［いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

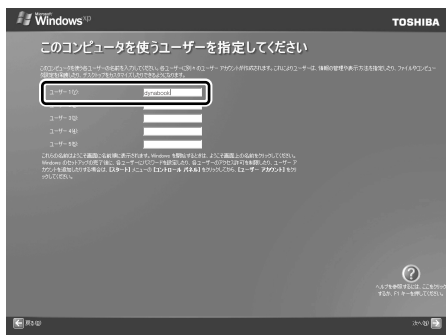
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面ではなく［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されることがあります。
画面が表示される前に、［インターネット接続を確認しています］画面が表示されることがあります。そのまま次の画面が表示されるのをお待ちください。
インターネット接続の設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

8 ［省略］ボタンをクリックする

［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示された場合も、［省略］ボタンをクリックしてください。

［Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？］画面が表示されます。

マイクロソフト社へのユーザ登録は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

9 ［いいえ、今回はユーザー登録しません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［このコンピュータを使うユーザーを指定してください］画面が表示されます。

10 [ユーザー 1]欄に使う人の名前を入力する

[ユーザー 1]欄にポインタをあわせてクリックすると、「｜」が点滅します。
「｜」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

参照 入力に使うキーの位置について「3章 2 キーボード」

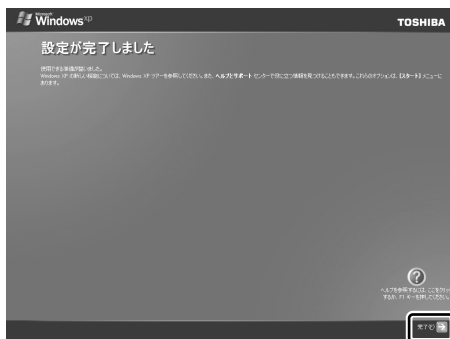
Windows XPでは複数のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは1人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ

- ローマ字入力で入力する場合
  半角英数字で「dynabook」と入力したいときは、はじめにキーボードの(半／全)キーを押して、日本語入力システムMS-IMEの日本語入力モードをオフにしてから、(D)(Y)(N)(A)(B)(O)(O)(K)と押します。
  キーを押しても文字が表示されない場合は、[ユーザー]欄に「｜」(カーソル)が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、[ユーザー]欄をクリックしてください。
  文字の入力を間違えたら、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

11 [次へ]ボタンをクリックする

[設定が完了しました]画面が表示されます。

12 ［完了］ボタンをクリックする

Windows のセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動します。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
  C ドライブ：NTFS システム
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

参照 ユーザ登録について「9 章 3 お客様登録をする」

Windows XP の使いかた

Windows XP の使いかたについては、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

Windows XP の最新情報やアップデートの情報は以下のホームページから確認できます。

- Windows XP について
  URL　http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/
- Windows XP のアップデート
  URL　http://windowsupdate.microsoft.com/

3 セットアップを終了したあとに

1 指紋を登録する

Windowsセットアップ終了後、メッセージ画面が表示されます。
［登録］ボタンをクリックし、画面の指示に従って操作すると指紋を登録できます。

参照 詳細について「6章 5 指紋認証を使う」

2 ドメインに接続する

企業内など、ある1つにまとまったネットワークをドメインと呼びます。
ここでは、本製品をドメインに接続する設定方法を説明します。
ドメインのユーザ名やパスワードなど、詳しい設定方法がわからない場合はネットワーク管理者に問い合わせてください。
本製品を複数のユーザで使用している場合はAdministratorと呼ばれる管理者のユーザに切り替えてから設定を行ってください。

ドメインの設定方法

1. **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする**
2. **［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする**
3. **［コンピュータの基本的な情報を表示する］をクリックする**
   ［システムのプロパティ］画面が表示されます。
4. **［コンピュータ名］タブで［変更］ボタンをクリックする**
5. **［ドメイン］の左にある○をクリックしてから接続するドメインの名前を入力し、［OK］ボタンをクリックする**
6. **ドメインの［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］ボタンをクリックする**
7. **［OK］ボタンをクリックする**
8. **［OK］ボタンをクリックする**
   パソコンを再起動してください。

3 ユーザー補助について

画面を見る、音声を聞く、キーボードやマウスを操作するなどのパソコンでの作業が難しい場合、Windows XP では［ユーザー補助の設定ウィザード］または［ユーザー補助のオプション］でユーザを補助します。

【 ユーザー補助の設定ウィザード 】

［ユーザー補助の設定ウィザード］では、ユーザー補助に関する質問が表示されます。質問の回答にあわせ、自動的にパソコンを設定します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

2 ［Windows を構成して、ユーザーの視覚、聴覚、四肢の状態に合わせて使用する］をクリックする

【 ユーザー補助のオプション 】

［ユーザー補助のオプション］では、直接設定することができます。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

2 ［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

詳しくは、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして『ヘルプとサポートセンター』を起動し、「ヘルプトピックを選びます」の［ユーザー補助］をクリックして、説明をお読みください。

2章

電源を入れる／切る

ここでは、Windowsのセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。また、パソコンの使用を一時的に中断させたいときの操作方法についても説明しています。

1　電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

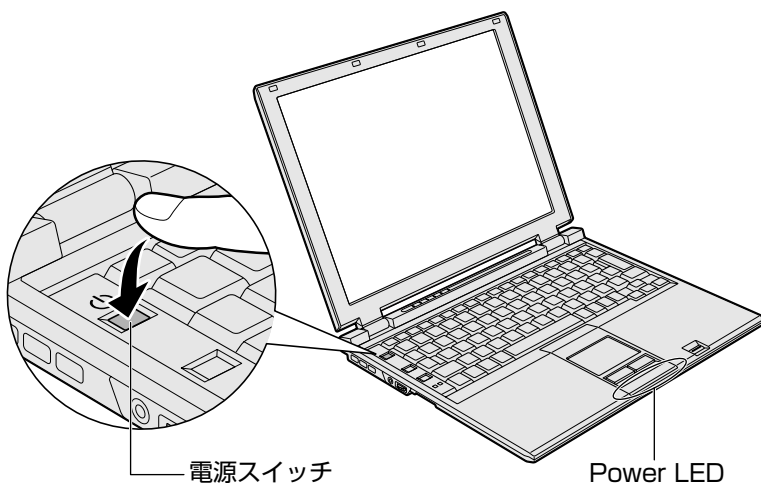
参照 初めて電源を入れるとき「1 章 セットアップ」

お願い **電源を入れる前に**

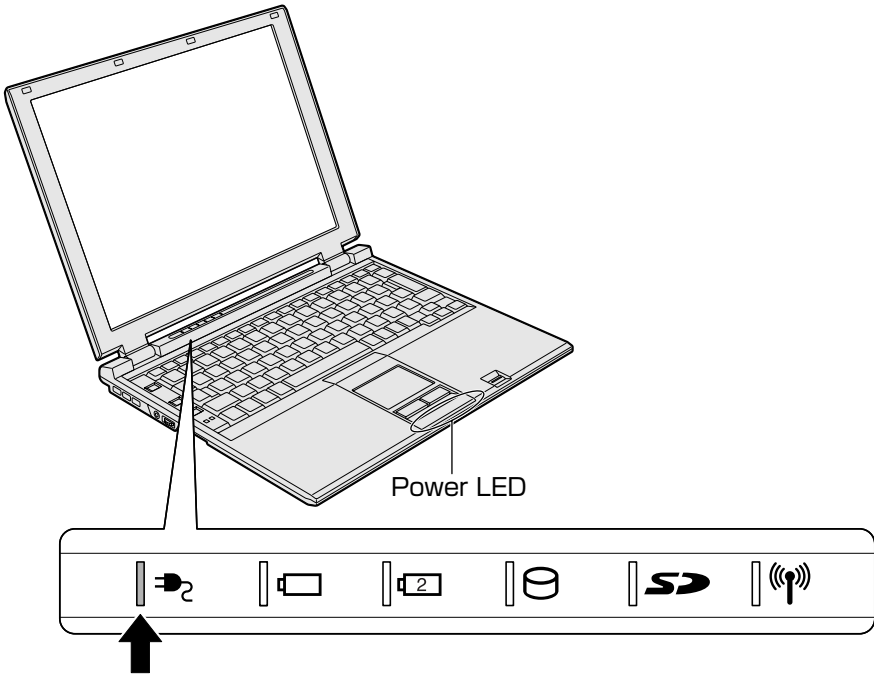
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチを押す

Power LED が青色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。

Windows が起動します。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。

	状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	青の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 （AC アダプタ、バッテリ、またはパソコン本体の異常）
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power LED	青の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源 OFF、休止状態

「東芝ピークシフトコントロール」を使用している場合の電源の状態については、「5章 2-❷ 東芝ピークシフトコントロール」、『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』、『東芝ピークシフトのヘルプ』とあわせてご覧ください。

【 パスワードを設定している場合 】

パスワードを設定している場合は、電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password =
```

設定したパスワードを入力し、Enterキーを押してください。

メモ

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

参照 パスワードについて 「6章 4 パスワードセキュリティ」

【 メッセージが表示される場合 】

不明なメッセージについては、「7章 2- メッセージ」をご覧ください。

3 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【 一時的に変更する 】

電源を入れたときに表示されるアイコンから、起動するドライブを選択できます。

1 F12キーを押しながら電源スイッチを押す

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。

アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → CD-ROM ドライブ→ FDD または SD カード →ネットワーク→ USB メモリ

2 →または←キーで起動したいドライブを選択し、Enterキーを押す

一時的にそのドライブを最優先して起動します。

【 あらかじめ設定しておく 】

「東芝 HW セットアップ」の［OS の起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

 設定の変更「6 章 2 東芝 HW セットアップを使う」

SD メモリカードから起動する

「SD メモリブートユーティリティ」では、SD メモリカードで起動ディスクを作成することができます。
詳細については、「SD メモリブートユーティリティ」のヘルプを参照してください。

【 SD メモリブートユーティリティの起動方法 】

1 SD カードスロットに SD メモリカードをセットする

参照 「4 章 3-2 セット」

2 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SD メモリブートユーティリティ］をクリックする

［東芝 SD メモリブートユーティリティ］画面が表示されます。ヘルプを参照し、起動ディスクを作成してください。

【 SD メモリブートユーティリティのヘルプの起動方法 】

1 「SD メモリブートユーティリティ」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

2 電源を切る

正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。
パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 スタンバイ、休止状態
「本章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

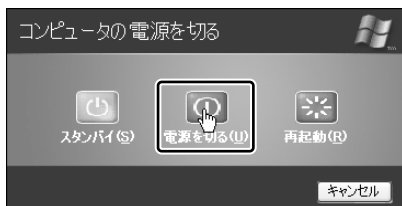
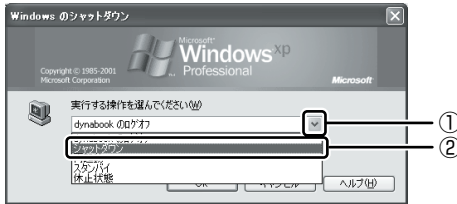
お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- DC IN LED、Power LED、Battery LED 以外の LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 操作手順

1 ［スタート］①→［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

2 ［電源を切る］をクリックする

ドメイン参加している場合は、［Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし①、［シャットダウン］を選択し②、［OK］ボタンをクリックしてください。

Windows が終了し、電源が切れます。Power LED が消灯します。

2 電源を切った後は

- 周辺機器の電源は、パソコンの電源を切った後に切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切った後すぐに入れないでください。動作が不安定になる場合があります。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

お願い **操作にあたって**

- スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
  ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
  また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒以上押して、いったん電源を切った後、もう１度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailure で起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。
- スタンバイまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

1 ［スタート］①→［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

2 ［スタンバイ］をクリックする

ドメイン参加している場合は、［Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし、［スタンバイ］を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。
メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

メモ

(Fn)＋(F3)キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

② 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を復元できます。休止状態が無効な場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。
購入時は、休止状態が有効に設定されており、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［電源オプション］をクリックする
③ ［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 ［スタート］①→［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

3 Shiftキーを押したまま［休止状態］をクリックする

Shiftキーを押している間は、［スタンバイ］が［休止状態］に変わります。

ドメイン参加している場合は、[Windowsのシャットダウン]画面で ボタンをクリックし、[休止状態]を選択して[OK]ボタンをクリックしてください。
Disk LEDが点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

メモ

Fn+F4キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る/パソコンの使用を中断する

[スタート]メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る(電源オフ)、またはスタンバイ/休止状態にすることができます。
休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節❷-1 手順1」を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

購入時には[電源オフ]に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

① [コントロールパネル]を開き、[パフォーマンスとメンテナンス]をクリック→[東芝省電力]をクリックする
② [アクション設定]タブの[電源ボタンを押したとき]で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する
③ [OK]ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順1の②で[入力を求める]を選択したときは、[Windowsのシャットダウン]画面または[コンピュータの電源を切る]画面が表示されます。
[何もしない]を選択したときは、電源スイッチを押しても何も動作しません。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって［スタンバイ］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には［休止状態］に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする

② ［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する

③ ［OK］ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の②で［スタンバイ］または［休止状態］を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。［何もしない］を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

3章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作など役に立つ機能も紹介。
各部の手入れについても確認してください。

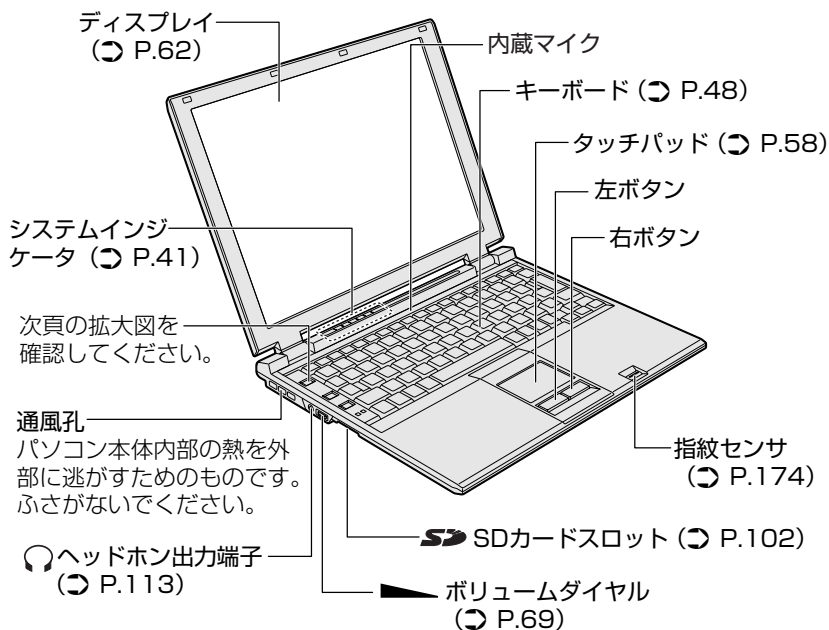
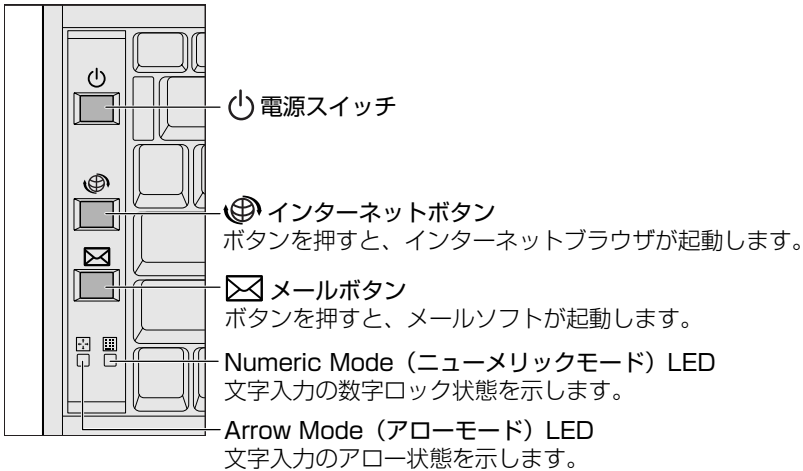
---

1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページを確認してください。

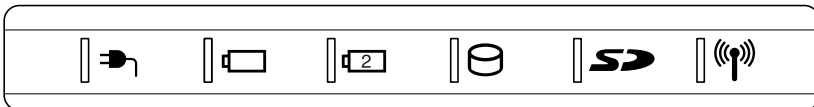
メモ

本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。
ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

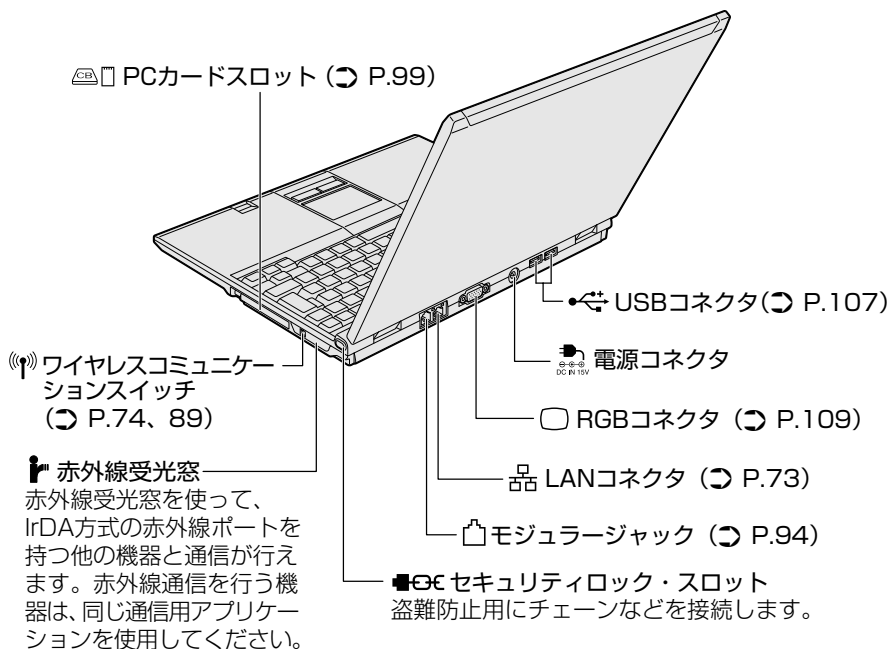
1 前面図

【 拡大図 】

メモ

インターネットボタンとメールボタンの設定は、「東芝コントロール」で変更できます。「東芝コントロール」の起動方法は次のとおりです。

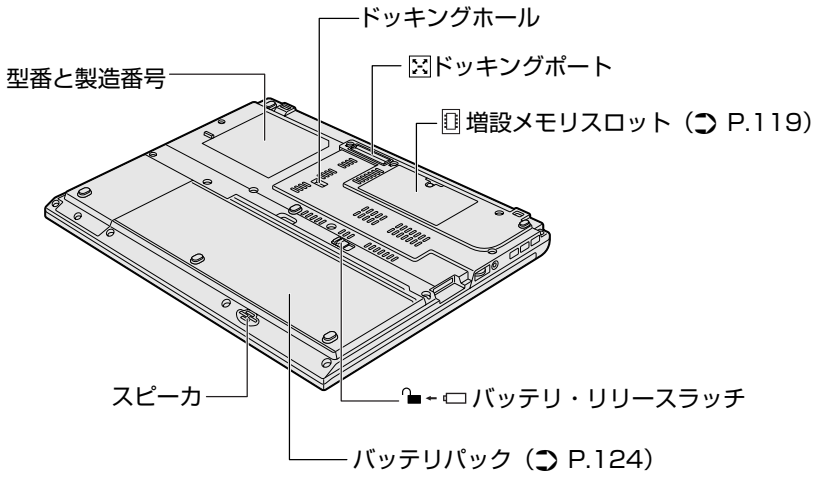
① ［コントロールパネル］→［プリンタとその他のハードウェア］→［東芝コントロール］をクリック

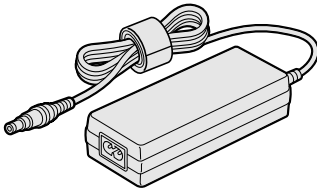
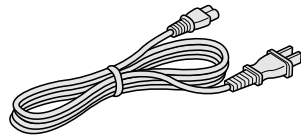
【 システムインジケータ 】

	DC IN LED	電源コードの接続 参照 P.29
	Battery LED	バッテリの状態 参照 P.125
	セカンドバッテリ LED	セカンドバッテリの状態 参照 P.125
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
	SD Card LED	SD カードスロットにアクセスしている
	ワイヤレスコミュニケーションLED	無線通信機能の状態*1 参照 P.74、89

＊1 無線 LAN モデル、Bluetooth モデルのみ

2 背面図

メモ

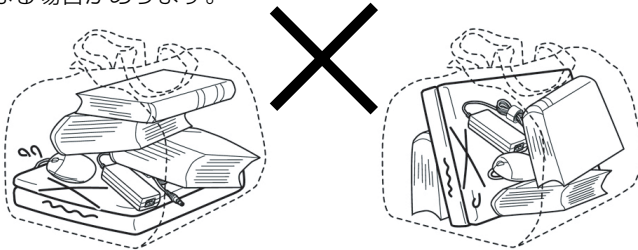
セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

3 裏面図

通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

4 付属品

ACアダプタ　　電源コード

5 パソコンを持ち運ぶときは

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、AC アダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
  電源を切って AC アダプタを取りはずした後に、すべての LED が消灯していることを確認してください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。結露が発生し、故障の原因となる可能性があります。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- パソコンを持ち運ぶときは、不安定な持ちかたをしないでください。
- パソコンを持ち運ぶときは、突起部分を持って運ばないでください。
- 各スロットに、メディアやカードなどがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。
- パソコンをカバンなどに入れて持ち運ぶときは、パソコン上面が AC アダプタやマウス、携帯電話、または、硬い本などの荷物で局所的に圧迫されるような入れ方をしないでください。
  液晶画面の一部にシミ状のムラが発生するなど、破損・故障の原因となり、修理が必要となる場合があります。

6 ACアダプタと電源コードについて

⚠警 告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用してください。本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や(+)(−)の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず「1章 1-❶ 電源コードとACアダプタを接続する」に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。
- 電源コードの電源プラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、電源プラグにホコリがたまることがあります。火災・感電を防ぐために定期的にホコリをふき取ってください。

⚠注 意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをACコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

【 電源コードの仕様 】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。
使用できる電圧（AC）は、100V です。
必ず AC100V のコンセントで使用してください。

＊取得規格は、電気用品安全法です。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

【 AC アダプタの仕様 】

入力　　　　：AC100-240V、1.1-0.6A、50-60Hz
出力　　　　：DC15V、3A
最大消費電力：約 45W（電源スイッチオン時）
最小消費電力：約 0.8W（スタンバイ時）／約 0.4W（電源スイッチオフ時）

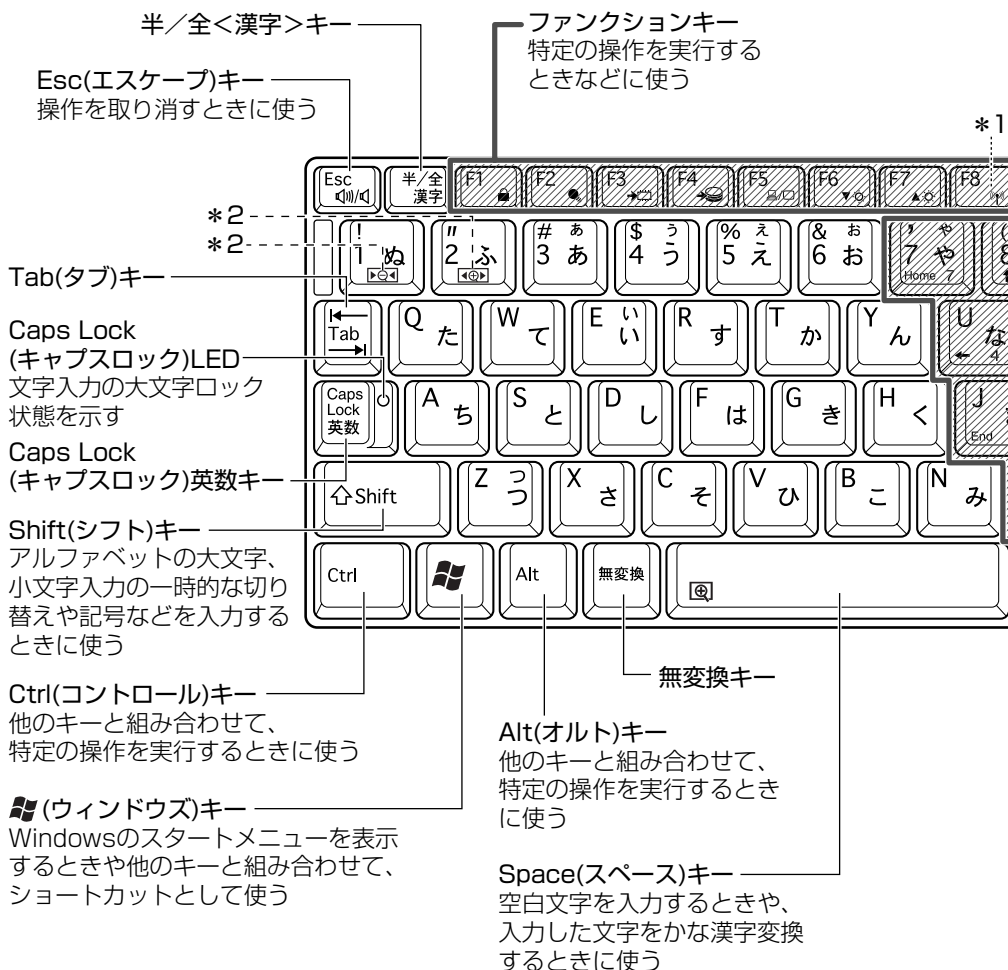
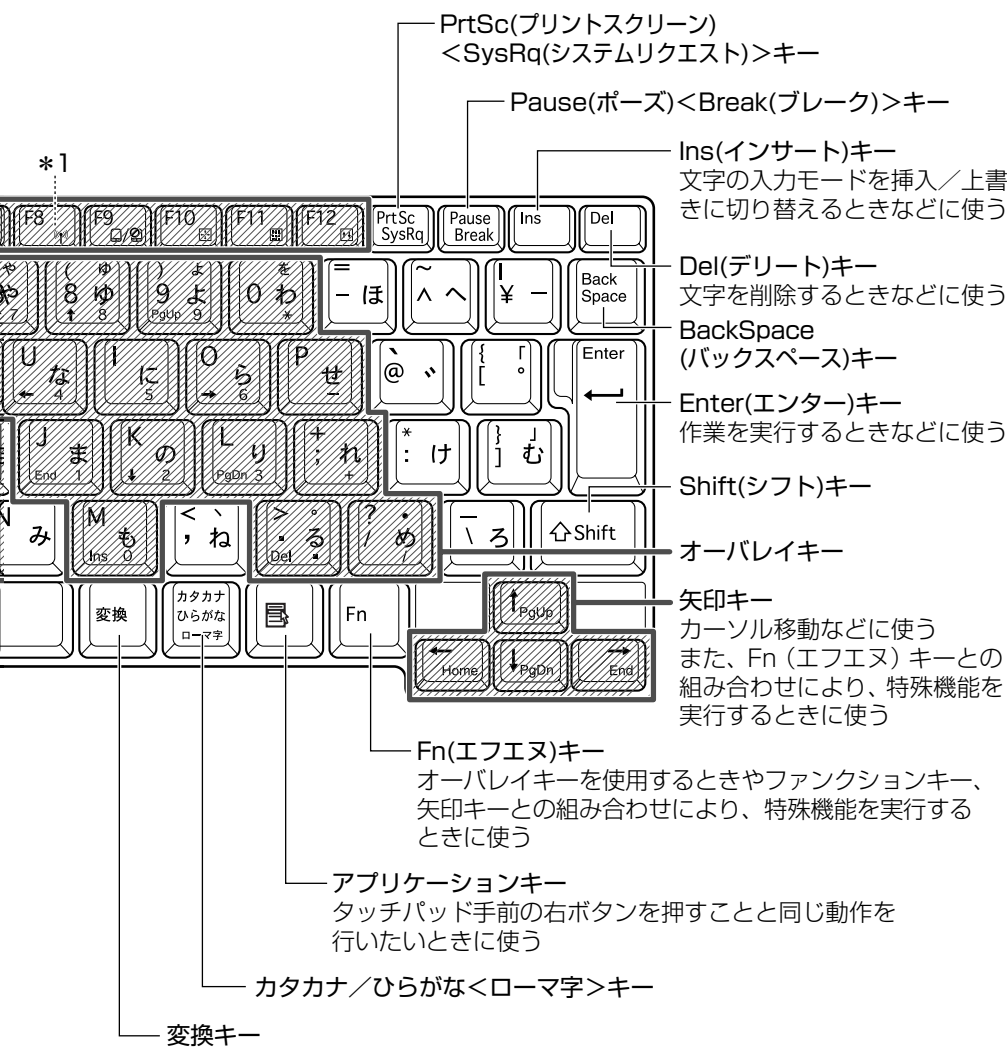
お願い パソコン本体／ACアダプタ／電源コードの取り扱いと手入れ

- 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、ACアダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
  あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布でふいてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
  ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。＊[1]
  温度５～35℃、湿度20～80％
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
  直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

＊１ 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。

2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

＊1 (Fn)＋(F8)の機能は無線通信機能モデルのみサポートしています。

＊2 モデルによっては、キーボードのマーク（アイコン）がないものがありますが、機能はサポートしています。

【 文字キー 】

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている２～６種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

参照 アロー状態、数字ロック状態
「本節 ❷-Fnキーを使った特殊機能キー」

お願い キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

2 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
Fn＋Esc 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう１度Fn＋Escキーを押します。
Fn＋Space 〈本体液晶ディスプレイの解像度切り替え〉	Fnキーを押したまま、Spaceキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
Fn＋F1 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時にようこそ画面に戻る] をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。
Fn＋F2 〈省電力モードの設定〉	Fn＋F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力」の省電力プロファイルが表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに省電力プロファイルが切り替わります。

キー	内容
Fn+F3 〈スタンバイ機能の実行〉	Fn+F3キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます＊1。
Fn+F4 〈休止状態の実行〉	Fn+F4キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックすると休止状態が実行されます＊1。
Fn+F5 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章5 外部ディスプレイを接続する」
Fn+F6 〈本体液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	Fnキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
Fn+F7 〈本体液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	Fnキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
Fn+F8＊2 〈無線通信機能を切り替える〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、Fnキーを押したまま、F8キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。
Fn+F9 〈タッチパッドオン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度Fn+F9キーを押します。 参照 「本章3-❷ タッチパッドを無効／有効にするには」
Fn+F10 〈オーバレイ機能：アロー状態〉	キー左下に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度Fn+F10キーを押します。 Arrow Mode LEDが点灯します。
Fn+F11 〈オーバレイ機能：数字ロック状態〉	キー右下に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度Fn+F11キーを押します。 アプリケーションによっては機能が異なる場合があります。 Numeric Mode LEDが点灯します。

＊1　表示される画面で［今後、このメッセージを表示しない］をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

＊2　無線通信機能モデルのみサポートしています。

キー	内容
Fn＋F12 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう 1 度Fn＋F12キーを押します。
Fn＋↑ 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
Fn＋↓ 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
Fn＋← 〈Home（ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
Fn＋→ 〈End（エンド)〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
Fn＋1＊3 〈縮小〉	デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
Fn＋2＊3 〈拡大〉	デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

＊3 「TOSHIBA Smooth View」をインストールしている場合のみ、使用できます。

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。
初めて使用するときには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。［東芝ユーティリティ］タブの「東芝ユーティリティ」に用意されています。
インストール後、起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックしてください。以降は自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

「Fn-esse」

「Fn-esse」は、Fnキーと特定のキーを押すと、簡単にアプリケーションを起動できるアプリケーションです。あらかじめ特定のキーと起動するアプリケーションの設定が必要です。
起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Fn-esse］をクリックしてください。
「Fn-esse」でFn＋1キーまたはFn＋2キーに何らかの動作を登録していても、「TOSHIBA Smooth View」をインストールすると使用できなくなります。

【 [Windows]キーを使ったショートカットキー 】

キー	操作
[Windows]+R	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
[Windows]+M	すべての画面を最小化する
Shift+[Windows]+M	[Windows]+Mキーで最小化した画面を元に戻す
[Windows]+F1	『ヘルプとサポート センター』を起動する
[Windows]+E	［マイコンピュータ］画面を表示する
[Windows]+F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl+[Windows]+F	他のコンピュータを検索する
[Windows]+Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
[Windows]+Break	［システムのプロパティ］画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
カナロック状態	Ctrl＋Caps Lock 英数	カナロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー右下に印刷されたひらがなを、カタカナで入力できます。＊1
大文字ロック状態	Shift＋Caps Lock 英数	大文字ロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー左上に印刷された英字などの文字を、大文字で入力できます。＊1 大文字ロック状態のときは、Caps Lock 英数キーの Caps Lock LED が点灯します。
アプリケーションの強制終了など	Ctrl＋Alt＋Del	［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。＊2
画面コピー	PrtSc	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	Alt＋PrtSc	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

＊1　カナロック状態や大文字ロック状態を解除するには、もう 1 度同じキー操作をします。
　　ロック状態の優先度は、カナロック状態＞大文字ロック状態です。

＊2　ドメインに参加しているとき、ユーザアカウントで「ようこそ画面を使用する」のチェックをはずした場合には、［Windows のセキュリティ］画面が表示されますので、［タスクマネージャ］ボタンをクリックしてください。

3 日本語を入力するには

本製品には、日本語を入力するためのアプリケーションソフト、日本語入力システム MS- IME が用意されています。起動したときは、英数字の入力ができるように設定されています。半/全キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。

Office OneNote 2003 を起動すると、日本語入力が MS-IME からナチュラル インプットに切り替わります。ナチュラル インプットは日本語入力時の文字変換を快適にする入力システムです。
詳しくは「Microsoft ナチュラル インプット」のヘルプをご覧ください。

入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。
ローマ字入力とかな入力はAlt＋カタカナひらがなキーを押すと切り替えられます。
この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。
常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。
① ツールバーの［プロパティ］アイコン（ ）をクリックして表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
② ［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

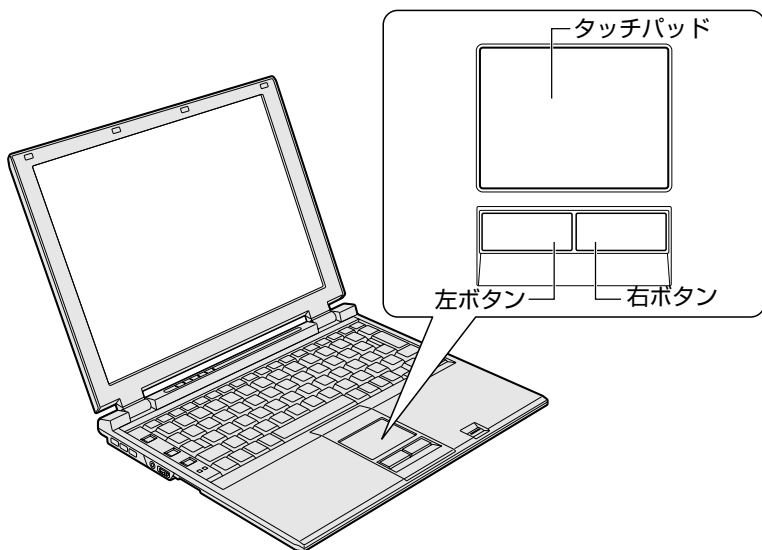
漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、Spaceキーを押します。
目的の漢字ではない場合は、もう 1 度Spaceキーを押すと、候補の一覧が表示されます。
↑↓キーで選択し、Enterキーを押します。

ヘルプの起動方法

1 ［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックし、表示されたメニューの［言語バーのヘルプ］をクリックする

3 タッチパッド

電源を入れてWindows を起動すると画面上に （ポインタ）が表示されます。
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使って、ポインタを操作します。

お願い

タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなど先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

タッチパッドに指を置き、上下左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。

クリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンまたは右ボタンを1 回押します。
ダブルクリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンをすばやく2 回続けて押します。
ドラッグアンドドロップ	左ボタンを押したまま、タッチパッドでポインタを移動します(ドラッグ)。 ドラッグの操作の最後に、目的の場所でボタンから指を離します(ドロップ)。

1 タッピング

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

クリック	タッチパッドを1回軽くたたきます。
ダブルクリック	タッチパッドを2回軽くたたきます。
ドラッグアンドドロップ	タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。
スクロール	タッチパッドの右端に指を合わせて上下に動かします（上下スクロール）。 タッチパッドの下端に指を合わせて左右に動かします（左右スクロール）。

タッチパッドや左ボタン／右ボタンは［マウスのプロパティ］で設定を変更できます。

2 タッチパッドを無効／有効にするには

タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

【 方法1ー Fn+F9キーを押す 】

1 Fn+F9キーを押す

タッチパッドからの入力が一時的に無効になります。
解除するには、もう1度Fn+F9キーを押します。

Fn+F9キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

【 方法2ー マウスのプロパティで設定する 】

1 **通知領域の［Touch Pad］アイコン（ ）をダブルクリックする**

［マウスのプロパティ］は、［コントロールパネル］の［プリンタとその他のハードウェア］の［マウス］からも表示できます。

2 **［タッチパッド ON/OFF］タブで、［有効］または［無効］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする**

［有効］をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、［無効］をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

ヘルプの起動方法

1 **［マウスのプロパティ］画面を表示し、画面右上の ? をクリックする**

ポインタが に変わります。

2 **画面上の知りたい項目にポイントを置き、クリックする**

3 PadTouch機能を使う

「PadTouch」は、タッチパッドの操作により、さまざまな機能を簡単に実行できるアプリケーションです。
次のようなときに使用すると便利です。

- ウインドウでデスクトップが隠れているときに、デスクトップ上のファイルを開きたい
- Internet Explorerの［お気に入り］に登録されているホームページを開きたい
- 現在実行中のウインドウの一覧を表示して、アクティブなウインドウを切り替えたい

初めて「PadTouch」を使用するときにインストールが必要です。

1 インストール方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

「PadTouch」は［東芝ユーティリティ］タブの「東芝ユーティリティ」に用意されています。

インストール後はパソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。
詳しい使用方法は、PadTouchのヘルプを参照してください。

ヘルプの起動

1 通知領域の［PadTouch］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックする

お願い タッチパッドの手入れ

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

4 ディスプレイ

本製品には表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768ドット）が内蔵されています。ドットは画素数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について
「4章5 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

解像度	色数
1600×1200ドット	1,677万色
1400×1050ドット	
1280×1024ドット	
1024×768ドット	
800×600ドット	

1280×1024ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

- 1,677万色はディザリング表示です。
  ディザリングとは、1画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 本体液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677万色はディザリング表示です。本体液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱいに大きく表示されます。本体液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［ 画面］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

2 ［設定］タブの［画面の解像度］で、解像度を変更し①、［OK］ボタンをクリックする②

メモ

Fn＋Spaceキーを押して、解像度を切り替えることもできます。

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

5 ハードディスクドライブ

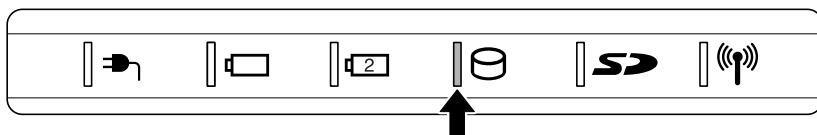
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）や、USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

1 ハードディスクドライブについて

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD ／ DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD ／ DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

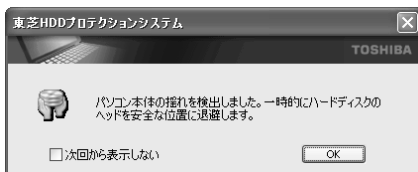
ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。

PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

② 東芝HDDプロテクションについて

＊ Windows XPモデルのみ

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性を軽減する機能です。
パソコンの使用状況にあわせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると､次のメッセージが表示されます。

メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。
HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）が（ ）に変わります。

お願い

- 東芝HDDプロテクションは､振動･衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また､故障などによりHDDの記憶内容が変化･消失する場合がありますが､これによる損害､および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任を一切負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

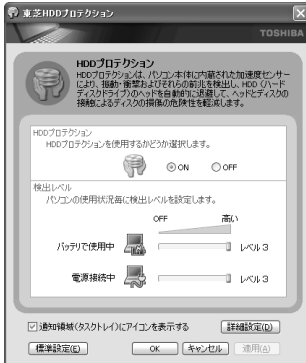
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スタンバイ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDDプロテクションの設定］をクリックする

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。

2 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。

東芝HDDプロテクションを「ON」に設定すると、電源（ACアダプタ）接続時とバッテリ使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。例えば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

HDDプロテクション	東芝HDDプロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。
バッテリで使用中	「OFF」、「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」のいずれかを選択できます。「レベル3」が最も検出レベルが高いため、東芝HDDプロテクションを有効に使用するには、「レベル3」をおすすめします。 なお使用に応じてレベルを低く設定できます。＊1
電源接続中	

＊1 パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁にHDDプロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、設定を下げてご使用することもできます。

購入時の設定に戻したい場合は、［標準設定］ボタンをクリックしてください。

さらに詳細な設定が必要な場合は手順3へ、このまま設定を終了する場合は、手順6へ進んでください。

3 ［詳細設定］ボタンをクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。

<table>
<tr><td>ACアダプタを抜いたとき</td><td rowspan="2">検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約10秒間検出レベルを最大にします。</td></tr>
<tr><td>パネルを閉めたとき</td></tr>
<tr><td>HDDプロテクション動作時メッセージを表示する</td><td>東芝HDDプロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。</td></tr>
</table>

5 ［OK］ボタンをクリックする

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。

6 ［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝HDDプロテクションの各設定は、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。

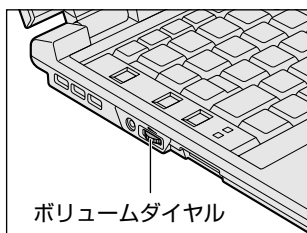
6 サウンド機能

本製品はサウンド機能とスピーカを内蔵しています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、ボリュームダイヤルまたはWindowsの「ボリュームコントロール」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときは奥に、小さくしたいときは手前に回します。

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音となります。

詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

② サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネージメント機能を設定できるようになっています。
この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。
購入時は、本機能が有効に設定されています。
消費電力の節約の程度は、バッテリの状態によって異なります。

1 サウンドコントローラの起動方法

1 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックする

2 [サウンド、音声、およびオーディオデバイス]をクリックする

3 [SoundMAX]をクリックする

2 パワーマネージメントの設定方法

1 [SoundMAX コントロールパネル]画面で[電源管理]タブの[パワーモード]で設定したいモードを選択する

2 [OK]ボタンをクリックする

3 マイクの設定を行う

本製品では、マイクから録音するときの設定を行うことができます。
［SoundMAX コントロールパネル］画面の［マイク］タブで設定します。

参照 ［SoundMAX コントロールパネル］画面の起動
「本項 ❷-1 サウンドコントローラの起動方法」

【 マイクの設定 】

使用しているマイクに適した入力状態を設定します。
［標準マイク］に設定してください。
本製品では内蔵マイクのみ使用できます。外部接続のマイクは使用できません。

マイクの設定ウィザード

適切なマイクのボリュームを自動的に設定し、音声入力を正しく動作させることができます。
［SoundMAX コントロールパネル］画面で［マイクの設定ウィザード］ボタンをクリックすると、［マイクの設定ウィザード］が起動します。

［マイクの設定ウィザード］を起動した状態でマイクに向かって話すと、パソコンに受信されるオーディオ信号が［Sound Meter］に表示されます。

【 マイクの詳細設定 】

［音声録音］をチェックすると、ノイズ除去機能によって、音声入力信号から周辺雑音が取り除かれ、クリーンでクリアな信号がアプリケーションに送信されます。この機能は、どのマイクでも使用できます。

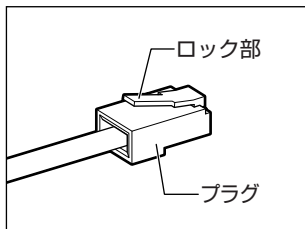
7 LAN機能

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。
コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。
本製品には、ウイルスチェックソフトとして「Norton AntiVirus」が用意されています。必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド接続するためなどに使用するLAN機能が内蔵されています。
LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet (1000BASE-T)、Fast Ethernet（100BASE-TX)、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。
LANコネクタにLANケーブルを接続すると、自動的に検出して切り替えます。
スリムポートリプリケータを接続すると、本体のLANコネクタは使用できなくなりますのでスリムポートリプリケータのLANコネクタを使用してください。この場合はFast Ethernet（100BASE-TX)、Ethernet（10BASE-T）対応となります。

参照 詳細について『スリムポートリプリケータ取扱説明書』

LANインタフェースを使用するとき、1000BASE-T規格はエンハンストカテゴリ（CAT5E）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。
LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポート センター』を確認してください。または、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

お願い **LANケーブルの使用にあたって**

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

2 ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）

＊無線LANモデルのみ

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。
市販の無線LANアクセスポイントを使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANの概要

本製品にはIEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11gの場合）＊1
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）＊1
- 周波数チャネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能（WEP152bit、WPA、AES）
- Atheros Super G™機能＊2

＊1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

＊2 Atheros Super G™機能はアクセスポイントや接続先の機器が、この機能に対応している必要があります。また通信するデータの内容により性能は変化します。

【 無線LANの種類 】

無線LANは、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance認定のWi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。
  Wi-Fiロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認証マークです。

お願い　無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる

  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

  　 IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

  　メールの内容

  などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される

  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

  　個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

  　特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

  　傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

  　コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。
そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめします。

参照 WEP機能の設定「本項 4-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信のレンジを最大限にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 2-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

参照 「本項 2-インフラストラクチャネットワーク」

- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する

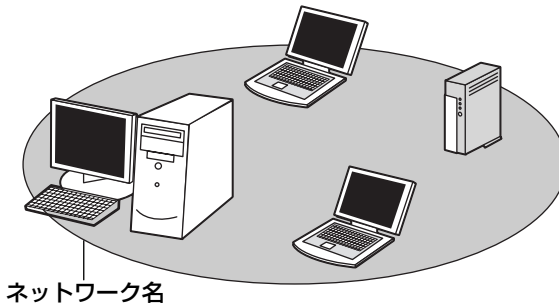
参照 「本項 2-アドホックワークグループ」

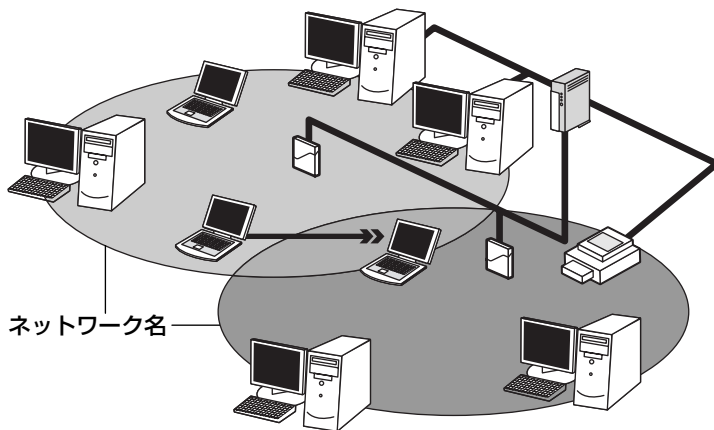
ここでは、インフラストラクチャネットワークの設定方法を例にして説明します。

インフラストラクチャネットワーク

無線LANアクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線LAN機器でアクセスできる方法です。LANのバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

【 スタンドアロンネットワーク 】

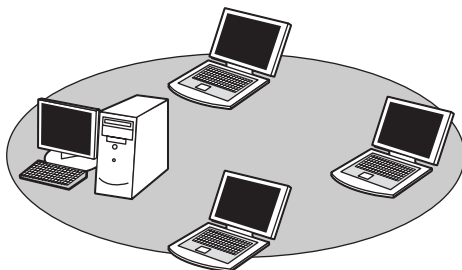
無線LANアクセスポイントのみで構築したネットワークです。

【 インフラストラクチャネットワーク 】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。

どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

アドホックワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。アドホックワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような［ファイルとプリンタの共有］などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。

アドホックグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

3 基本設定

Windows XPは、標準で無線LANネットワークに対応しています。システムが標準で提供する方法に従って設定してください。詳しくは『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

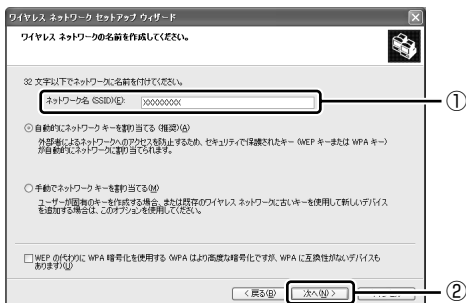
1 **［コントロールパネル］を開き、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする**

2 **［ ワイヤレス ネットワーク セットアップ ウィザード］をクリックする**

［ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始］画面が表示されます。

3 **［次へ］ボタンをクリックする**

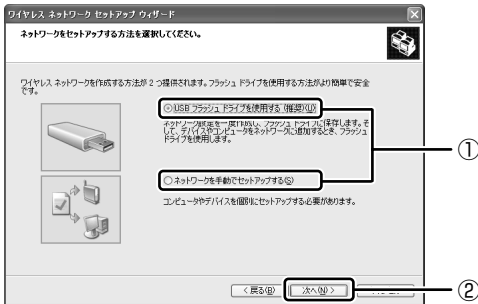
［ワイヤレスネットワークの名前を作成してください。］画面が表示されます。
パソコン本体に無線LANネットワークを設定してある場合は、［タスクを選択してください。］画面が表示されるので、指示に従ってください。
手順4または手順5に進みます。

4 **ネットワーク名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［ネットワークをセットアップする方法を選択してください。］画面が表示されます。

すでに無線 LAN ネットワークの環境がある場合など、ユーザがネットワークキーを任意で入力したい場合は、［手動でネットワークキーを割り当てる］にチェックし、［次へ］ボタンをクリックしてください。［ワイヤレスネットワークのための WEP キーを入力してください。］画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

参照 「本項 4- WEP 機能を設定する」

5 目的の方法をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

他のコンピュータやデバイスを無線LANネットワークに追加する方法を選択します。

市販のUSBフラッシュドライブを使用して、無線LANネットワークを簡単で安全にセットアップしたい場合は、［USBフラッシュドライブを使用する］をチェックしてください。USBフラッシュドライブでセットアップするための画面が表示されるので、指示に従ってください。
それ以外の場合は、［ネットワークを手動でセットアップする］をチェックしてください。

［ウィザードの完了］画面が表示されます。

6 ［完了］ボタンをクリックする

（表示例）

手動で無線LANネットワークのセットアップを行う場合は、［ネットワークの設定の印刷］ボタンをクリックしてください。ネットワークキーなどの設定が記載されている［無題 - メモ］画面が表示されます。
他のパソコンを無線LANネットワークに加える場合は、［無題 - メモ］に記載されている内容を保存し、設定を行ってください。

4 詳細設定

無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面で行います。

プロパティ画面の表示

1 ［スタート］→［マイコンピュータ］を開き、［その他］の［マイネットワーク］をクリックする

2 ［ネットワークタスク］の［ネットワーク接続を表示する］をクリックする

［ネットワーク接続］画面が表示されます。

3 ［ワイヤレスネットワーク接続］を選択し①、［ネットワークタスク］の［この接続の設定を変更する］をクリックする②

［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面が表示されます。

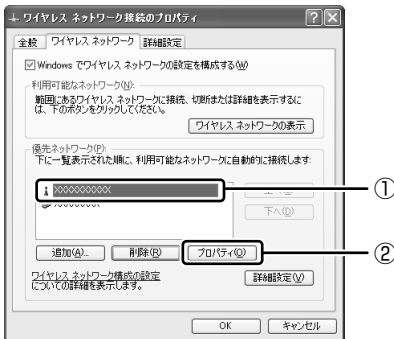
設定を変更したあと、［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

WEP機能を設定する

WEP（Wired Equivalent Privacy）とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には128ビット、64ビットの2種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 ［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面を開く

参照 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 ［ワイヤレスネットワーク］タブの［優先ネットワーク］でネットワーク名をクリックし①、［プロパティ］ボタンをクリックする②

［×××（ネットワーク名）プロパティ］画面が表示されます。

3 ［データの暗号化］で ボタンをクリックし、［WEP］を選択する

4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
  [キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
  ① [キーは自動的に提供される]のチェックをはずす
  ② [ネットワークキー]と[ネットワークキーの確認入力]にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16 進数
高(128 ビット)	13 文字	26 文字
低(64 ビット)	5 文字	10 文字

ネットワークキーは「＊＊＊＊(アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK]ボタンをクリックする

手順 4 で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう 1 度手順 4 からやり直してください。

5 無線LANを使う

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

⚠警 告

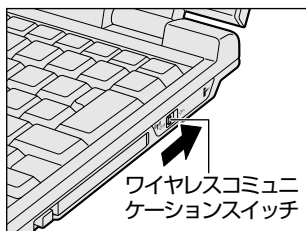
- **パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。**
  また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

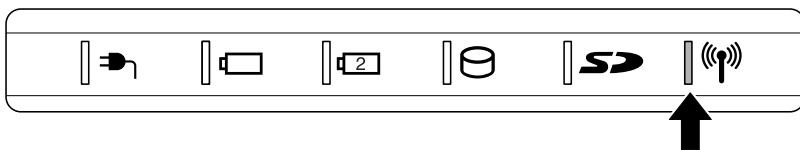
お願い

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

- 無線通信機能モデルでは、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能が切り替わります。

1 パソコン本体のワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

無線LANの機能を使用するかしないかを切り替えます。使用するときは奥側（On）に、使用しないときは手前側（Off）に切り替えてください。

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯し、無線LANが起動します。

無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

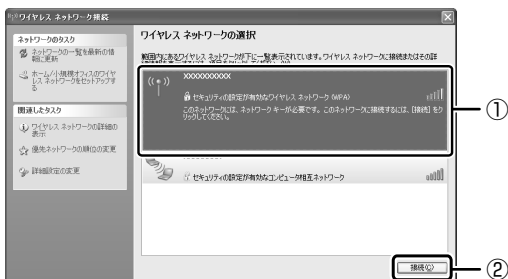
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 通知領域の［ワイヤレスネットワーク接続］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから［利用できるワイヤレスネットワークの表示］をクリックする

［ワイヤレスネットワーク接続］画面が表示されます。

3 ［ワイヤレスネットワークの選択］の使いたいネットワークを選択し①、［接続］ボタンをクリックする②

WEP機能を設定しているネットワークに接続するときは、ネットワークキーを入力する画面が表示されます。［ネットワークキー］、［ネットワークキーの確認入力］にネットワークキーを入力し、［接続］ボタンをクリックしてください。

参照 ネットワークキー「本項 3 基本設定」

接続できると、通知領域に［ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました］とメッセージが表示されます。

4 ［スタート］→［マイコンピュータ］を開き、［その他］の［マイネットワーク］をクリックする

5 ［ネットワークタスク］の［ワークグループのコンピュータを表示する］をクリックする

無線LANでつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ操作集

通信状態を確認する

［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをクリックすると［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線LANの詳しい情報は『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- 近隣で使われている無線LANデバイスのSSIDを検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。*1
- 登録しているメンバーと会議をしたり、ファイルを送信できます。
- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
- 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
- 有線LANケーブルが抜かれたときに、自動で無線LANに切り替えます。*1
- 無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。*1

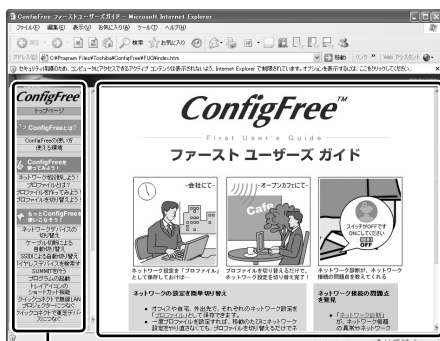
＊1 無線LANモデルの場合やPCカードタイプなどの無線LAN機器を接続した場合のみ使用できます。

他にも便利な機能がいろいろ用意されています。
詳細については『ファーストユーザーズガイド』を参照してください。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree ファーストユーザーズガイド］をクリックする

『ファーストユーザーズガイド』が表示されます。
『ファーストユーザーズガイド』は、「ConfigFree」を起動して表示された画面の［ヘルプ］ボタンをクリックしても、表示することができます。
左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。

説明が表示されます。

主な目次です。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域にアイコン（ ）が表示されています。
「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］をクリックする

［ConfigFree（ネットワーク診断）］画面が表示されます。
［タスクトレイに常駐する］をチェックすると、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面（Overview）が表示されます。以降必要のない場合は、［次回から表示しない］をチェックし、［閉じる］ボタンをクリックして画面を閉じてください。

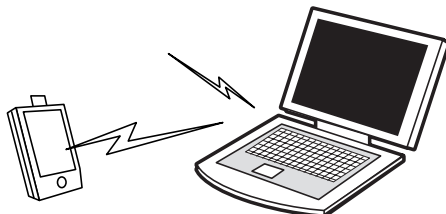
「ConfigFree」の詳細については、『ファーストユーザーズガイド』を確認してください。

8 Bluetooth機能を使う

＊Bluetoothモデルのみ

1 Bluetoothとは

Bluetoothとは、無線通信方法の1つです。Bluetooth対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SDカードタイプのBluetooth通信カードを装着したPDAとデータをやり取りしたり、Bluetooth対応のマウスを利用したりできます。

● PDAやマウスと…　（使用例）

また、Bluetooth対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となるBluetooth対応機器1台（マスタデバイス）と、それに応答するBluetooth対応機器7台（スレーブデバイス）で最大で8台の構成になります。2つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

お願い

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる地域については、同梱の『ご使用になれる国／地域について』を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDRのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

【 サポートしているプロファイル一覧 】

本製品でサポートしているBluetoothプロファイルは次のとおりです。

- ダイヤルアップネットワーキングプロファイル（DUN）
  ダイヤルアップで接続するプロファイルです。
- FAXプロファイル（FAX）
  ファックスを転送するプロファイルです。
- LANアクセスプロファイル（LAP）
  アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- シリアルポートプロファイル（SPP）
  シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル（HID）
  マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- ハードコピーケーブルリプレースメントプロファイル（HCRP）
  印刷を行うプロファイルです。
- ファイル転送プロファイル（FTP）
  ファイルを転送するプロファイルです。
- オブジェクトプッシュプロファイル（OPP）
  vCardなどのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- ジェネリックアクセスプロファイル（GAP）
  Bluetoothの環境設定を変更するプロファイルです。
- サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル（SDAP）
  SDPを制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- サービスディスカバリープロトコル（SDP）
  サービスを探すプロトコルです。
- アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル（A2DP）
  高品質のオーディオを転送するプロファイルです。
- オーディオ／ビデオリモートコントロールプロファイル（AVRCP）
  オーディオ・ビデオのリモコンに関するプロファイルです。
- ジェネリックオーディオ／ビデオディストリビューションプロファイル (GAVDP）
  オーディオ・ビデオコンテンツを転送するプロファイルです。
- パーソナルエリアネットワーキングプロファイル（PAN）
  IPベースのネットワークをサポートするプロファイルです。
- ベーシックイメージングプロファイル (BIP）
  画像ファイルを送受信するプロファイルです。

Bluetoothを利用してPocket PCとActiveSyncを行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常はCOM7ポートを指定することができます。

2 Bluetooth 機能を使って通信する

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠ 警 告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

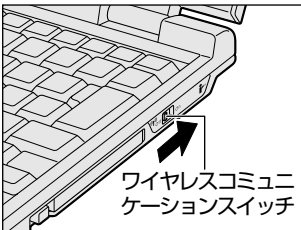
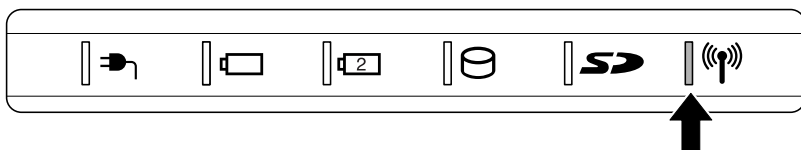
お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

- 無線通信機能モデルでは、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、Fnキーを押したまま、F8キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能が切り替わります。

Bluetooth 機能の起動方法

1 パソコン本体のワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション LED が点灯します。

2 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［Bluetooth］→［Bluetooth 設定］をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に［Bluetooth Manager］アイコン（ ）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
初めて起動したときは、［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が何度か表示されます。［いいえ、今回は接続しません］または［ソフトウェアを自動的にインストールする］をチェックし、画面に従って操作してください。
途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としませんので、［続行］ボタンをクリックして次の画面に進んでください。

［Bluetooth Manager］アイコン（ ）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の［注意］画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。
Bluetooth の電源が入っていない場合には、［Bluetooth Manager］アイコン（ ）を右クリックして表示されたメニューから、［パワー ON］を選択して電源を入れてください。

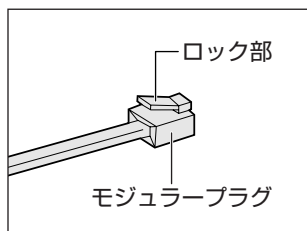
本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」がプレインストールされています。初めて Bluetooth を使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

『Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイド』では、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」について説明しています。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［Bluetooth］→［ユーザーズガイド］をクリックする

9 内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

モジュラーケーブルを差し込むまたははずすときは、モジュラープラグを持って行い、ケーブルは引っ張らないでください。また、はずすときは、モジュラープラグのロック部を押さえながら抜きます。
モジュラーケーブルはLANケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 5 技術基準適合について」を参照してください。
海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

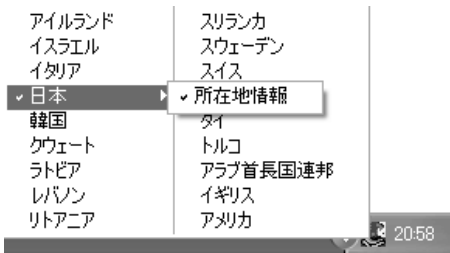
地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が通知領域に表示されます。

2 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。
上の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。

（表示例）

3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

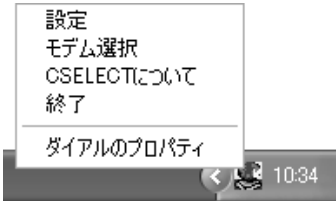
［地域名を選択した場合］

［新しい場所設定作成］画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、［電話とモデムのオプション］画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

［所在地情報名を選択した場合］

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

1 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する

【 設定 】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【 モデム選択 】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【 ダイアルのプロパティ 】

［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

4章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられる周辺機器の取り付けかたや各種設定について説明しています。

1 周辺機器について

周辺機器を使って、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。
周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。
周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。
- スタンバイ／休止状態中に周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

2 PC カードを使う

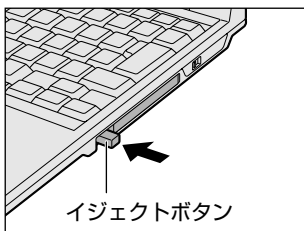
本製品のPCカードスロットでは、PC Card Standard 準拠のTYPE Ⅱ対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

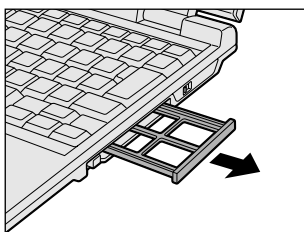
お願い

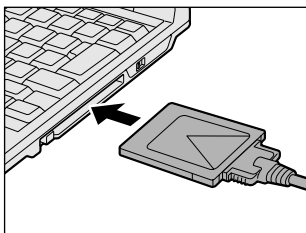
- 使用するPCカードが、パソコン本体の電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行えるかあらかじめ確認し、行えない場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

1 取り付け

1 ケーブルの接続が必要なときは、PCカードにケーブルを付ける

2 PCカードスロットのイジェクトボタンを2回押す

1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度カチッと音がするまで押してください。ダミーカードが出てきます。

3 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように保管してください。

4 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れることがあります。

参照 カードの接続および環境の設定方法『PC カードに付属の説明書』

2 取りはずし

お願い

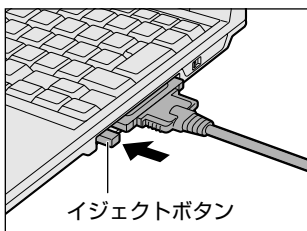
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

1 PC カードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす PC カード）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 PC カードスロットのイジェクトボタンを 2 回押す

1 回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう 1 度カチッと音がするまで押してください。カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く

熱くないことを確認してから行ってください。
カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納してください。

4 ダミーカードを挿入する

お願い

PC カードを取りはずした後はダミーカードを挿入してください。
ホコリやゴミなどが PC カードスロットに入り、故障するおそれがあります。

3 SDメモリカードを使う

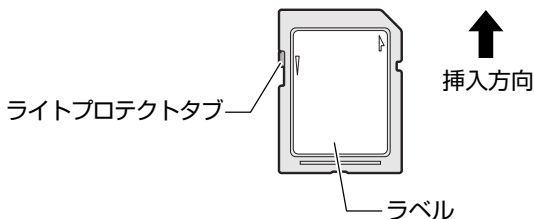
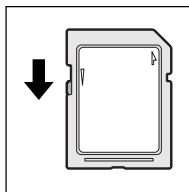
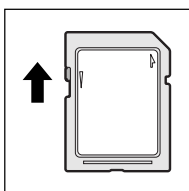
SDメモリカードをSDカードスロットに差し込んで使用できます。
本製品のSDカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。
またSDIOカードは、2005年2月現在、弊社製「Bluetooth™ SDカード3」と「Bluetooth™ SDカード2」のみ動作確認を行っております。これら以外のSDIOカードの動作保証はいたしません。

お願い **SDメモリカード、SDIOカードの使用にあたって**

- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIOカードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品*1を使用してください。その他のSDIOカードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

＊1　2005年2月現在、弊社製SDIOカード「Bluetooth™ SDカード3」(型番：PA3370N）と「Bluetooth™ SDカード2」(型番：PABSD001）のみ対応しています。

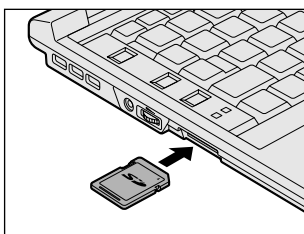
1 SDメモリカードについて

SDメモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。

書き込み禁止状態
ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。

書き込み可能状態
ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 セット

お願い

- SD Card LEDが点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
  データやSDメモリカードが壊れるおそれがあります。

1 SDメモリカードの表裏を確認し、表を上にして、SDカードスロットに挿入する

SDメモリカードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードが壊れたりするおそれがあります。

SDメモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。

参照 SD Card LED 「3章 1-1-システムインジケータ」

3 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす SD カード）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

4 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。

新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SD メモリカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows 上（［マイコンピュータ］画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝SDメモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

「東芝SDメモリカードフォーマット」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントのみ使用できます。

お願い

「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 SDメモリカードをセットする

2 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SDメモリカードフォーマット］をクリックする

3 ［ドライブ］で、SDメモリカードのドライブを選択し、必要に応じて［フォーマットオプション］でフォーマットの種類を設定する

- 簡易フォーマット
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- 完全フォーマット
  SDメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

4 ［スタート］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
「東芝 SD メモリカードフォーマット」を終了する場合は、［終了］ボタンをクリックしてください。

お願い SD メモリカードの取り扱い

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
  ゴミや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
  記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布でふいてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

4 USB対応機器を接続する

USB対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
パソコン本体背面のUSBコネクタに接続して使用できます。
本製品のUSBコネクタには、USB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

参照 USBコネクタの位置について「3章 1-2 背面図」

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす USB 対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されない USB 対応機器は、手順 1 の①〜③は必要ありません。

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

5 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイにデスクトップ画面を表示させることができます。
外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

参照 RGB コネクタの位置について「3 章 1-2 背面図」

取りはずすときは、パソコン本体の電源を切り、次に外部ディスプレイの電源を切った後、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

メモ

使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

1 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
- 外部ディスプレイだけに表示する

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

【 方法 1ー 画面のプロパティで設定する 】

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［ 画面］をクリックする

2 ［設定］タブで［詳細設定］ボタンをクリックする

3 ［Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver］タブで［グラフィックのプロパティ］ボタンをクリックする

4 ［デバイス］タブで表示する装置と形式を選択する

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
  ［ノートブック］アイコンをクリックする
- 外部ディスプレイだけに表示
  ［PC モニタ］アイコンをクリックする

● 同時表示

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイのそれぞれにデスクトップ画面を表示します。

① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする

② [プライマリデバイス] に [ノートブック]、[セカンダリデバイス] に [PC モニタ] と表示されていることを確認する

● 拡張表示

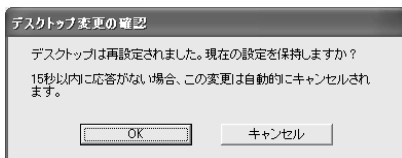
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイを 1 つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示している場合、[画面のプロパティ] から拡張表示を設定できません。Ctrl+Alt+F12 キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

① [拡張デスクトップ] アイコンをクリックする

② [プライマリデバイス] に [ノートブック]、[セカンダリデバイス] に [PC モニタ] と表示されていることを確認する

5 [OK] ボタンをクリックする

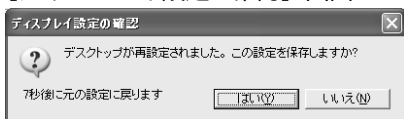
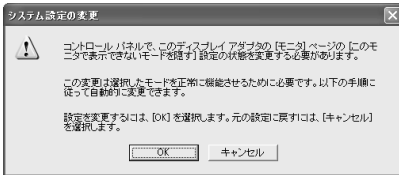
次の画面が表示されます。

6 [OK] ボタンをクリックする

7 [OK] ボタンをクリックする

8 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【 メッセージについて 】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [ディスプレイ設定の確認] 画面

- ［システム設定の変更］画面

- ［ディスプレイ設定］画面

【 方法 2ー Fn＋F5キーを使う 】

Fnキーを押したままF5キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。Fnキーを押したままF5キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、Fnキーを離すと表示装置が切り替わります。

- 表示装置を LCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

  現在の表示装置が LCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置を LCD に戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、Fn＋F5キーを３秒以上押し続けてください。
  表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、Fn＋F5キーを３秒以上押し続けてください。

- LCD .... 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD ／ CRT .... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT .... 外部ディスプレイだけに表示
  外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは［Windows のログオフ］画面で［ログオフ］を選択して切り替えてください。［ユーザーの切り替え］で切り替えた場合は、Fn＋F5キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切り替え『ヘルプとサポート センター』

「方法 1」で「拡張デスクトップ」に設定した場合は、Fn＋F5キーで表示装置を切り替えられません。「方法 1」の手順で表示装置を切り替えてください。

メモ

外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも、本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

2 ディスプレイ表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ビデオモードについて「付録 1-2 サポートしているビデオモード」

［Mobile Intel(R) 915GM/GME, 910GML Express Chipset Family のプロパティ］で本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示のとき、または本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの拡張表示のときに、サポートしていない画面モードが選択されてしまうときがあります。その際は、外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げて使用してください。

6 ヘッドホンを接続する

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。
① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

参照 ヘッドホン出力端子の位置について「3章 1-1 前面図」

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

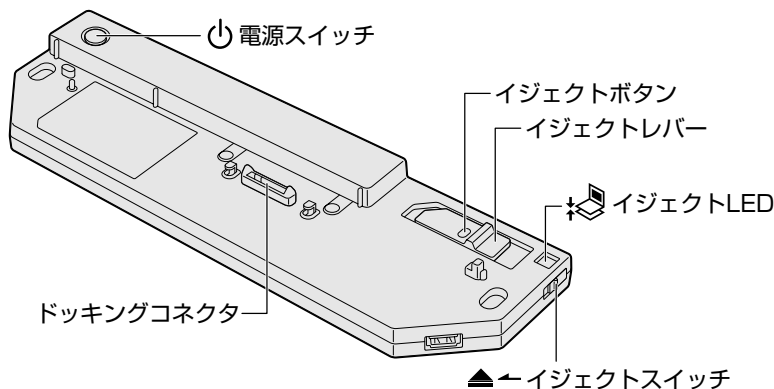
7 ポートリプリケータを接続する

本製品のドッキングポートに、別売りのスリムポートリプリケータ（型番：PASPR001）を接続することができます。ここではスリムポートリプリケータを「ポートリプリケータ」と呼びます。
ポートリプリケータには、さまざまな周辺機器を接続することができるため、パソコンの機能を広げることができます。ポートリプリケータの詳細は、『スリムポートリプリケータ取扱説明書』を参照してください。

1 接続する前に

接続する前に、ポートリプリケータについて説明します。

1 ポートリプリケータの各部の名前

ここでは、パソコン本体との接続に必要な部分のみを説明します。
詳細は、『スリムポートリプリケータ取扱説明書』を参照してください。

2 使用できるコネクタ

ポートリプリケータのうち、本製品に対応しているコネクタは、次のとおりです。
（　）内はコネクタの数です。

- USB コネクタ（4）
- RGB コネクタ
- LAN コネクタ

スリムポートリプリケータを接続すると、本体のLAN コネクタは使用できなくなりますのでスリムポートリプリケータのLAN コネクタを使用してください。この場合はFast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）対応となります。

② 接続／分離

パソコンとポートリプリケータの接続／分離について説明します。

お願い 操作にあたって

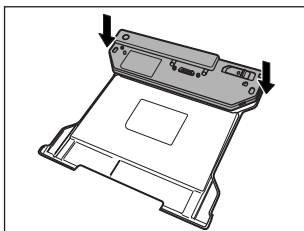
- ポートリプリケータは、電源を入れたままパソコン本体と接続／分離ができます。ただし、ポートリプリケータを接続／分離する前に、起動中のアプリケーションを終了させてください。
- パソコンにポートリプリケータを接続した状態では、パソコン本体の USB コネクタ、電源コネクタ、RGB コネクタ、LAN コネクタは使用しないでください。パソコン本体のコネクタとポートリプリケータのコネクタを同時に使用した場合、パソコン本体およびポートリプリケータの故障、またはデータを消失するおそれがあります。
- パソコンとポートリプリケータを接続するときは、それぞれのコネクタからケーブル類をすべて取りはずしてください。ケーブル類を取り付けたまま、パソコンとポートリプリケータを接続すると、コネクタ部分に無理な力が加わり、破損するおそれがあります。

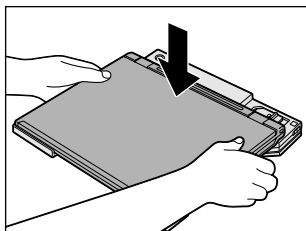
1 接続

1 パソコン本体に接続されている AC アダプタ、周辺機器、ケーブル類を取りはずす

2 パソコン本体のディスプレイを閉じる

3 ガイドプレートにポートリプリケータをセットする

ガイドプレートの形にあわせてセットしてください。

4 イジェクトレバーが中央（ ● ）にあることを確認する

5 ガイドプレート手前にパソコン本体の手前部分を合わせ、ゆっくりパソコン本体を矢印の方向に押し込む

6 イジェクトレバーをロック（🔒）側にスライドさせる

7 ポートリプリケータのコネクタに周辺機器、ケーブル類を接続する

8 パソコン本体またはポートリプリケータの電源スイッチを押す

パソコン本体が起動します。
電源コンセントを使用する場合は電源を切った状態で AC アダプタ、電源コードを接続してください。

お願い

- ガイドプレートとポートリプリケータは固定されていません。
パソコン本体を接続したまま移動する場合は、パソコン本体とガイドプレートをしっかりと持って移動してください。また移動するときは、接続している周辺機器、ケーブル類は取りはずしてください。

2 分離

パソコン本体をポートリプリケータから取りはずすときには、使用しているアプリケーションなどのプログラムをすべて終了させてください。

お願い 分離する前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失する可能性があります。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- イジェクト LED が点灯中は、ポートリプリケータを取りはずさないでください。

1 データを保存し、アプリケーションを終了させる

2 イジェクトスイッチをスライドさせる

次の手順からもポートリプリケータの使用を停止できます。

① [スタート] → [コンピュータの装着解除] をクリックし、表示された画面から [PC の取り外し] または [PC の取り外し後スリープ] をクリックする

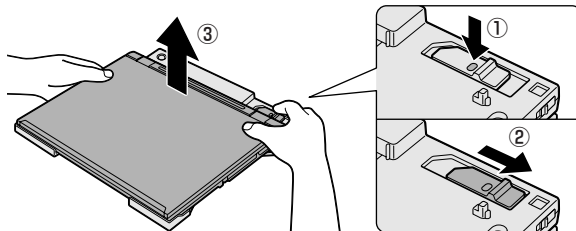
パソコン本体の電源を切ることで取りはずし可能な状態にすることもできます。

3 パソコン本体のディスプレイを閉じる

4 イジェクトLED が消えたことを確認する

5 イジェクトボタンを押しながら①、イジェクトレバーをアンロック側（ ⏏ ）にスライドさせて②、パソコン本体をポートリプリケータから取りはずす③

ポートリプリケータとガイドプレートは固定されていません。

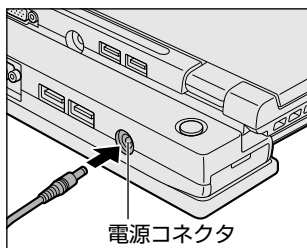
ポートリプリケータとガイドプレートの両方をしっかりおさえてパソコン本体を持ちあげてください。

3 AC アダプタをポートリプリケータに接続する

パソコン本体にポートリプリケータを接続した場合、ポートリプリケータに AC アダプタを接続して、電源の供給を行います。

⚠ 警 告

- 必ず、ポートリプリケータ付属の AC アダプタを使用してください。ポートリプリケータ付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（+）（−）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。指定外の AC アダプタの使用による損害について、当社では一切責任を負いません。
- ポートリプリケータにACアダプタを接続する場合、必ず下記の順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタのプラグをポートリプリケータまたはパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

1 AC アダプタに電源コードを接続する

2 AC アダプタのコードをポートリプリケータの電源コネクタに差し込む

3 電源コードのプラグをコンセントに差し込む

接続すると、パソコン本体の DC IN LED が青色に点灯し、ポートリプリケータに電源が供給されます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに1GBまでの増設メモリを取り付けることができます。

⚠ 警 告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注 意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。
仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が「ピー・ピッ」と鳴ります。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

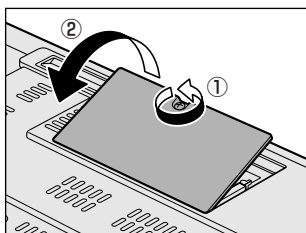
1 取り付け／取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

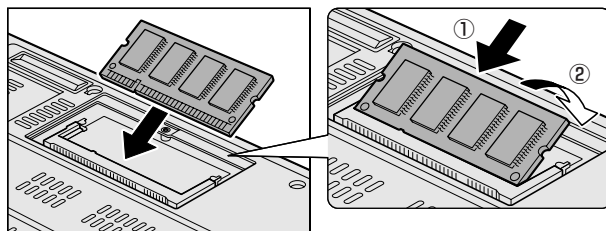
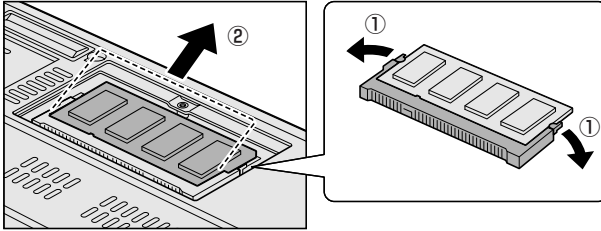
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックについて「5 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジをゆるめ①、増設メモリカバーをはずす②

5 増設メモリを取り付け、または取りはずす

- 取り付け

  増設メモリスロットのコネクタにあわせて斜めに挿入し①、固定するまで倒す②

  増設メモリの切れ込みを、コネクタのツメにあわせてしっかり差し込みます。フックがかかりにくいときには、ペン先などで広げてください。

● 取りはずし
増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリを取りはずす②
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順４でゆるめたネジ１本でとめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックについて「5章 1-❸ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

2 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】

① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
② [基本情報] タブで [メモリ] の数値を確認する

メインメモリがビデオRAMと共用のため、[基本情報] タブで表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

5章

バッテリ駆動

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定など、バッテリを使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
また、別売りのセカンドバッテリパックをご使用になると、より長い時間バッテリ駆動でお使いいただけます。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危 険

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝製バッテリ（TOSHIBA バッテリパック：PABAS063）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

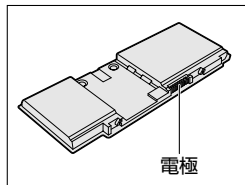
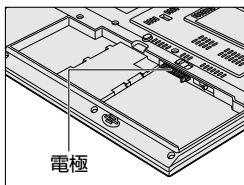
⚠ 警 告

- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注 意

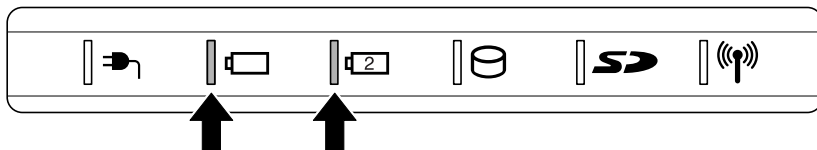
- バッテリパックの充電温度範囲内（5 ～ 35℃）で充電してください。
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
  バッテリパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1 度全バッテリを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

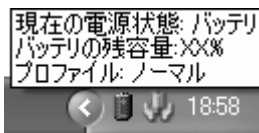
1 Battery LEDで確認する

AC アダプタを使用している場合、Battery LED が青色に点灯すれば充電完了です。また、セカンドバッテリパックを取り付けている場合は、セカンドバッテリ 2 LED が青色に点灯すれば充電完了です。

LED の色は次の状態を示しています。

青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・AC アダプタが接続されていない／バッテリ駆動で使用中 ・バッテリが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店またはお近くの保守サービスに連絡してください。

バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。

2 通知領域の［東芝省電力］アイコンで確認する

通知領域の［東芝省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LED や［東芝省電力］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に 1 度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について「本節 ❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する(バッテリの減少を示しています)
- バッテリのアラームが動作する
  「東芝省電力」の［アクション設定］タブの［アラーム設定］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
② 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える
購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続して電源を入れているとき（電源 ON 時）行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power LED が青色に点灯）	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

セカンドバッテリパックを取り付けている場合は、標準のバッテリパック→セカンドバッテリパックの順に充電されます。

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが青色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが青色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。
詳細は、別紙の『dynabook SS SXシリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S20シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 使用できる時間 】
バッテリパックは消耗品です。バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook SS SX シリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S20 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 使っていないときの充電保持時間 】
パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。
保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。
詳細は、別紙の『dynabook SS SX シリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S20 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヵ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
  その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる
電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5 分程度バッテリ駆動を行う
この間、Battery LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ
DC IN LED が青色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 **Battery LEDが青色になるまで充電する**

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 バッテリを節約する 】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 「2章3-❷ 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
  参照 「2章3-❸ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する 参照 「本章2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックを交換する

バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

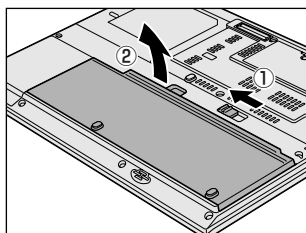
キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

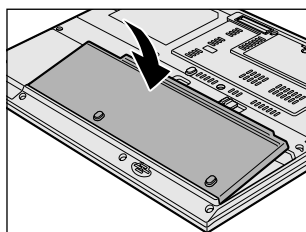
1 取りはずし／取り付け

1 **データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る**

2 **パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす**

3 **ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す**

4 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②

5 交換するバッテリパックを、カチッという音がするまで静かに差し込む

バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。
省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。
AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

2 ［ 東芝省電力］をクリックする

［東芝省電力のプロパティ］画面が表示されます。

（表示例）

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが ? に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

ヘルプの該当するページが表示されます。

2 東芝ピークシフトコントロール

＊ SS S20 シリーズのみ

1 東芝ピークシフトコントロールとは

「東芝ピークシフトコントロール」は、昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現する機能です。たとえば夏期の日中のように、電力使用のピーク時間帯には自動的に AC 電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に蓄えたノートパソコンのバッテリで動作させる電源管理機能で、環境への負荷低減に貢献することができます。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。
この機能を実現するには、「東芝ピークシフトコントロール」のインストールが必要です。

使用方法については、『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』またはヘルプを参照してください。

2 「東芝ピークシフトコントロール」のインストール方法

「東芝ピークシフトコントロール」のインストール方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［東芝ユーティリティ］タブをクリックする

4 画面左側の［東芝ピークシフトコントロール］をクリックし、［「東芝ピークシフトコントロール」のセットアップ］をクリックする

5 画面の指示に従ってインストールする

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

3 PDFマニュアルのインストール方法

『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』（PDF マニュアル）のインストール方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

［東芝ユーティリティ］タブの［東芝ピークシフトコントロール］に用意されています。

4 PDFマニュアルの起動方法

『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』（PDF マニュアル）の起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［東芝ピークシフトコントロール取扱説明書］をクリックする

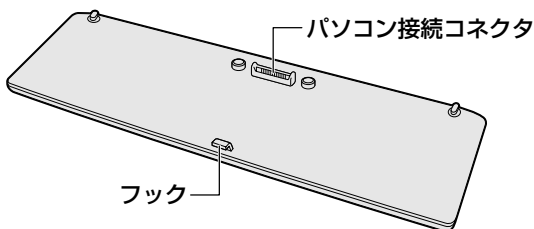
5 ヘルプの起動方法

ヘルプの起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ピークシフトコントロールヘルプ］をクリックする

3 セカンドバッテリパックを使う

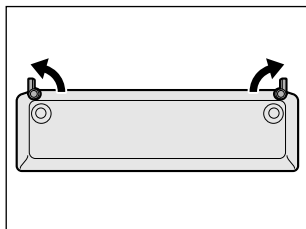
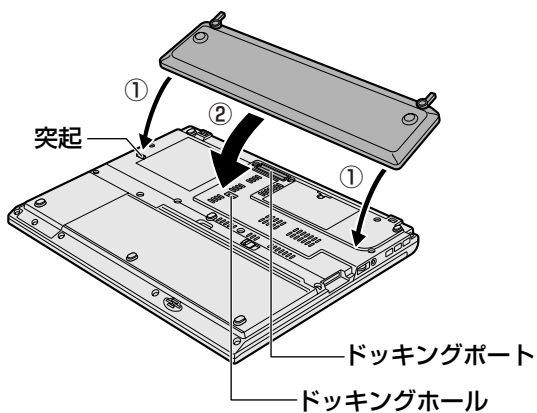
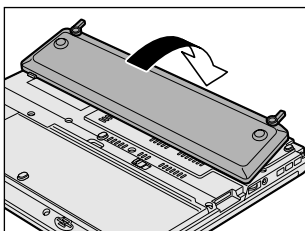
本製品のドッキングポートに別売りのセカンドバッテリパックを取り付けて、標準バッテリパックと同時に使用することにより、長時間バッテリ駆動で使用することができます。
充電方法、充電時間、バッテリでの使用時間については、標準バッテリパックとあわせて説明していますので、「本章 1 バッテリについて」をご覧ください。

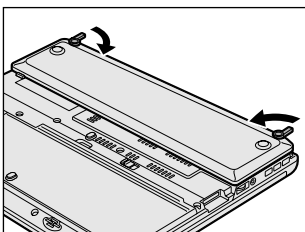
⚠ 注 意

- バッテリパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

1 取り付け

1 **パソコン本体の電源を切り、AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす**

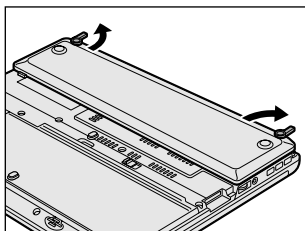
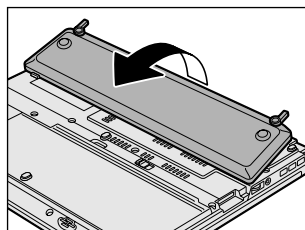
2 **パソコン本体とセカンドバッテリパックを裏返す**

3 **セカンドバッテリパックの左右のレバーを垂直に起こす**

4 パソコン本体の突起にセカンドバッテリパックをあわせ①、中央のドッキングホールにセカンドバッテリパック中央のフックをかける②

5 セカンドバッテリパックを矢印の向きに倒す

セカンドバッテリパックがドッキングポートにはまります。

6 セカンドバッテリパックのレバーを元の位置に戻し、パソコン本体に固定する

2 取りはずし

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす

2 パソコン本体とセカンドバッテリパックを裏返す

3 セカンドバッテリパックの左右のレバーを矢印の方向に起こす

4 セカンドバッテリパックを矢印の方向に引き上げ、パソコン本体から取りはずす

メモ

- パソコン本体にポートリプリケータを取り付けた状態でセカンドバッテリ充電アダプタを接続すると、セカンドバッテリパックを充電できます。

  参照 詳細について『スリムポートリプリケータ取扱説明書』

- パソコン本体にセカンドバッテリパックを取り付けているときは、ポートリプリケータを使用できません。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。
通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照 「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 「本章 4-❶ ユーザパスワード」
	スーパーバイザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 「本章 4-❷ スーパーバイザパスワード」
省電力の設定		「東芝省電力」 参照 「5 章 2 省電力の設定をする」

BIOS セットアップについては「本章 3 BIOS セットアップを使う」を参照してください。

2 東芝HWセットアップを使う

「東芝HWセットアップ」は、BIOSセットアップと連動してWindows上でハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。
パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［ 東芝HWセットアップ］をクリックする

2 設定項目

■［全般］タブ■

BIOSセットアップのバージョンと日付などを表示します。

【［標準設定］ボタン】

東芝HWセットアップの設定が購入時の状態に戻ります。

【［バージョン情報］ボタン】

東芝HWセットアップのバージョン情報を表示します。

■［デバイスの設定］タブ■

パソコンが起動したときにBIOSセットアップが初期化する装置を指定します。

【デバイスの設定】

- 全デバイス設定
  すべての装置を初期化します。
- OSによる設定（標準値）
  システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

【PCI Expressの省電力機能】

PCI Expressの省電力機能を設定します。

- 無効
  省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
- 有効
  PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

- オート
  バッテリ動作中で、かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

■［ディスプレイ］タブ■

起動時のWindowsロゴを表示する装置を選択します。

【 起動時の表示装置 】

- 自動選択（標準値）
  システム起動時に、外部ディスプレイが接続されている場合は、外部ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部ディスプレイが接続されていない場合は、本体液晶ディスプレイに表示します。
- 内部LCD/アナログRGB同時表示
  システム起動時に、外部ディスプレイ（アナログRGB）が接続されている場合は、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの両方に表示します。

参照 外部ディスプレイの接続「4章 5 外部ディスプレイを接続する」

■［CPU］タブ■

CPUについて設定します。

【 CPU周波数の設定 】

- ダイナミック切替モード（標準値）
  CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- 常時高速モード
  CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
- 常時標準モード
  CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリ駆動時間を優先します。

■［OSの起動］タブ■

パソコンの起動について設定します。

【 OSの起動 】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は［HDD→FDD→CD-ROM→LAN］に設定してください。

「FDD」では、別売りのフロッピーディスクドライブを接続していない場合、SDメモリカードが起動します。

参照 SDメモリカードの起動ディスクについて
「2章 1-3- SDメモリカードから起動する」

【 HDDの起動 】

「USBメモリのBIOSサポートタイプ設定」で［HDD］を選択した場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD→USB（標準値）
  内蔵ハードディスク→USBメモリの順で起動します。
- USB→Built-in HDD
  USBメモリ→内蔵ハードディスクの順で起動します。

【 USBメモリのBIOSサポートタイプ設定 】

コンピュータの起動に使用するUSBメモリに関する設定をします。

- [HDD]
  USBメモリをHDDとして扱います。起動するドライブとしての優先順位は、[OSの起動]でのHDDの順位になります。他のHDDとの優先順位は、[HDDの起動]で設定できます。
- [FDD]
  USBメモリをFDDとして扱います。起動するドライブとしての優先順位は、[OSの起動]でのFDDの順位になります。

■［キーボード］タブ■

【 キーボードによるスタンバイ復帰 】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

- 有効にする
- 無効にする（標準値）

■［USB］タブ■

USB対応機器について設定します。
レガシーサポートを行うと、ドライバが必要なUSB対応機器でもドライバなしで使用できます。

【 USB キーボード／マウス レガシーサポート 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）
  レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。
- 無効にする
  レガシーサポートを行いません。

【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）
  レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- 無効にする
  レガシーサポートを行いません。

■［LAN］タブ ■

LAN 機能について設定します。

【 LAN のウェイクアップ 】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。
LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

ヘルプの起動方法

1. 「東芝 HW セットアップ」を起動後、画面右上の ? をクリックする
   ポインタが ?に変わります。
2. 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
  BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティでの設定が異なる場合、Windows 上のユーティリティでの設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 Esc キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、Enter キーを押してください。

参照 ユーザパスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

6章 システム環境の変更

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 Fn＋→キーを押す

本製品では、Fn＋→がEndキーの機能を持ちます。
「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 Escキーを押す

「Exit without saving? (Y/N)」と表示されます。

2 Yキーを押す

BIOS セットアップが終了します。

2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の２つの画面があります。

＊１ SS S20 シリーズのみ表示されます。

（注）画面は標準設定値の表示例です。

設定項目の詳細について 「本節 ❸ 設定項目」

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	↑ 、↓ 、←、→ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	SpaceまたはBackSpace
画面を切り替える	Fn＋↓またはFn＋↑ 本製品では、Fn＋↓がPgDnキー、Fn＋↑がPgUpキーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	Fn＋← 本製品では、Fn＋←がHomeキーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORYーメモリ容量を表示する

【 Total 】
本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIMEー日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定はSpaceまたはBackSpaceキーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、↑↓キーで行います。

【 Date 】
日付を設定します。

【 Time 】
時刻を設定します。

3 BATTERYーバッテリで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power（標準値）	●User Setting（設定例）	●Low Power
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Bright*1 Super-Bright*2	LCD Brightness = Semi-Bright	LCD Brightness = Semi-Bright*1 Bright*2
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

（注）LCD Brightness（LCD輝度）の表示は次の状態で変わります。
＊1　バッテリ駆動時
＊2　ACアダプタ接続時

「User Setting」で「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑ ↓キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed
処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
・High........................... 処理速度を高速に設定する
・Low............................ 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode
CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。
・Enabled.................... 電力消費を低減する
・Disabled.................. 電力消費を低減しない

● LCD Brightness（LCD輝度）
画面の明るさを選択します。
・Super-Bright........... 最高輝度に設定する
・Bright........................ 高輝度に設定する
・Semi-Bright............ 低輝度に設定する

● Cooling Method（CPU 熱制御方式）
CPU の熱を冷ます方式を選択します。
CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。
・Maximum Performance ... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
・Performance .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、［Maximum Performance］と［Battery Optimized］の中間的な方法で冷却します。
・Battery Optimized .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPU の処理速度を落として冷却します。［Performance］より消費電力は少なくなります。

【 PCI Express Link ASPM 】

PCI Express の省電力機能を設定します。
・Auto（標準値）......... バッテリ動作中かつ PCI Express デバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。
・Disabled .... 省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
・Enabled .... PCI Express デバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

4 PASSWORDーユーザパスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう 1 度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

ユーザパスワードが設定されているときに表示されます。

参照 ユーザパスワードの設定方法「本章 4-❶ ユーザパスワード」

5 HDD PASSWORD―HDDパスワードの登録／削除をする

＊ SS S20シリーズのみ

【 HDD 】

パスワードを設定するハードディスクです。

・Built-in HDD .... 内蔵ハードディスクに設定されます。

【 HDD Password Mode 】

登録するHDDパスワードを選択します。HDDパスワード（ユーザHDDパスワード、マスタHDDパスワード）を登録していないときのみ、選択できます。HDDパスワードが登録されている場合は、いったんHDDパスワードを削除してから選択してください。

・User Only（標準値）.......... ユーザHDDパスワードのみ設定する
・Master+User..................... マスタHDDパスワードとユーザHDDパスワードを設定する

【 User Password 】

ユーザHDDパスワードを設定します。

【 Master Password 】

マスタHDDパスワードを設定します。
「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。
マスタHDDパスワードを設定し、続けてユーザHDDパスワードの設定を行います。

参照 HDDパスワードの設定方法「本章 4-❸ HDDパスワード」

6 BOOT PRIORITY―ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD→FDD→CD-ROM→LAN」に設定してください。

・HDD→FDD→CD-ROM→LAN（標準値）
・FDD→HDD→CD-ROM→LAN
・HDD→CD-ROM→LAN→FDD
・FDD→CD-ROM→LAN→HDD
・CD-ROM→LAN→HDD→FDD
・CD-ROM→LAN→FDD→HDD

（FDD→HDD→CD-ROM→LAN 以下の項目）――指定のドライブ順に起動する

「FDD」では、別売りのフロッピーディスクドライブを接続していない場合、SD メモリカードが起動します。

参照 SD メモリカードの起動ディスクについて
「2 章 1-3- SD メモリカードから起動する」

【 HDD Priority 】

「USB Memory BIOS Support Type」で HDD を選択した場合に、システムを起動する順番を設定します。

・Built-in HDD → USB（標準値）
.... 内蔵ハードディスク→ USB メモリの順で起動する
・USB → Built-in HDD
.... USB メモリ→内蔵ハードディスクの順で起動する

7 DISPLAY ― 表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する装置を選択します。

・Auto-Selected（標準値）.... システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
・LCD ＋ Analog RGB .... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD ＋ Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

【 LCD Display Stretch 】

本体液晶ディスプレイの表示機能を選択します。

・Enabled（標準値）... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
・Disabled .... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

8 OTHERSーその他の設定をする

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

・Dynamically Switchable（標準値）... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
・Always High .... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
・Always Low .... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリ駆動時間を優先します。

【 Execute-Disable Bit Capability 】

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を有効にするかどうかを設定します。エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピュータウイルスや不正アクセスによるバッファ・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

・Available .... 有効にする
・Not Available（標準値）... 無効にする

【 Auto Power On（タイマ・オン機能）】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。
Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

・Disabled（標準値）... タイマ・オン機能が設定されていない
・Enabled .... タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

● Alarm Time
自動的に電源を入れる時間を設定します。
・Disabled .... 時間を設定しない

● Alarm Date Option
自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。
・Disabled .... 月日を設定しない

● Wake-up on LAN
ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
⑯「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。
Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。
・Enabled .... Wake up on LAN 機能を使用する
・Disabled（標準値）... Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Diagnostic Mode 】
BIOS のハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。
・Disabled（標準値）... ハードウェア診断テスト機能を無効にする
・Enabled .... ハードウェア診断テスト機能を有効にする

9 CONFIGURATION

【 Device Config. 】
ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。
・Setup by OS（標準値）... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
・All Devices........................ すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。

10 DRIVES I/O ー HDD の設定

【 Built-in HDD 】
ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

11 PCI BUSーPCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】
PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

12 SECURITY CONTROLLER

【 TPM 】

TPM（Trusted Platform Module）を有効にするかどうかの設定をします。

・Disabled（標準値）... TPM を有効にしない
・Enabled .... TPM を有効にする

設定を変更するには、次のように操作してください。

①カーソルバーを「TPM」の「Disabled」または「Enabled」に合わせ、Space またはBackSpaceキーを押す
画面下部に「Save changes to Security Controller now? (Y/N)」と表示されます。

②Yキーを押す
設定が変更されます。

【 Clear TPM Owner 】

「TPM」で「Enabled」に設定した場合のみ、表示されます。
所有者登録とユーザ登録を削除します。
本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPM の使用を中止する場合に行ってください。

①カーソルバーを［Clear TPM Owner］に合わせ、SpaceまたはBackSpaceキーを押す
画面下部に「Press a key in the turn of [Y], [E], [S] and [Enter].」と表示されます。

②「YES」と入力し（YESキーを押す）、Enterキーを押す
「TPM」の設定が「Enabled」から「Disabled」に変更され、「Clear TPM Owner」は表示されなくなります。

お願い

● 所有者登録とユーザ登録を削除すると、TPM に関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザが「SECURITY CONTROLLER」を操作できないように設定することをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書
6 東芝パスワードユーティリティ』

● 所有者登録とユーザ登録を削除した後に、TPMの使用を再開する場合は、もう 1 度 TPM へ所有者登録やユーザ登録を行う必要があります。

13 PERIPHERAL－HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

・Enabled（標準値）............. 使用する
・Disabled .... 使用しない

14 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／ USB マウスが使用できます。
・Disabled .... レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

・Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
・Disabled .... レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD→FDD→CD-ROM→LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

参照 「BOOT PRIORITY」について 「本項 6 BOOT PRIORITY」

【 USB Memory BIOS Support Type 】

コンピュータの起動に使用する USB メモリに関する設定をします。

・HDD（標準値）......... USB メモリを HDD として扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での HDD の順位になります。他の HDD との優先順位は、「HDD Priority」で設定できます。
・FDD .... USB メモリを FDD として扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での FDD の順位になります。

15 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Enabled（標準値）... 有効にする
・Disabled .... 無効にする

4 パスワードセキュリティ

本製品では、次のパスワードを登録できます。

- Windows のログオンパスワード
  Windows にログオンするときに使用します。また、インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するときにも使用します。

  参照 インスタントセキュリティ機能
  「3章 2-❷- Fnキーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード／スーパーバイザパスワード
  電源を入れたときや東芝パスワードユーティリティを起動して設定するときに使用します。通常はユーザパスワードを登録してください。
  スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかの制限を加えることができます。
  この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

- HDD パスワード
  ＊ SS S20 シリーズのみ

  ハードディスクを起動するときに使用します。

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードや HDD パスワードの登録方法と、トークン＊1 の作成方法について説明します。

＊1 パスワードの代わりに使用できる SD メモリカードです。

メモ

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。

パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

お願い

パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。HDD パスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。

登録したいパスワードを入力するときには、パスワードの文字列をASCIIコード入力や、クリップボードから貼り付けたりせずに、キーボードから文字を入力してください。また登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 ユーザパスワードの登録

東芝パスワードユーティリティでの登録

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

2 ［登録］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの登録］画面が表示されます。

3 ［入力］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。
入力したパスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	− ！ @ < > ； ： ， ． （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・記号の一部（半角） 【例】｜（バーチカルライン）、＿（アンダーバー）、￥（エン）など	

入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。
メッセージの内容に従って、もう1度パスワードを入力してください。

4 ［確認入力］に手順３で入力したパスワードをもう１度入力する

5 ［登録］ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順３から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。
このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

6 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

7 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。
① メディアをセットする
② ［保存する場所］で保存先を選択する
③ ［ファイル名］にファイル名を入力する
④ ［保存］ボタンをクリックする

8 必要に応じて、［パスワードの注釈］を入力する

［パスワードの注釈］にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パソコンの電源を入れてパスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
設定できる文字数は511文字以内、使用できる文字列はユーザパスワードと同様です。
パスワード文字列そのものを登録しないでください。

お願い

パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

【 トークンの作成 】

トークンとは、パスワードの代わりに使用することができるSDメモリカードです。トークンは、ユーザアカウントをコンピュータの管理者に設定しているユーザのみ作成できます。
トークンを作成するには、フォーマット済みのSDメモリカードが必要です。あらかじめ用意しておいてください。また、一部のフォーマット形式には対応しておりません。対応していないSDメモリカードをセットした場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、別のSDメモリカードを使用するか、「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットしてください。

参照 SDメモリカードのフォーマット
「4章 3-4 SDメモリカードのフォーマット」

トークンの作成は、パスワードを登録済みの場合のみ行えます。あらかじめパスワードを登録しておいてください。

1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について 「本項 4 ユーザパスワードの入力」

2 ［作成］ボタンをクリックする

3 表示されたメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

［トークンの作成認証］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について 「本項 4 ユーザパスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。
［ユーザトークンの作成］画面が表示されます。

4 SDメモリカードをセットする

5 ［SDカードのドライブ］でSDメモリカードのドライブを選択する

6 ［作成］ボタンをクリックする

7 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

トークンが作成されます。SDカードスロットからSDメモリカードを取り出して、保管してください。

お願い

トークンで認証した後は、忘れずにSDカードスロットからSDメモリカードを抜き、安全な場所に保管してください。

BIOSセットアップでの登録

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

4 (Enter)キーを押す

パスワードが確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

5 もう1度パスワードを入力する

確認のため、手順3と同じパスワードをもう1度入力してください。

6 (Enter)キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

【 BIOSセットアップの終了方法 】

BIOSセットアップの終了方法は、次のとおりです。

1 (Fn)+(→)キーを押す

本製品では、(Fn)+(→)が(End)キーの機能を持ちます。

「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。

2 (Y)キーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。

2 ユーザパスワードの登録

東芝パスワードユーティリティでの削除

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について「本項 4 ユーザパスワードの入力」

2 ［削除］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの削除］画面が表示されます。

3 ［削除］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの削除認証］画面が表示されます。パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について 「本項 4 ユーザパスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。

4 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

BIOS セットアップでの削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 Enterキーを押す

ここでは何も入力しません。
「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 Enter キーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます
手順３で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順３からやり直してください。

入力エラーが３回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう１度設定を行ってください。

BIOS セットアップの終了方法は、「本項 1- BIOS セットアップの終了方法」を確認してください。

3 ユーザパスワードの変更

東芝パスワードユーティリティでの変更

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について「本項 4 ユーザパスワードの入力」

2 ［変更］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの変更］画面が表示されます。

3 ［入力］に新しいパスワードを入力する

4 ［確認入力］に手順３で入力したパスワードをもう１度入力する

5 ［変更］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの変更認証］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。
ここでは、まだパスワードは変更されておりませんので、今回手順３、４で入力したものではなく、登録済みのパスワードまたはトークンを使用してください。

参照 認証について「本項 4 ユーザパスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティを起動したときと同じユーザ権限で行ってください。

6 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

パスワードファイルの作成方法は、「本項 1- 東芝パスワードユーティリティでの登録」の手順 7 を確認してください。

BIOS セットアップでの変更

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「Password」の「Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、Enterキーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順５で入力したパスワードをもう１度入力し、Enterキーを押す

パスワードが変更されます。

手順５と手順６で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順５からやり直してください。

BIOS セットアップの終了方法は、「本項 1- BIOS セットアップの終了方法」を確認してください。

4 ユーザパスワードの入力

パスワードの代わりにトークンを使うこともできます。

電源を入れたとき

ユーザパスワードを登録している場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。
次の方法でパソコン本体を起動できます。

【 パスワードを入力する 】

1 登録したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

【 トークンを使う 】

1 トークンをセットする

あらかじめトークンをセットしておいてから電源を入れると、自動的にパスワードが解除されます。

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。
トークンでの認証は、ユーザアカウントをコンピュータの管理者に設定しているユーザのみ行うことができます。

【 パスワードを入力する 】

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

2 ［確認］ボタンをクリックする

【 トークンを使う 】

1 認証を求める画面が表示されたら、トークンをセットする

パスワードを忘れてしまった場合

ユーザ／スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- パスワードファイルを確認する
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。
- トークンを使用して登録したパスワードを解除する

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。
パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

2 スーパーバイザパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの登録や登録内容の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

メモ

- 先にユーザパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザパスワードの登録はできません。スーパーバイザパスワードとユーザパスワードを両方登録する場合は、1 度ユーザパスワードを削除し、スーパーバイザパスワードを登録してからもう 1 度ユーザパスワードを登録してください。
- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- スーパーバイザパスワードを設定している状態で、F12 キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［HW セットアップ／BIOS セットアップの使用を許可する］のチェックをはずさないでください。
  チェックをはずしていると、F12 キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

参照 F12 キーで起動ドライブを変更する方法
「2 章 1-3 起動するドライブを変更する場合」

起動方法

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool ¥TOSPU.EXE」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードを登録している場合はパスワードまたはトークンで認証を行ってください。

4 ［スーパーバイザパスワード］タブをクリックする

操作方法

【 登録、削除、変更 】

スーパーバイザパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザパスワードの設定方法と同様です。
ユーザパスワードの設定を確認してください。

参照 ユーザパスワード「本節 ❶ ユーザパスワード」

なお、スーパーバイザパスワードを削除すると、ユーザパスワードも同時に削除されます。

【 一般ユーザの操作を制限する 】

スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは「東芝 HW セットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

1 スーパーバイザパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 ❶-4 ユーザパスワードの入力」

2 ［スーパーバイザパスワード］タブで［ユーザポリシー］の［変更］ボタンをクリックする

［ユーザポリシーの設定］画面が表示されます。

3 操作を許可する項目をチェックする

4 ［設定］ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

［ユーザポリシーの設定認証］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 「本節 ❶-4 ユーザパスワードの入力」

認証は、コンピュータの管理者の権限で行ってください。

6 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

3 HDD パスワード

＊ SS S20 シリーズのみ

HDD パスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDD パスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOS セットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有償での交換となります。
ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。
HDD パスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDD パスワードは、ユーザ HDD パスワードとマスタ HDD パスワードの 2 つを設定することが可能です。

【 ユーザ HDD パスワード 】

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
マスタ HDD パスワードを削除すると、同時にユーザ HDD パスワードも削除されます。

【 マスタ HDD パスワード 】

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
マスタ HDD パスワードはユーザ HDD パスワードの代わりに使えます。ユーザ HDD パスワードを忘れた場合でも、マスタ HDD パスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。マスタ HDD パスワードを使用してユーザ HDD パスワードを変更することもできます。
なお、マスタ HDD パスワードのみを登録することはできません。

組織などでマスタ HDD パスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者が BIOS セットアップでマスタ HDD パスワードと仮のユーザ HDD パスワードを設定しておく必要があります。

ユーザ HDD パスワードとマスタ HDD パスワードの設定方法は同じです。以降は、ユーザ HDD パスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

マスタ HDD パスワード（Master Password）の項目は、「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。
マスタ HDD パスワードを設定し、続けてユーザ HDD パスワードの設定を行います。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、ユーザパスワードの場合と同様です。

参照 ユーザパスワードに使用できる文字
「本節 ❶-1- 東芝パスワードユーティリティでの登録」

パスワードは1文字ごとに＊が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 Enterキーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

5 パスワードを入力する

確認のため、手順3と同じパスワードをもう1度入力してください。

6 Enterキーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 ❶-1- BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

4 HDDパスワードの削除

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SpaceまたはBackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。

5 Enterキーを押す

ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 Enterキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます
手順３で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順３からやり直してください。

「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。
ユーザHDDパスワードのみを削除することはできません。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 ❶-1- BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

5 HDDパスワードの変更

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SpaceまたはBackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると１文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順３で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順３からやり直してください。

5 新しいパスワードを入力し、Enterキーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 手順５で入力したパスワードをもう１度入力し、Enterキーを押す

パスワードが変更されます。
手順５と手順６で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順５からやり直してください。

「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合は、手順３でユーザHDDパスワードを入力してください。またはユーザHDDパスワードの代わりに、マスタHDDパスワードを入力することもできます。この場合、マスタHDDパスワード

を使ってユーザHDDパスワードを変更することができます。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 ❶-1- BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「Built-in HDD Password =」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、ハードディスクドライブ以外のドライブが起動します。ハードディスクドライブ以外のドライブにシステムが入っているメディアがセットされていない場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

5 指紋認証を使う

本製品には指紋センサと「指紋認証ユーティリティ」が用意されています。
ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、登録した指紋の持ち主しかパソコンを使用できないように設定できる機能です。
キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサ上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- スクリーンセーバ解除
  ［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバ］タブで、「再開時にようこそ画面に戻る」をチェックしてある場合に実行できます。
- スタンバイからの復帰
  ［東芝省電力］の［アクション設定］タブで、「スタンバイ / 休止状態復帰時にパスワードを求める」の「する」をチェックしてある場合に実行できます。

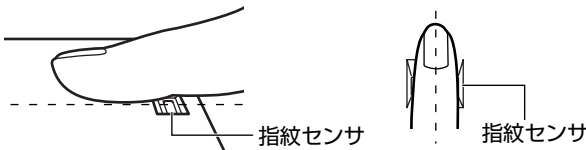
また、「指紋認証ユーティリティ」には、ファイル暗号化機能や、インターネットのホームページでパスワードを簡単に指紋認証で入力する機能があります。詳しくは「指紋認証ユーティリティ取扱説明書」を参照してください。

お願い **操作する前に**

指紋センサは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサ表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取扱いは故障の原因となります。
  ・指紋センサ表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
  ・指紋センサ表面を強く押す
  ・濡れた手で指紋センサ表面をさわる
  ・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた汚れた手で指紋センサ表面をさわる
  ・指紋センサ表面にシールなどをはる
  ・指紋センサ表面を静電気を帯びた手や布などでさわる

お願い 操作にあたって

- 指紋センサをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取ってから使う。
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてから使う。特に空気が乾燥する冬場には注意する。
- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次の点をお守りください。
  - ・けがをしている指では登録しない。
  - ・指がふやけた状態では登録しない。
  - ・手が荒れた状態では登録しない。
  - ・指が汚れた状態では登録しない。指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録する。
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサの表面がよごれていないか、確認する。よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使う。
    指紋センサ表面は強くこすらない。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する。傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、他の指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意してください。
    - ・指と指紋センサが平行になるように指を置く。
    - ・指紋センサと指の中央を合わせる。
    - ・指紋センサの上に第一関節がくるように置く。
    - ・スライドするときにはゆっくりと一定のはやさでスライドさせる。それでも認識されない場合は、はやさを調整する。

- その他
  - ・指紋の認識率には、個人差があります。
  - ・指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

② Windows ログオンパスワードを設定する

Winsows のセットアップ終了後、または新たに Windows のユーザアカウントを作成しそのユーザでログオン後、メッセージ画面が表示されます。［登録］ボタンをクリックし、画面の指示に従って操作すると、指紋を登録できます。

参照 詳細について「本節 ❸ 指紋を登録する」

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、Windows ログオンパスワードを設定しておく必要があります。Windows ログオンパスワードを設定していない場合は、次の手順で設定してください。
すでに Windows ログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 ❸ 指紋を登録する」に進んでください。

1 設定方法

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ユーザーアカウント］をクリックする

Office が搭載されていない場合、「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順４へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順５へ進んでください。

3 ［ ユーザーアカウント］をクリックする

Office 搭載モデルの場合、「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順４へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順５へ進んでください。

4 パスワードを設定するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする

5 ［パスワードを作成する］をクリックする

［アカウントのパスワードを作成します］画面が表示されます。

6 ［新しいパスワードの入力］にパスワードを入力する

パスワードは半角英数字で、127 文字まで入力できます。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。入力した文字は「●●●●」で表示されます。指紋認証の利便性、安全性のメリットを生かすために、より長いパスワードを設定してください。登録されたパスワードは、忘れたときのために必ず控えておき、安全な場所に保管してください。

7 (TAB)キーを押す

カーソルが［新しいパスワードの確認入力］に移動します。

8 もう 1 度パスワードを入力する

必要であれば、パスワードを忘れたときにパスワードのヒントになる語句を［パスワードのヒントとして使う単語や語句の入力］欄に入力してください。

9 ［パスワードの作成］ボタンをクリックする

10「コンピュータの管理者アカウント」のユーザで［ファイルやフォルダを個人用にしますか？］画面が表示された場合は、［はい、個人用にします］ボタンをクリックする

ファイルやフォルダを共有する場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。

3 指紋を登録する

Windows ログオンパスワードを設定したら、「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本の指を登録してください。

1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザ登録を行います。ユーザ登録では、Windows のユーザアカウントとそのパスワードを登録した後、そのユーザアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。また、登録した Windows のパスワードは、「指紋認証ユーティリティ」の各種機能を使用するためのマスタパスワードとしても使用します。

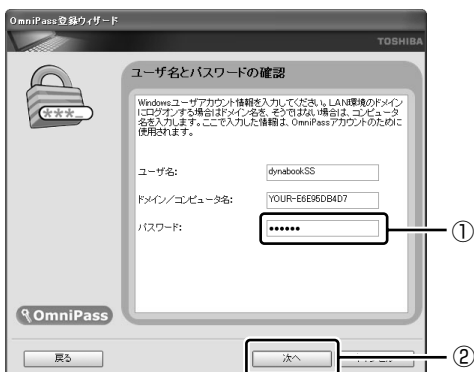
1 指紋を登録するユーザアカウントでログオンする

2 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Softex］→［OmniPass 登録ウィザード］をクリックする

OmniPass 登録ウィザードが起動します。

3 ［登録］ボタンをクリックする

［ユーザ名とパスワードの確認］画面が表示されます。

4 ［パスワード］欄に Windows ログオンパスワードを入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

ここで入力した Windows ログオンパスワードが、「指紋認証ユーティリティ」に対するマスタパスワードになります。

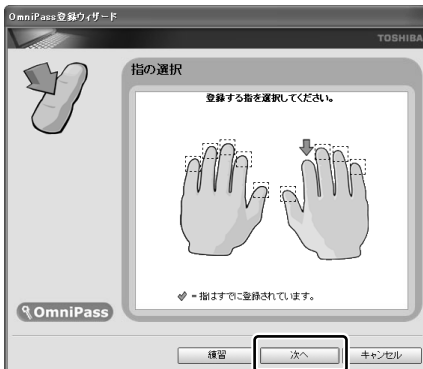
［指の選択］画面が表示されます。

TPM を有効にしている場合、［認証デバイスの選択］画面が表示されます。ここでは［Authentec 指紋ドライバ］を選択した場合について説明します。

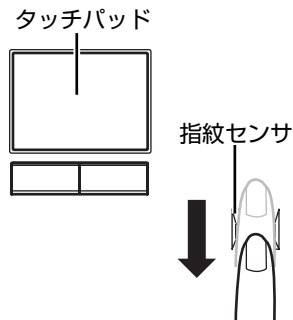
参照 指紋認証ユーティリティと TPM について
『指紋認証ユーティリティ取扱説明書』

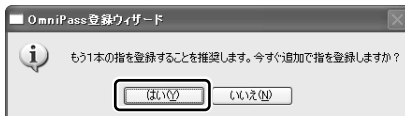
5 画面に表示されている手のイラスト上で、登録したい指をクリックする

選択した指を示す、矢印が表示されます。
初めて登録する場合は、［練習］ボタンをクリックして表示される画面で練習することをおすすめします。

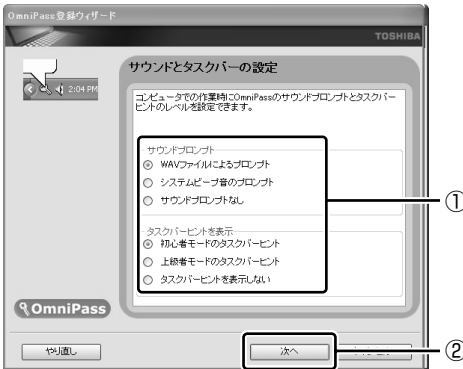
6 ［次へ］ボタンをクリックする

［指紋の取得］画面が表示されます。

7 タッチパッドの右にある指紋センサに登録したい指を軽くのせ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
指紋は3回認識させた後、確認としてもう1回認識させます。
指を動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合、画面にメッセージが表示されます。メッセージに従って、指を動かしてください。
読み取られなかった場合は、指紋が赤色で画面に表示されますので、もう一度認識させてください。指紋が正常に読み取られると、[確認は成功しました] 画面が表示され、指紋が緑色で画面に表示されます。
1本目の指の登録の場合は手順8へ、2本目の指の登録の場合は手順10へ進んでください。

8 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

必ず2本の指を登録してください。

9 手順5から手順7を実行する

TPMを有効にしている場合、2本目の指を認識させた後、[デバイスの保存完了] 画面が表示されます。ここでは [セキュリティ認証デバイスの保存が完了しました。OmniPass保存の完了に進んでください。] を選択した場合について説明します。

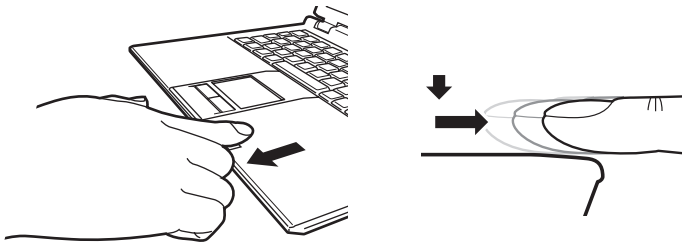
10 **サウンドとタスクバーの設定をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

11 **［完了］ボタンをクリックする**

ユーザ登録が完了しました。

指紋センサに指をうまく認識させるには

1 **指紋センサに対して指をまっすぐ出し、指の第１関節を寝かせた状態で軽く指紋センサ中央の上におく**

2 **第１関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサに触れるように手前に水平に引く**

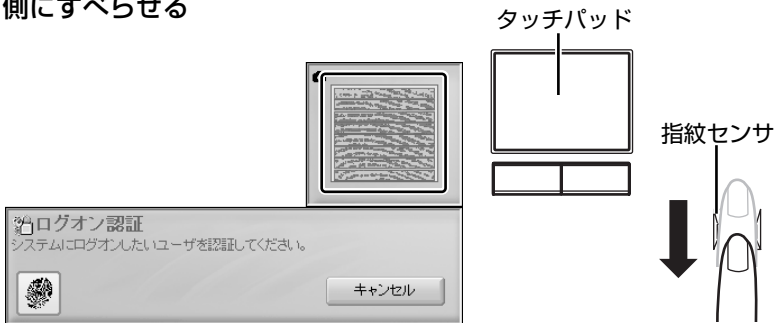
指先だけ指紋センサにのせると、指紋が認識されない場合があります。第１関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサに触れるように、適度なスピードでスライドさせてください。

4 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサに指紋を指をスライドさせることで、Windows へログオンできます。また、パソコンを複数のユーザで使用している場合、ユーザの選択も省略できます。

1 操作方法

1 電源を入れる

Windows が起動し、［ログオン認証］画面が表示されます。

2 指紋登録した指をタッチパッドの右にある指紋センサにのせ、手前側にすべらせる

指紋が認証されると画面に緑色で指紋が表示されます。

2 PDFマニュアルの起動方法

「指紋認証ユーティリティ取扱説明書」の起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［指紋認証ユーティリティ取扱説明書］をクリックする

3 ヘルプの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Softex］→［OmniPass コントロールセンター］をクリックする

2 ［ヘルプ］ボタンをクリックする

お願い 指紋センサの取り扱いと手入れ

指紋センサ表面が汚れている場合には、認識率が低下する可能性があります。眼鏡ふき（クリーナークロス）などのきれいな柔らかい布で軽くふき取ってからお使いください。
指紋センサ表面を強くこすらないでください。また、洗剤などは使用しないでください。故障するおそれがあります。

6 TPMを使う

本製品には、TPM（Trusted Platform Module）が用意されています。
TPMは、TCG（Trusted Conputing Group）が策定した仕様に準拠しています。

1 TPM

1 TPMとは

TPM（Trusted Platform Module）は、TCG（Trusted Computing Group）が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラチップです。
一般的に、電子データの保護は暗号処理方式（暗号アルゴリズム）によるものなので、ハードディスクやメモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。
TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。
また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。
本製品では、TPMの設定は、BIOSセットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。
詳しくは、『Trusted Platform Module取扱説明書』（PDFマニュアル）とヘルプを参照してください。

お願い **操作にあたって**

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windows ログオンパスワードやユーザパスワードとは別に TPM に対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でも TPM で保護されたデータを復元することはできません。
- 本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ（TPM）内のデータは保証いたしません。TPM を使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、必ず前もって外部記憶メディアに最新の緊急時復元用アーカイブファイルと緊急時復元用トークンファイルをバックアップしておいてください。バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されている TPM に障害がなくても TPM が交換される場合があります。その場合、バックアップしておいた緊急時復元用アーカイブファイルと緊急時復元用トークンを使用して、TPM の設定を復元してください。
- TPM では、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

2 TPM を有効にする方法

TPM を使用するには、まず BIOS セットアップで TPM を有効に設定する必要があります。

TPM を有効にする方法は、「本章 3-❸-12 SECURITY CONTROLLER」を参照してください。

メモ

- BIOSセットアップでのTPMに関する設定を、管理者の権限を持たないユーザが変更できないようにすることができます。TPMの設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザに操作制限を加えることをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書
6 東芝パスワードユーティリティ』

3 「Infineon TPM Software Professional Package」のインストール方法

TPMを有効にした後、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［東芝ユーティリティ］タブをクリックする

4 画面左側の［Infineon TPM Software Professional Package］をクリックし、［「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ］をクリックする

5 画面の指示に従ってインストールする

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

TPMを使用するための設定や使用方法は、PDFマニュアルとヘルプを参照してください。

4 PDFマニュアルのインストール方法

『Trusted Platform Module取扱説明書』（PDFマニュアル）のインストール方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

［東芝ユーティリティ］タブの［Infineon TPM Software Professional Package］に用意されています。

5 PDFマニュアルの起動方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDF マニュアル）の起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Trusted Platform Module 取扱説明書］をクリックする

6 ヘルプの起動方法

1 通知領域の［Security Platform］アイコン（ ）をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする

7章

困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまで

パソコンが動かなくなった！今までとは違う動きをする！なんだか変！不安だ！
そんなときには次の順番で解消へのアプローチをたどってください。

パソコンの状態を確認してください。

- 電源は入りますか?
- 画面は表示されますか?
- タッチパッド、キーボードは操作できますか?

オンラインマニュアルで調べてください。

パソコンの画面上で本製品の使いかたやトラブルの解消方法を見ることができます。
また、語句（キーワード）を入力して検索できます。

本章の「2 Q&A集」で調べてください。

パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法を、「電源を入れるとき／切るとき」などの操作場面ごとにQ&A形式で説明しています。

「dynabook.com」のサポート情報で調べてください。

インターネットに接続してホームページ「dynabook.com」のサポート情報で調べてください。
本製品の最新情報や、「よくあるご質問」やメールで質問する「東芝オンライン」、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows関連情報を提供しています。

「本節 ❶ dynabook.comで調べる」

各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

「9章 5-❷ アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

『周辺機器に付属の説明書』を確認してください。

パソコン本体のトラブル

「東芝PCダイヤル」に問い合わせてください。

「付録 6-❶-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認してから、電話で問い合わせてください。

dynabook の故障や修理など、サポート情報については、同梱の『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

1 dynabook.comで調べる

「dynabook.com」では、「よくあるご質問（FAQ）」や、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows関連情報を提供しています。
また、インターネットでのお客様登録を行うことができます。
サポート窓口や修理についても案内しています。
URL：http://dynabook.com/assistpc

相談窓口やPCのリサイクル、お客様登録については、「9章　こんなときは」にも詳しく紹介されています。

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［インターネット］をクリックする

Internet Explorerが起動します。
購入時の状態では、起動して最初に本製品のサポート情報のページが表示されるように設定されています。

【 パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問（FAQ）」 】

「よくあるご質問（FAQ）」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。
キーワード検索では、条件の選択やキーワードや文章を入力して、検索できます。
サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

【 メールで質問する「東芝PCオンライン」 】

「よくあるご質問」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24時間365日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。
ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしてください。

参照 「9章 3-❶ 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ」

1 「よくあるご質問」で解消方法を探す

2 「A.回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える

「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。「1」「2」の項目を選択すると、メールでのお問い合わせはできません。

3 ［送信］ボタンをクリックする

PCオンラインへのリンク画面が表示されます。

4 「東芝PCオンライン」をクリックする

画面の指示に従って専用フォームからご質問ください。
メールにてご回答させていただきます。

質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただくことがございます。ご了承ください。

この他、OS／アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。OS／アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて
「9章 5-❶ OSの問い合わせ先」
「9章 5-❷ アプリケーションの問い合わせ先」

2 トラブル解消に役立つ操作

トラブルを解消するために、パソコンの設定を変更する必要がある場合があります。ここでは、パソコンの設定を変更するときによく使う操作を説明します。

1 コントロールパネルを開く

コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。
コントロールパネルの開きかたを説明します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

［コントロールパネル］画面が表示されます。
必要な設定を行ってください。

2 Q&A 集

【電源を入れるとき／切るとき】

Q 電源スイッチを押しても反応しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power LEDが青色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（Battery LEDがオレンジ色に点滅している場合）

A バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプタを接続して、通電する（他製品用のACアダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について「5章 1-❷ バッテリを充電する」

（DC IN LEDがオレンジ色に点滅している場合）

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリパックやACアダプタを接続し直してください。

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずし
「5章 1-❸ バッテリパックを交換する」

参照 ACアダプタの接続
「1章 1-❶ 電源コードとACアダプタを接続する」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A ドライブやフロッピーディスクドライブまたはSDカードスロットが起動ドライブとして設定されている場合は、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。

メディアを取り出すか、システムが入ってるものと取り換えてから、何かキーを押してください。

A システムの入っていないドライブが、起動ドライブとして設定されている可能性があります。

ドライブやフロッピーディスクドライブまたはSDカードスロットからメディアを取り出し、何かキーを押してください。それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。

強制終了の方法は「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q.［シャットダウン］や［終了オプション］から電源が切れない」をご覧ください。

強制終了した後、F12キーを押しながら電源スイッチを押してください。

表示されたアイコンの中からシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクドライブ）を←→キーで選択し、Enterキーを押すと、システムが起動します。

参照 起動ドライブについて「2章 1-3 起動するドライブを変更する場合」

Q 自動的に電源が入ってしまう

A Windowsのタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［タスクの実行時にスリープを解除する］に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。

次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする

② 設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。

③ ［設定］タブの［電源の管理］で［タスクの実行時にスリープを解除する］のチェックをはずす

④ ［OK］ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。

次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［東芝省電力］をクリックする

③ ［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［何もしない］を選択する

④ ［OK］ボタンをクリックする

Q ［シャットダウン］や［終了オプション］から電源が切れない

A Ctrl＋Alt＋Delキーを押して、電源を切ってください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

- ドメイン参加している場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows のセキュリティ］画面が表示されます。

② ［シャットダウン］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。

③ ［シャットダウン］を選択し、［OK］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで［シャットダウン］を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

- ドメイン参加していない場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。

② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。

③ ［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A Ctrl＋Alt＋Delキーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを５秒以上押してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A Power LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

② [東芝省電力] をクリックする

③ [プロファイル] で利用するプロファイルを選択する

④ [基本設定] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] のチェックをはずす

⑤ [OK] ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

A パソコンが処理をしている最中（Disk LED が点灯中）に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。

正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 エラーチェックについて「本節 その他 -Q, セーフモードで起動した」

Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される

A ［スタートアップ］にプログラムが設定されている可能性があります。

［スタートアップ］は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的に［スタートアップ］に登録される場合があります。

次の手順でプログラムを削除できます。

① ［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［開く］をクリックする

② ［プログラム］アイコンをダブルクリックする

③ ［スタートアップ］アイコンをダブルクリックする
［スタートアップ］画面が表示されます。

④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、［ファイルとフォルダのタスク］の［このファイルを削除する］をクリックする
［ファイルの削除の確認］画面が表示されます。

⑤ ［はい］ボタンをクリックする

⑥ ［スタートアップ］画面の［閉じる］ボタンをクリックする

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［実行する］に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。

次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする

② 設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。

③ ［タスク］タブで［実行する］のチェックをはずす

④ ［OK］ボタンをクリックする

Q パソコンが休止状態にならない

A 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。

休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

A ［スタートアップ］に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。

［スタートアップ］からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

参照 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法
「本節 電源を入れるとき／切るとき
 - Q. Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

Q 休止状態を設定できない

A 休止状態の設定になっていない可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［電源オプション］をクリックする
③ ［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする

参照 休止状態について「2 章 3-❷ 休止状態」

Q F12 キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブを変更できない

A 「東芝パスワードユーティリティ」の設定が変更されている可能性があります。

スーパーバイザパスワードを設定している状態で、F12 キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［HW セットアップ／ BIOS セットアップの使用を許可する］のチェックをはずさないでください。

チェックをはずしていると、F12 キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

参照 スーパーバイザパスワード 「6 章 4-❷ スーパーバイザパスワード」

【画面／表示】

Q 画面に何も表示されない

（Power LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

A 電源が入っていないか、スタンバイまたは休止状態になっています。

電源スイッチを押してください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

（Power LED が青色に点灯している場合）

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

Shift キーや Ctrl キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。

次の操作を行ってください。

① Shift キーや Ctrl キーを押すか、タッチパッドを操作する
ユーザ名選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。

② Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enter キーを押す

参照 インスタントセキュリティ機能について
「3 章 2-❷- Fn キーを使った特殊機能キー」

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

Fn ＋ F5 キーを 3 秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4 章 5 外部ディスプレイを接続する」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A Fn＋F7キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください。

逆に、Fn＋F6キーを押すと、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。
Fnキーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると、設定はもとに戻ります。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。本製品から外部ディスプレイの輝度は設定できません。

A 本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度が低く設定されている可能性があります。

「東芝省電力」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。詳細は、「東芝省電力」のヘルプを参照してください。
購入時の設定では、AC アダプタ接続時の明るさレベルは「レベル 8」（最高）に、バッテリ駆動時の明るさレベルはバッテリの残容量に応じて「レベル 4」から「レベル 2」に変化するように設定されています。
次の手順で設定を変更してください。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。本製品から外部ディスプレイの輝度は設定できません。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［東芝省電力］をクリックする
③ ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
④ ［基本設定］タブで［画面の明るさ］を設定する
　［設定］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとに画面の明るさを設定できます。
　［解除］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとの設定は無効になります。
⑤ ［OK］ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、本体液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管が消耗している可能性があります。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

Q 画面の表示や色がはっきりしない

A 本体液晶ディスプレイの解像度を既定のサイズよりも小さく設定している場合、画面の表示がはっきりしません。また、色数を少ない設定にしている場合、画面の色がはっきりしません。

次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［デスクトップの表示とテーマ］をクリックする

② ［画面］をクリックする

③ ［設定］タブで設定を変更する

- 表示がはっきりしない場合
  ［画面の解像度］をディスプレイの解像度に合わせて変更してください。
- 色がはっきりしない場合
  ［画面の色］を［最高（32 ビット）］に変更してください。

④ ［OK］ボタンをクリックする

参照 ディスプレイの解像度について「3 章 4 ディスプレイ」

Q CRT ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

A テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、表示がにじむ場合があります。

パソコンと電気製品との距離を離してください。

【Windows】

Q 内蔵時計が合っていない

A 次の手順で［日付と時刻］を修正してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリックする

② ［日付と時刻を変更する］をクリックする

③ ［時刻］に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。

④ デジタル時計の右端にある ▲ ▼ ボタンで、時刻の修正を行う

⑤ ［OK］ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。

パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。

保守サービスに連絡してください。

Q パソコンの処理速度が遅くなった

A 「東芝省電力」の設定で、CPU の処理速度が切り替わった可能性があります。

また、ご購入時の状態のプロファイルは、AC アダプタを接続しているときは［フルパワー］、バッテリ駆動で使用するときは［ノーマル］に設定されていますので、AC アダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。

CPU の処理速度は次の手順で変更できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［東芝省電力］をクリックする

③ ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する

④ ［基本設定］タブの［CPU の制御方法］で［自動］または［固定］をチェックする

⑤ ［CPU の処理速度］をスライダーバーで設定する
数字が大きいほど、高速で処理します。

⑥ ［OK］ボタンをクリックする

参照 省電力モードについて「5 章 2 省電力の設定をする」

A パソコンの CPU が高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。

しばらく作業を中止すると、CPU の温度が下がり処理速度が元に戻ります。
CPU が高温になった場合の対処方法については「東芝省電力」で設定できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［東芝省電力］をクリックする

③ ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する

④ ［基本設定］タブの［CPU の熱制御方法］をスライダーバーで設定する

⑤ ［OK］ボタンをクリックする

「東芝省電力」で設定していても、パソコン使用中の CPU の過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます（危険防止機能）。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコン本体を放置してから使用してください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。
定期的にデータのバックアップを取るようにしてください。

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。
不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

【バッテリ駆動で使用するとき】

Q Battery LEDが点滅した

A バッテリの充電量が残り少ない状態です。
ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。
休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。
また、データはこまめに保存してください。

参照 バッテリの充電方法「5章 1-❷ バッテリを充電する」

Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery LEDがオレンジ色に点滅する

A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。
もう一度充電してください。
充電しても状態が変わらない場合は、バッテリを再充電してみてください。

参照 再充電について「5章 1-❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

バッテリを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 バッテリの充電量について「5章 1-❶ バッテリ充電量を確認する」

Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

② [東芝省電力] をクリックする

③ [プロファイル] で利用するプロファイルを選択する

④ [基本設定] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] のチェックをはずす

⑤ [OK] ボタンをクリックする

【キーボード】

Q キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（ ⌛ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。

システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

参照 詳細について「3章 3-❷ タッチパッドを無効／有効にするには」

Q 「＼」（バックスラッシュ）が入力できない

A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。

ろ を押すと￥が表示されますが、「＼」と同じ機能を持ちます。

Q ひらがなや漢字の入力ができない

A 日本語入力システムの入力モードが対応していない状態になっています。
(半/全)キーを押して、入力モードを切り替えてください。

Q キーボードで入力モードを切り替えたい

A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

(Ctrl)+(Caps Lock英数)キー	カナロック状態
(Shift)+(Caps Lock英数)キー	大文字ロック状態
(Alt)+(カタカナひらがな)キー	ローマ字入力／かな入力の切り替え
(Fn)+(F10)キー	アロー状態
(Fn)+(F11)キー	数字ロック状態

Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。
次の手順でドライバを再設定してください。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

② [システム] をクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。

③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
[デバイスマネージャ] 画面が表示されます。

④ [キーボード] をダブルクリックする

⑤ 表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。

⑥ [ドライバ] タブで [ドライバの更新] ボタンをクリックする
[ハードウェアの更新ウィザード] 画面が表示されます。

⑦ [いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

⑧ [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

⑨ [検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

⑩ [互換性のあるハードウェアを表示] のチェックをはずす
[製造元] と [モデル] の一覧が表示されます。

⑪［製造元］から［(標準キーボード)］、［モデル］から［日本語 PS/2 キーボード（106/109 キー Ctrl ＋英数)］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする
［ドライバの更新警告］画面が表示されます。

⑫［はい］ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、［ハードウェアの更新ウィザードの完了］画面が表示されます。

⑬［完了］ボタンをクリックする

⑭ キーボードのプロパティ画面で［閉じる］ボタンをクリックする
［システム設定の変更］画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

⑮［はい］ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

Q どのキーを押しても反応しない 設定はあっているが、希望の文字が入力できない

A ［スタート］メニューから再起動してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

A ［スタート］メニューから再起動できない場合は、Ctrl＋Alt＋Delキーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

● ドメイン参加している場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows のセキュリティ］画面が表示されます。

②［シャットダウン］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。

③［再起動］を選択し、［OK］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで［再起動］を選択し、Enterキーを押してください。
再起動します。

● ドメイン参加していない場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。

② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。

③［再起動］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Rキーを押してください。
再起動します。

A Ctrl＋Alt＋Delキーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを５秒以上押してください。

電源が切れます。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。しばらくしてから電源を入れ直してください。

強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 エラーチェックの方法「本節 その他 -Q. セーフモードで起動した」

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

【タッチパッド／マウス】

＊マウスは別売りです。

Q タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（ ）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 詳細について「3 章 3-❷ タッチパッドを無効／有効にするには」

Q ダブルクリックがうまくできない

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

② ［マウス］をクリックする

③［ボタン］タブで［ダブルクリックの速度］のスライダーバーを左右にドラッグする

④［OK］ボタンをクリックする

Q ポインタの動きが遅い／速い

A 次の手順でポインタの速度を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

②［マウス］をクリックする

③［ポインタオプション］タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする

④［OK］ボタンをクリックする

A ボール式マウスを使用している場合は、マウス内部が汚れていないか確認してください。

マウス内部が汚れていると動きが鈍くなります。マウス内部の掃除を行ってください。

マウスの手入れについては『マウスに付属の説明書』を確認してください。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

また、マウスの動きを滑らかにするには、マウスパッドの使用を推奨します。

Q USBマウスが使えない

A マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

マウスの接続については、『マウスに付属の説明書』を確認してください。

A 新しく接続したハードウェアとして認識されていない可能性があります。

次の手順で［新しいハードウェアの追加ウィザード］を実行してください。

①［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

②［関連項目］の［ハードウェアの追加］をクリックする
　［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。

③［次へ］ボタンをクリックする
　画面の指示に従って操作してください。

【サウンド機能】

Q スピーカから音が聞こえない

A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調節してください。

A スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。
【Fn】＋【Esc】キーを押してミュートを解除してください。

A 標準の［優先するデバイス］が変更されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする

② ［サウンドとオーディオデバイス］をクリックする
［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示されます。

③ ［オーディオ］タブで［音の再生］の［既定のデバイス］を正しく設定する

④ ［OK］ボタンをクリックする

A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からサウンドドライバを再インストールしてください。

Q サウンド再生時に音飛びが発生する

A PC カード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

Q 内蔵マイクで録音ができない

A ボリュームコントロールの設定でマイクが無効になっている可能性があります。
次のように設定してください。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

② メニューバーから［オプション］→［プロパティ］をクリックする

③ ［プロパティ］画面の［音量の調節］で［録音］をチェックする

④ ［OK］ボタンをクリックする

⑤ ［録音コントロール］画面で［マイク］をチェックする

【通信機能】

＊無線 LAN モデル、Bluetooth モデルのみ

Q 無線 LAN ／ Bluetooth 機能が使えない

A 無線通信機能が Off になっている可能性があります。

次のいずれかの操作を行ってください。

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。
- 無線 LAN の場合は、ConfigFree でデバイスを有効に切り替えてください。
  次の操作を行ってください。
  ① 通知領域の［ConfigFree］アイコンをクリックする
  「デバイス」の下に表示されている項目が、使用できるデバイスです。
  ② 有効にしたいデバイスにポインタをあわせ、表示されたメニューから［有効］をクリックする
- 無線LAN機能とBluetooth機能を両方搭載しているモデルの場合は、Fn＋F8キーを押して、使用する無線通信機能を有効に切り替えてください。

【周辺機器】

周辺機器については「4 章 周辺機器の接続」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

Q 周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は？

A 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れてください。

USB 対応機器など、周辺機器によっては、パソコン本体が起動した後に電源を入れても使うことができるものがあります。

Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

A パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。

次の手順で［ハードウェアの追加ウィザード］を実行してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。

③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

A 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
接続ケーブルを正しく接続し直してください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。
周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。使用しているシステム（OS）に対応しているか確認してください。

Q 増設メモリが認識されない

A メモリを増設しても「東芝 PC 診断ツール」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。
「4 章 8 メモリを増設する」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう1 度取り付けてください。

【SD メモリカード】

Q SD メモリカードが使えない

A SD メモリカードが正しくセットされていない可能性があります。
SD メモリカードが奥まで挿入されているか確認してください。

Q SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない

A 使用するアプリケーションでは対応していないフォーマットの SD メモリカードを挿入している可能性があります。
フォーマットし直してから、SD メモリカードを使用してください。
フォーマットは「東芝 SD メモリカードフォーマット」か、SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
「東芝 SD メモリカードフォーマット」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントのみ使用できます。
フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消失します。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

参照 フォーマットについて「4 章 3-4 SD メモリカードのフォーマット」

A SD メモリカードのライトプロテクトタブが「書き込み禁止状態」になっていると、書き込み（データの保存）ができません。
SD メモリカードを取り出して、ライトプロテクトタブを「書き込み可能状態」にしてください。

A SD メモリカードの空き容量が少ないと、書き込み（データの保存）ができません。
次のいずれかの操作を行ってください。

- 不要なファイルやフォルダを削除して空き容量を増やしてから、やり直す
  SD メモリカードから削除したファイルを元に戻すことはできません。よく確かめてから削除を行ってください。
- 空き容量が十分にある別の SD メモリカードを使用する

Q SD メモリカードの曲を再生できない

A SD メモリカードに、再生できる曲のファイルが保存されていない可能性があります。ファイルがあるかどうか確認してください。

A 本製品では著作権保護技術を使用して書き込まれた音楽データは使用できません。市販のアプリケーションをご利用ください。
または、再生しようとしたデータが、使用するアプリケーションでは対応していないファイル形式の可能性があります。よく確認してください。

Q 「フォーマットされていません」というエラーメッセージが表示された

A PC カードと SD メモリカードを挿入した状態でパソコンを起動すると、SD メモリカードに正しくアクセスできない場合があります。
SD メモリカードを SD カードスロットから取り出して、もう 1 度セットしなおしてください。

Q 「READ ERROR」「DATA ERROR」「CODE ERROR」と表示された

A ファイル読み込みでエラーが検出されました。データが壊れている可能性があります。
そのファイルを削除してください。
このエラーが多発する場合は、その SD メモリカードをフォーマットしてください。
フォーマットは「東芝 SD メモリカードフォーマット」か、SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
「東芝 SD メモリカードフォーマット」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントのみ使用できます。
フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

参照 フォーマットについて「4 章 3-4 SD メモリカードのフォーマット」

【PC カード】

Q PC カードが認識されない

A PC カードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

参照 PC カードの接続について「4 章 2 PC カードを使う」

Q PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PC カードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。

使用しているシステム（OS）に対応しているか、『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

A 本製品は Windows 専用モデルです。コマンドプロンプト上での PC カードの使用はサポートしていません。

Q PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを［デバイスマネージャ］で使用不可にしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［システム］をクリックする

③ ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。

④ 使用しない装置の種類をダブルクリックする

⑤ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、［無効］をクリックする

⑥ メッセージが表示されたら［はい］ボタンをクリックする

⑦ ［デバイス マネージャ］を閉じる

⑧ ［システムのプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

【USB 対応機器】

Q USB 対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 接続について「4 章 4 USB 対応機器を接続する」

A 何らかの原因で、システム（OS）が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。
Windows を再起動してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
次の手順でインストールしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。

③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

Q 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない

A 休止状態に対応していない USB 対応機器を接続している可能性があります。
USB 対応機器を USB コネクタから取りはずし、もう 1 度接続してください。
それでも USB 対応機器が正常に動作しない場合は、パソコンを再起動してください。

【アプリケーション】

Q アプリケーションが使えない

A 正しくインストールしていない可能性があります。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。
アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

A メモリ容量が足りない可能性があります。
アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。
また、本製品は、必要に応じてメモリを増設することができます。

参照 メモリの増設について「4 章 8 メモリを増設する」

A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。
終了後、もう 1 度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
[Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
[Windows のセキュリティ］画面が表示された場合は、[タスクマネージャ］ボタンをクリックしてください。

② [アプリケーション］タブで［応答なし］と表示されているアプリケーションをクリックする

③ [タスクの終了］ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。

Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは再インストールできます。
[スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からアプリケーションを再インストールしてください。

【指紋認証】

Q 指紋の読み取りがうまくいかない

A もう一度正しい姿勢で操作してください。
詳しい操作方法は、「6 章 5 指紋認証を使う」または『指紋認証ユーティリティ取扱説明書』を参照してください。

A 登録してあるもう 1 本の指で読み取りを行ってください。

A どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。
詳しい操作方法は『指紋認証ユーティリティ取扱説明書』を参照してください。

Q 指にケガをしたため指紋の読み取りができなくなった

A 登録してあるもう 1 本の指で読み取りを行ってください。

A 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。
詳しい操作方法は『指紋認証ユーティリティ取扱説明書』を参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサの表面がよごれていないか確認してください。
よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう一度指紋認証を行ってください。

参照 詳細について「6 章 5 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。
指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、他の指で登録してください。

参照 詳細について「6 章 5 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。

指を指紋センサと平行になるように置き、指紋センサに指の中央を合わせてください。指紋センサの上に第一関節がくるように置き、スライドするときはゆっくりと一定の速さでスライドしてください。それでも認証できない場合は、指をスライドさせる速さを調整してください。

 詳細について「6章 5 指紋認証を使う」

【TPM】

Q 誤ってTPMを初期化してしまった

A 緊急時復元用アーカイブファイルと緊急時復元用トークンファイルを使用して、TPMの設定を復元してください。

 復元方法 『Trusted Platform Module 取扱説明書 8 障害からの復帰』

Q TPMを使用しているパソコンを、修理・保守に出したい

A TPMを使用している場合、修理・保守に出す前に、次の項目を実行または確認してください。

- ハードディスクドライブの必要なデータをバックアップにとる
- PSDの内容を、別途外部記憶メディアにバックアップをとる
- ハードディスクドライブに緊急時復元用アーカイブファイルを作っている場合は、外部記憶メディアにバックアップをとる
- Security Platform 初期化ウィザード設定時に作成した緊急時復元用トークンファイルがあるか確認する
- 控えておいた「所有者パスワード」、「緊急時復元用トークン」用のパスワードを確認する

なお、修理・保守に出すと、TPMに故障がなくても、TPMが交換される場合があります。

交換されたり、TPMが初期化された場合、Windowsにログオンした後（ハードディスクドライブには障害や問題がなくWindowsへログオンできる場合）、通知領域の［Security Platform］アイコンにTPMが初期化されていない内容のメッセージが表示されます。

その場合は、緊急時復元用アーカイブファイル、緊急時復元用トークンファイルを使って、TPMの設定を復元してください。

参照 復元方法 『Trusted Platform Module 取扱説明書 8 障害からの復帰』

保守サービスについては、「9章 2 アフターケアについて」と『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

【メッセージ】

Q 「Password=」と表示された

A パスワードの入力、またはトークンによる認証が必要です。

次のいずれかの操作を行ってください。

- パスワードを入力し、Enterキーを押す
あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存しておくと、パスワードを忘れた場合に確認できます。他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。
- あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」で作成したトークンをSDカードスロットに挿入し、認証を行う

上記の方法を実行できない場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワードについて「6章 4 パスワードセキュリティ」

Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。

Caps Lock LEDを確認してください。必要に応じてShift+Caps Lock英数キーを押して入力の状態を切り替え、もう1度入力してください。

Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。

電源を切る前の状態は再現できません。

「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」を選択し、Enterキーを押してください。

Windowsが起動します。

Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」「Press [F1] key to set Date/Time.」と表示された

A 時計用バッテリが不足しています。

時計用バッテリは、ACアダプタを接続し電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリについて「5章 1-❶-3- 時計用バッテリ」

ACアダプタを接続後、次の手順でBIOSセットアップの日付と時刻を設定してください。

① F1キーを押す
BIOSセットアップ画面が表示されます。

② BIOSセットアップの［Date］と［Time］で日付と時刻を設定する

参照 日付と時刻の設定方法について
「6章 3-❸-2 SYSTEM DATE/TIME」

③ Fn＋→キーを押す
確認のメッセージが表示されます。

④ Yキーを押す
BIOSセットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

Q C:¥ >_ のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。

次のいずれかの操作を行ってください。

- **コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える**
  Alt＋ Enterキーを押してください。
- **コマンドプロンプト画面を終了する**
  ① EXITとキーを押す
  ② Enterキーを押す

Q 「パソコン本体の揺れを検出しました。一時的にハードディスクのヘッドを安全な位置に退避します。」と表示された

A パソコン本体に加わった振動・衝撃およびその前兆を検出し、ハードディスクが損傷する危険性を軽減する機能が働きました。

［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

この機能は東芝HDDプロテクションといい、パソコンの使用状況にあわせて検出レベルを設定できます。

参照 東芝HDDプロテクション
「3章 5-❷ 東芝HDDプロテクションについて」

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

【その他】

Q セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。
次の手順でエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

① ［スタート］→［マイコンピュータ］を開く
② （C：）ドライブをクリックする
③ メニューバーから［ファイル］→［プロパティ］をクリックする
④ ［ツール］タブの［エラーチェック］で［チェックする］ボタンをクリックする
⑤ ［チェック ディスクのオプション］で［不良セクタをスキャンし、回復する］をチェックする
⑥ ［開始］ボタンをクリックする
エラーチェック終了後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝PCダイヤルに連絡してください。

参照 セーフモードについて『ヘルプとサポート センター』

Q Disk LEDが点滅し、パソコン本体から音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。
パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。
ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。
極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入店、または保守サービスに相談してください。

Q 甲高い音がする

A ハウリングを起こしています。
ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。
使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。

次の方法で調整してください。

- パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調整する
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- 内蔵マイクを使用している場合、内蔵マイク部分をふさがない
- ボリュームコントロールの設定で音量を調整する

参照 ボリュームダイヤル、ボリュームコントロールについて
「3章 6 サウンド機能」

Q テレビやラジオの音が聞こえてくる

A モジュラーケーブルがテレビ・ラジオの音を拾っている可能性があります。
モジュラーケーブルを延長して、パソコン本体と電話回線を接続している場合は、モジュラーケーブルを延長せずに使用して確認してください。
また、モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付けてください。
それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。契約している電話会社に相談してください。

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。
この場合、保存されていないデータは消失します。
アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windowsを強制終了し、再起動してください。
強制終了の方法は、次のとおりです。

システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

● ドメイン参加している場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
[Windowsのセキュリティ]画面が表示されます。

② [シャットダウン]ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。

③ [シャットダウン]を選択し、[OK]ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで[シャットダウン]を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

● ドメイン参加していない場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
[Windowsタスクマネージャ]画面が表示されます。

② メニューバーの[シャットダウン]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。

③ [コンピュータの電源を切る]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

ウイルスチェックソフトの操作方法がわからない場合や、ウイルス駆除ができなかった場合は、ウイルスチェックソフトのメーカへお問い合わせください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 ▶ 修理の問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、「付録 6-❶-1 トラブルチェックシート」で、必要事項を確認のうえ、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。

A OS ／アプリケーションのトラブルの場合は、各 OS ／アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

参照 問い合わせについて「9 章 5-❶ OS の問い合わせ先」
「9 章 5-❷ アプリケーションの問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

参照 周辺機器の問い合わせについて『周辺機器に付属の説明書』

Q パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。
詳しくは、「9 章 4 廃棄・譲渡について」を参照してください。

Q 海外でパソコンを使いたいときは？

A 次の点に気をつけてください。

1 電圧や電源プラグの形状を確認する

● 電圧

本製品の AC アダプタは、100 ～ 240V の電圧に対応しているので、この範囲内の電圧の国／地域で使用できます。

電源コード（電源プラグから AC アダプタまでのケーブル）は、日本の法令・安全規格（AC100V）に適合しています。
その他の国／地域で使用する場合は、使用電圧やプラグ形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

参照 AC アダプタ、電源コード、電源プラグについて
「1 章 1-❶ 電源コードと AC アダプタを接続する」

2 通信関係の確認をする

● 内蔵モデム、無線 LAN

国／地域によっては、モデムや無線 LAN 装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。「付録 5 技術基準適合について」やカタログ、または対応する国／

地域を記載したシートで、使用できる国／地域を確認してください。
それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、その国／地域に対応した機器（別売り）を使用するか、内蔵モデムや無線LAN機能の使用はお控えください。東芝製オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

● モジュラージャックの形状
モジュラージャックは、国／地域によって形状が異なります。本製品は北米と日本の形状に対応していますが、その他の国／地域ではプラグをその地にあう形状に変換するためのアダプタ（別売り）が必要です。東芝製オプションはありません。各国／地域で安全規格に適合したコードや変換プラグをご購入ください。

● モデム設定ユーティリティ
本製品に内蔵されているモデムは、多数の国／地域で利用可能です。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、使用する国／地域を設定してください。

参照 設定方法
「3章 9-❶ 海外でインターネットに接続する」

3 必要なものを準備する

- 取扱説明書
- リカバリCD-ROM
  （同梱されているモデルの場合）
- 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式
  （Office搭載モデルの場合）
- 「Microsoft® Office OneNote® 2003」一式
  （OneNote搭載モデルの場合）
- 保証書、ILW

再セットアップする必要が生じたときのために、リカバリCD-ROM（同梱されているモデルの場合）、「Microsoft® Office Personal Edition 2003」（Office搭載モデルの場合）と「Microsoft® Office OneNote® 2003」（OneNote搭載モデルの場合）のパッケージ一式をお持ちください。
本製品はハードディスクまたはリカバリCD-ROMから再セットアップできますが、「Microsoft® Office Personal Edition 2003」（Office搭載モデルの場合）と「Microsoft® Office OneNote® 2003」（OneNote搭載モデルの場合）は同梱のCD-ROMから再インストールする必要があります。

参照 再セットアップについて「8章 再セットアップ」

故障したときのために、保証書と購入時のレシート*[1]をお持ちください。
ILW（International Limited Warranty）は海外の所定の地域*[2]でILWの制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書がILWの保証書を兼ねています。

ILW についての詳細は、次のホームページも参照してください。
http://dynabook.com/assistpc/ilw/index_j.htm

＊1 保証書に購入店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。
＊2 ILW 対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規則に該当する場合は、サービス対象外となりますので、あらかじめご了承ください。

4 プロバイダを選定する

加入しているプロバイダのアクセスポイントがその地域になければ、メールを送受信するたびに、普段よりも料金が余計にかかります。加入しているプロバイダのアクセスポイントが渡航先にあるか、または、アクセスポイントを持つ他のプロバイダと提携接続サービス（ローミングサービス）を行っていれば、通常通りにメール送受信が可能です。
旅立つ前に、加入しているプロバイダのホームページで、アクセスポイントやローミングサービスの有無、設定方法などを確認しておくことをお奨めします。

＜必要な書類など＞
海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の非該当証明」という書類が必要な場合がありますが、現在販売されている東芝のパソコンを、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合には、基本的に必要ありません。ただ、パソコンを他人に使わせたり譲渡する場合は、輸出許可が必要となる場合があります。
また、米国政府の定める輸出規制国（キューバ、リビア、朝鮮民主主義人民共和国、イラン、スーダン、シリア）に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。
輸出法令の規制内容や手続きの詳細は、経済産業省 安全保障貿易管理のホームページなどを参照してください。

海外で使用する場合については、次のホームページも参照してください。
http://dynabook.com/assistpc/faq/pcdata/800008.htm

8章

再セットアップ

これまでに説明してきたトラブル解消方法では解決できないとき、最後に行うのがパソコンの再セットアップです。再セットアップすることで、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。

1　再セットアップする前に

システムやアプリケーションを購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。
本製品では、再セットアップでハードディスクのデータを消去することもできます。
目的にあった方法を選んでください。

参照 ハードディスクのデータ消去
「9 章 4-❷-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

1 再セットアップが必要なとき

次のようなときには、「7 章 1 トラブルを解消するまで」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

- ハードディスクをフォーマットしてしまった
- ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない

2 準備

データのバックアップをとる

再セットアップすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。
また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべて購入時の状態に戻ります。
再セットアップ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。
バックアップは、普段から定期的に行っておくことを推奨します。
ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。
再セットアップを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

パソコンのハードウェア構成を購入時の状態に戻す

フロッピーディスクドライブやマウス、増設したハードディスクドライブやメモリなど、周辺機器を取りはずしてください。

ミュートの設定を解除する

Fn+Escキーを使って、内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう１度Fn+Escキーを押して元に戻しておいてください。

リカバリ CD-ROM 同梱モデルの場合

再セットアップには、同梱のリカバリ CD-ROM を使用するため、別売りの CD／DVD ドライブが必要です。
本製品では、次のドライブをサポートしています。

- USB CD-ROM&CD-R/RW&DVD-ROM&DVD-RW&DVD-RAM ドライブ（IPCS062A）
- USB CD-ROM&CD-R/RW&DVD-ROM ドライブ（IPCS063A）
- USB CD-ROM ドライブ（PCDD002）

【 リカバリ CD-ROM について 】

モデルによっては、リカバリ CD-ROM が同梱されています。
リカバリ CD-ROM は再セットアップのときに必要です。絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。また、リカバリ CD-ROM は、リカバリ CD-ROM が同梱されている本製品以外のパソコンで再セットアップを実行しないでください。

2 システムの復元

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションを復元する方法について説明します。手順をよく確認してから行ってください。
本製品のシステムの復元は、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人にシステムの復元を実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザパスワード「6章 4-❶ ユーザパスワード」

Office搭載モデルとOneNote搭載モデルの場合、Office Personal 2003、Office OneNote 2003は、システムの復元後、さらに同梱のCD-ROMで再インストールする必要があります。

参照 詳細について
「本章 3-❷ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする」

【 必要なもの 】

- 『取扱説明書』(本書)
- リカバリCD-ROM(同梱されているモデルの場合)
- CD／DVDドライブ(リカバリCD-ROMが同梱されているモデルの場合)

お願い

市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、再セットアップができなくなることがあります。

1 システムを復元する

システムの復元方法は、ご購入のモデルによって異なります。

- リカバリ CD が同梱されていないモデル
  ハードディスクから再セットアップします。
- リカバリ CD-ROM が同梱されているモデル
  リカバリ CD-ROM から再セットアップします。

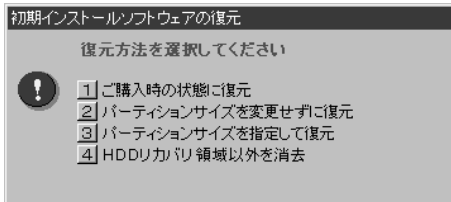
1 操作手順ーリカバリCD-ROMが同梱されていないモデル

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの0（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

4 実行したい項目の番号のキーを押す

①〜③を選択した場合、C ドライブにはシステム復元ツールから購入時と同じシステムが復元されます。C ドライブ（ ）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

メモ

システムを復元する場合、通常は②を選択してください。事前に分割した、C ドライブ以外のパーティションにデータがある場合、手順４で②を選択すると、他のパーティションのデータを残して、C ドライブのシステムだけを復元できます。ただし、BIOS 情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、C ドライブ以外のパーティションにあるデータも使えないことがあります。

それぞれの項目の意味と動作は、次のようになります。

● ①「ご購入時の状態に復元」

パソコンを購入したときの状態（パーティションが 1 個の状態）に戻します。

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。手順 5 に進んでください。

● ②「パーティションサイズを変更せずに復元」

前回「③ パーティションサイズを指定して復元」を選択して再セットアップをしている場合などに使用します。C ドライブ以外のパーティションでは、購入後に入力したデータをそのまま保持します。

（パーティションを分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順 5 に進んでください。

● ③「パーティションサイズを指定して復元」

［マイコンピュータ］の C ドライブ（ハードディスク）のパーティション（領域）のサイズを変更します。

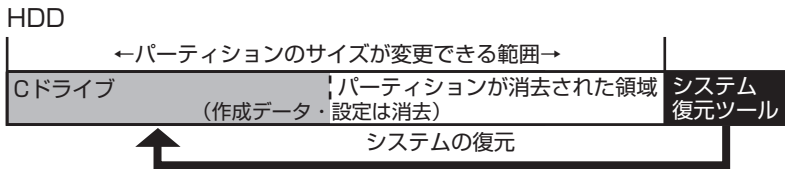
すでにハードディスクにパーティションを区切っている場合、C ドライブ以外のパーティションは消去されます。パーティションが消去された領域（ □ ）は管理ツールで設定すると、ドライブとして使用できます。

管理ツールでの設定方法は「本項 4 パーティションを設定する」を参照してください。

HDD

←パーティションのサイズが変更できる範囲→

Cドライブ（作成データ・設定は消去）	パーティションが消去された領域	システム復元ツール

システムの復元

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

① Yキーを押す
　[パーティションサイズの指定]画面が表示されます。
② ←→キーを使ってパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する
③ ENTERキーを押す
　「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

手順6 に進んでください。

● ④「HDD リカバリ領域以外を消去」

この項目は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、再セットアップ用のデータ領域以外のすべてのデータが削除されます。
詳細は「9 章 4-❷-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。

5 Yキーを押す

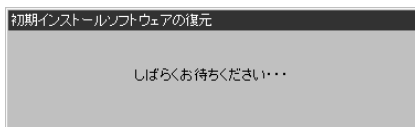
処理を中止する場合は、Nキーを押してください。
「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

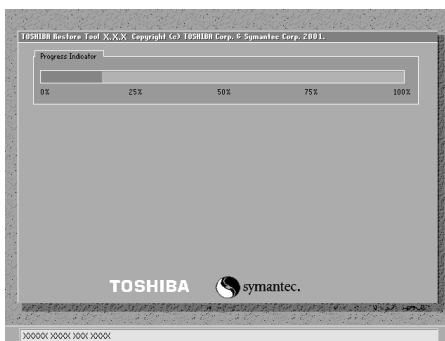
メモ

再セットアップ用のデータ領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することはできません。

6 Ⓨキーを押す

処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。
復元が実行されます。

復元が実行される前に再起動する場合があります。
また、［しばらくお待ちください・・・］画面が表示されるときがあります。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。

復元の進行状況を示すグラフ表示が100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。グラフが2度目に100%に達すると完了です。
復元が完了すると、終了画面が表示されます。

7 何かキーを押す

システムが再起動します。

8 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 2 Windowsのセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、再セットアップ後に［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールする必要があります。必要に応じて再インストールを行ってください。

参照 詳細について「本章 3 アプリケーションを再インストールする」

- 「Norton AntiVirus」をインストールする場合は、アプリケーションのインストール後に表示されるメッセージに従って行ってください。

購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続「4章 周辺機器の接続」

2 操作手順－リカバリCD-ROMが同梱されているモデル

1 パソコンの電源を切ったあと、ACアダプタと電源コードを接続する

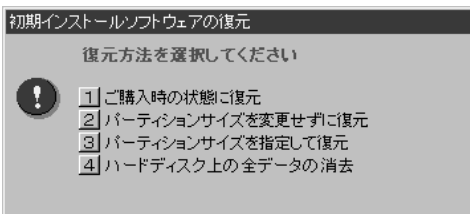
2 CD／DVDドライブを接続し、「リカバリCD-ROM Disk1」をセットする

リカバリCD-ROMは、画面のメッセージに従って入れ替えてください。

3 キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

4 → または ← キーでCDのアイコン（ ）にカーソルを合わせ、Enter キーを押す

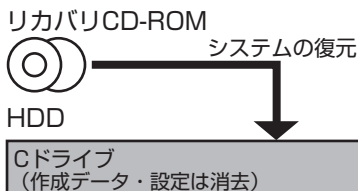
［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

5 実行したい項目の番号のキーを押す

①～③を選択した場合、Cドライブにはシステム復元ツールから購入時と同じシステムが復元されます。Cドライブ（ ）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

メモ

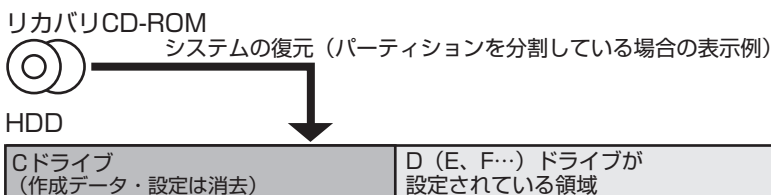
システムを復元する場合、通常は②を選択してください。事前に分割した、Cドライブ以外のパーティションにデータがある場合、手順５で②を選択すると、他のパーティションのデータを残して、Cドライブのシステムだけを復元できます。ただし、BIOS情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、Cドライブ以外のパーティションにあるデータも使えないことがあります。

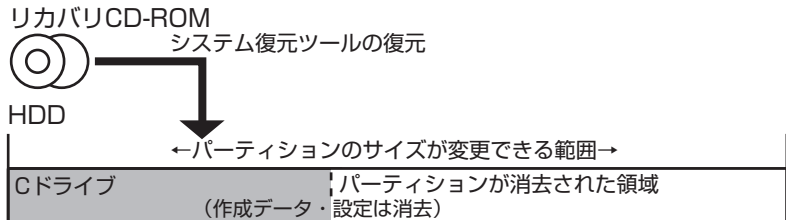
● ①「ご購入時の状態に復元」

パソコンを購入したときの状態（パーティションが１個の状態）に戻します。

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順６に進んでください。

● ②「パーティションサイズを変更せずに復元」

前回「③パーティションサイズを指定して復元」を選択して再セットアップをしている場合などに使用します。Cドライブ以外のパーティションでは、購入後に入力したデータをそのまま保持します。

「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
手順 6 に進んでください。

● ③「パーティションサイズを指定して復元」
［マイコンピュータ］の C ドライブ（ハードディスク）のパーティション（領域）のサイズを変更します。
すでにハードディスクにパーティションを区切っている場合、C ドライブ以外のパーティションは消去されます。パーティションが消去された領域（ ）は管理ツールで設定すると、ドライブとして使用できます。管理ツールでの設定方法は「本項 4 パーティションを設定する」を参照してください。

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
① Y キーを押す
［パーティションサイズの指定］画面が表示されます。
② ← → キーを使ってパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する
③ ENTER キーを押す
「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

手順 7 に進んでください。

● ④「ハードディスク上の全データの消去」
この項目は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上のすべてのデータが削除されます。
詳細は「9 章 4-❷-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。

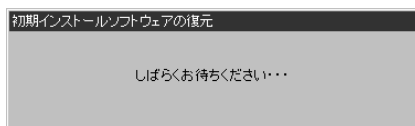
6 Ⓨキーを押す

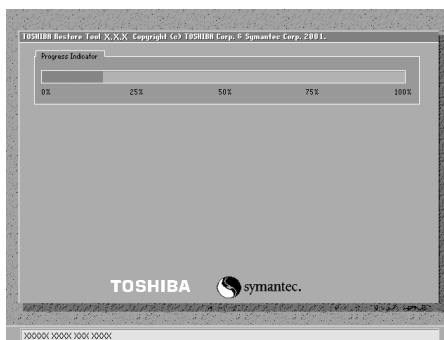
処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

7 Ⓨキーを押す

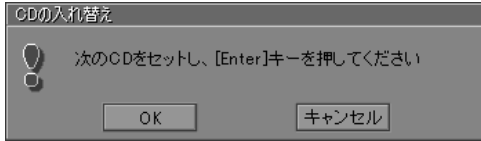
処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。
復元が実行されます。

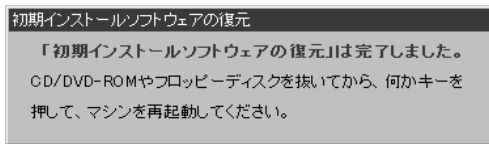
復元が実行される前に再起動する場合があります。
また、［しばらくお待ちください・・・］画面が表示されるときがあります

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。（手順５で③を選択した場合は、この画面は表示されません。）

復元の進行状況を示すグラフ表示が 100%まで伸びた後、もう１度 0%から始まります。グラフが２度目に 100%に達すると完了です。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合、CDを入れ替え、Enterキーを押してください。処理が続きます。

画面には、現在何枚目のCDの復元が終了し、次に何枚目のCDをセットする必要があるかなどは、表示されません。
CDが何枚目であるかはラベルに書いてありますので、CDを取り出す際に番号を覚えておくようにしてください。
復元が完了すると、次の画面が表示されます。

初期インストールソフトウェアの復元
「初期インストールソフトウェアの復元」は完了しました。
CD/DVD-ROMやフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押して、マシンを再起動してください。

9 CDを取り出し、パソコンからCD／DVDドライブを取りはずしてから何かキーを押す

システムが再起動します。

10 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 2 Windowsのセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、再セットアップ後に［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールする必要があります。必要に応じて再インストールを行ってください。

  参照 詳細について「本章 3 アプリケーションを再インストールする」
- 「Norton AntiVirus」をインストールする場合は、アプリケーションのインストール後に表示されるメッセージに従って行ってください。

購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう一度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続「4章 周辺機器の接続」

3 Office Personal 2003、Office OneNote 2003 を再インストールする

＊ Office 搭載モデル、OneNote 搭載モデルのみ

Office Personal 2003 および Office OneNote 2003 は、以上の手順では復元されません。同梱の CD-ROM で再インストールしてください。

詳細について
「本章 3-❷ Office Personal 2003、Office OneNote 2003 を再インストールする」

ここまでで、購入時の状態の復元は完了です。パーティションの設定を変更してシステムを復元した場合のみ、次項［4］の操作を行ってください。

4 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更して再セットアップした場合は、再セットアップ終了後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い

リカバリ CD-ROM が同梱されていないモデルでは、Windows の「ディスクの管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションには再セットアップするためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、再セットアップはできなくなります。

1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする

2 ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

3 ［ 管理ツール］をクリックする

4 ［ コンピュータの管理］をダブルクリックする

5 左画面の［ディスクの管理］をクリックする

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6 ［ディスク 0］の［未割り当て］の領域を右クリックする

7 表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする

［新しいパーティションウィザード］が起動します。

8 ［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

・パーティションの種類

・ドライブ文字またはパスの割り当て

・ファイルシステム

・パーティションサイズ

・フォーマット

9 設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。
パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

【 ヘルプの起動 】

メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックしてください。

3 アプリケーションを再インストールする

アプリケーションを一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

Office搭載モデルの場合はOffice Personal 2003、OneNote搭載モデルの場合はOffice OneNote 2003を、再セットアップ後に同梱のCD-ROMで再インストールする必要があります。「本節 ❷ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする」を確認してください。

1 アプリケーションを再インストールする

再セットアップ後にアプリケーションを再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】

- 『取扱説明書』（本書）

アプリケーションによっては、再インストール時にID番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする

＊ Office搭載モデル、OneNote搭載モデルのみ

文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフト「Excel」を使いたい場合はOffice Personal 2003をインストールする必要があります。
ここでは、Office Personal 2003およびOffice OneNote 2003を再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】

同梱の「Microsoft® Office Personal Edition 2003」または「Microsoft® Office OneNote® 2003」と書いてあるパッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式（Office搭載モデルのみ）

- Microsoft® Office Personal Edition 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office Home Style+ CD-ROM
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド

「Microsoft® Office OneNote® 2003」一式（OneNote搭載モデルのみ）

- Microsoft® Office OneNote® 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office OneNote® 2003 お使いになる前に

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。
再インストール方法とセットアップ方法の詳細は、『Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド』、『Microsoft® Office OneNote® 2003 お使いになる前に』を確認してください。

【 Service Pack1 について 】

添付のCDからOffice Personal 2003およびOffice OneNote 2003を再インストールした場合、Service Pack1は組み込まれません。［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールしてください。

参照 アプリケーションの再インストール
「本節 ❶ アプリケーションを再インストールする」

【「手書き入力パッド」を使用するとき 】

Office Personal 2003 を再インストールした場合、Microsoft Office Word や Microsoft Office Excel などのアプリケーションを使用するときに、IME ツールバーの［手書き］ボタン -［手書き入力パッド］をクリック（または［手書き入力パッド］ボタンをクリック）すると、「言語の入力システムが正常にインストールされていることを確認してください」という警告メッセージが表示される場合があります。

言語の入力システム（MS-IME）は正常にインストールされており、動作上の問題はありませんので、「今後、このメッセージを表示しない」のチェックボックスをチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。

9章

こんなときは

オンラインマニュアルやアプリケーションの使用、お客様登録、保守や修理などアフターケアを行う保守サービスを利用するときについて。
また、バッテリパックの廃棄やパソコン本体の廃棄・譲渡を行う場合について説明しています。

1　オンラインマニュアルについて

本製品には、パソコンの画面上で読むことのできる、オンラインマニュアルが用意されています。

1 起動方法

アプリケーションの紹介や Q&A、用語集など、ジャンル別にさまざまな情報を説明しています。
次のように操作すると、「オンラインマニュアル」が起動します。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［オンラインマニュアル］をクリックする

2 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。
保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。
保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールのアドレス帳
- インターネットのお気に入り
- TPM 内部のデータ　など

消耗品について

【 バッテリパック 】

次のものは消耗品です。

- バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパック PABAS063 またはセカンドバッテリパック PABAL064 と交換してください。

【 バックライト用蛍光管 】

本体液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管は消耗品となります。使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

付属品について

付属品については、株式会社 IT サービス（本社：044-540-2574）まで問い合わせてください。

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から 6 年 6ヵ月です。

3 お客様登録をする

お客様登録とは、自分が製品の正規のユーザ（使用者）であることを製品の製造元に登録することです。ユーザ登録ともいいます。

1 東芝 ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝 ID（TID）のご登録をおすすめしております。
東芝 ID（TID）は、複数のデジタル商品、および東芝オンラインショッピングサイト「Shop1048」で共通にご利用いただけるお客様専用 ID です。Room1048 登録対象の東芝デジタル商品をご購入された方が対象で、インターネット経由でご登録いただけます。
「Shop1048」でご購入の際にお手続きの中で、TID をご登録いただいたお客様は、あらためてご登録いただく必要はありません。また、TID をご登録後は、商品同梱のお客様登録はがきでのご登録は不要です。

【 東芝 ID（TID）でご利用いただけるサービス 】

- お客様専用個人ページ「Room1048（ルームトウシバ）」をご利用いただけます。
- PC オンラインによるメールでの技術相談をお受けいたします。
- アンケートなどでご取得いただくポイントで、プレゼントの抽選にご応募いただけます。
- 「Shop1048」でのお買い物時には、便利でお得な TID 会員メニューをご利用いただくことができます。

詳しくは、次のアドレス「東芝 ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

お願い

- TID 登録には、メールアドレスが必要です（携帯電話のメールアドレスはご遠慮ください）。
- 上記のサービス項目のうち、個人ページおよびポイント制度については、個人のお客様のみ対象となります。
- ご登録住所は、日本国内のみに限らせていただきます。
- この記載内容は 2005 年 3 月現在のものです。内容については、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

1 [東芝お客様登録]アイコンからのご登録方法

お客様の環境に応じて、TID 登録を行う方法を選択できます。
ここでは、インターネットアクセス環境をお持ちでない場合に、本製品に添付のアプリケーション「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用して、TID 登録を行う方法を説明します。
接続時間に応じた電話使用料金が電話会社より請求されますので、あらかじめご了承ください。

お願い 操作にあたって

TID 登録は、インターネットに接続して行います。あらかじめ、次のことを行ってください。

- コンピュータウイルスへの感染を防ぐために、ウイルスチェックソフトをインストールし、有効状態に設定しておいてください。
- 電話回線のタイプ（パルス、またはトーン）を確認しておいてください。
- モジュラーケーブルを接続しておいてください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

［東芝お客様登録］画面が表示されます。

2 内容を読んで［お客様登録へ進む］ボタンをクリックする

3 内容を読んで［インターネットアクセス環境をお持ちでない方はこちらをクリック］をクリックする

本製品に添付のアプリケーション「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用して、インターネットプロバイダ「infoPepper（インフォペッパー）」に接続し、東芝 ID（TID）のホームページにアクセスします。

「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用しない場合は、次のいずれかの方法を選択してください。

- **インターネットアクセス環境をお持ちの方**

  [インターネットアクセス環境をお持ちの方はこちらをクリック] をクリックしてください。
  インターネットに接続して、東芝ID（TID）のホームページにアクセスします。
  アクセス後は、TID登録を行ってください。

- **インターネット経由での登録を希望しない方**

  [終了]（×終了）ボタンをクリックし、画面を閉じてください。
  同梱されているお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、投函してください。
  『お客様登録カード』で登録された方へは「仮パスワード」を発行いたします。東芝デジタル商品共通の東芝ID（TID）は、「仮パスワード」を使い、インターネットから別途ご登録が必要です。
  「本項 3 インターネットにすぐに接続されないお客様」をご覧ください。

「いきなりインターネット」が起動します。
画面に従って設定を行ってください。

役立つ操作集

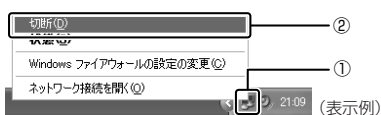
インターネットへの接続を終了するには

TID登録を完了した後は、インターネットへの接続を終了してください。

①通知領域の［接続］アイコン（ ）を右クリックする

②表示されたメニューから［切断］をクリックする
接続が終了すると通知領域の［接続］アイコン（ ）が消えます。

（表示例）

［スタート］→［接続］→［infoPepper XX（接続先)］をクリックし、［infoPepper XX（接続先）の状態］画面で［切断］ボタンをクリックして、切断することもできます。

2 インターネットからのご登録方法

画面のご案内に従ってご登録ください。
すぐに TID をご取得、ご利用いただけます。

1 「http://room1048.jp/」にアクセスする

2 ［新規及び追加で商品のご登録をされるお客様］欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する

画面のご案内に従ってください。

- **初めて TID をご登録される方**
  ［新規登録］ボタンをクリックしてください。
  画面のご案内に従ってご登録いただきますと、TID を発行いたします。
- **すでに他商品で TID を取得された方**
  TID、パスワードを入力し、［追加登録］ボタンをクリックしてください。
  商品の追加登録を行っていただくことができます。

3 インターネットにすぐに接続されないお客様

同梱の『お客様登録カード』（はがき）に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。
東芝 TID 事務局より、「お客様登録番号」と TID 登録用の「仮パスワード」をはがきにて通知いたします。はがき通知後、インターネットから TID をご登録ください。TID はインターネットからのご登録受付になります。

- **初めて TID をご登録される方**
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/tid/」にアクセスし、「お客様登録番号」と「仮パスワード」を入力し、TID 登録を行ってください。
- **すでに他商品で TID を取得された方**
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、「Room1048」にログインした後、［登録情報変更］→［はがきを受け取られたお客様］を選択してください。

お願い

- TID登録時点でお客様登録番号は無効となります。TIDでのサービス･サポートをご利用ください。
- TIDをご登録にならない場合は、お問い合わせなどの際にお客様登録番号が必要になることがありますので、はがきをお手元に保管してください。

2 その他のユーザ登録

1 Windows XPのユーザ登録

登録すると、マイクロソフト社よりマイクロソフト社製品に関する製品情報やイベント情報などを得ることができます。
登録は、インターネットで行います。インターネットに接続してから、次の手順で行ってください。

1 ［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックする
［ヘルプとサポート センター］画面が表示されます。

2 左画面の［Windows XP の新機能］をクリックする

3 左画面の［ライセンス認証、ライセンス、およびユーザー登録］をクリックする

4 右画面の［オンライン ユーザー登録を使用する］をクリックする

5 右画面の説明文中の［ユーザー登録ウィザード］をクリックする
［Microsoft Windows XP ユーザー登録ウィザード］が起動します。

6 表示される画面に従って登録を行う
ユーザー ID を持っていない場合は、所有者情報を入力する画面の［マイクロソフト オフィシャルユーザー ID］欄に「WindowsXP」と入力してください。

2 その他のアプリケーションのユーザ登録

パソコンに用意されている他のアプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプを確認してください。
また、各アプリケーションの問い合わせ先については、「9 章 5-❷ アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

4 廃棄・譲渡について

1 バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

【 バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先 】

有限責任中間法人 JBRC
TEL　　　　：03-6403-5673
ホームページ：http://www.jbrc.com

2 パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。以下の要領にて処理してください。
（本製品は、LCD 表示部に使用している蛍光管に水銀が含まれています。また、鉛を含む部品が使われています。）

【 PC リサイクルマークについて 】

PC リサイクルマーク
製品本体の型番を表示しているシール（本体裏面）に印刷表示します。

1 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、東芝の家庭系使用済みパソコン回収受付窓口へお申し込みください。
東芝は、PC リサイクルマークが表示されている東芝製パソコンは無料で回収と適切な再資源化処理を実施します。

【 パソコン回収受付窓口 】

東芝 dynabook リサイクルセンタ

【 回収申込方法 】

- 東芝ホームページよりお申し込みの場合
  ホームページ：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm（24時間受付）
- 電話にてお申し込みの場合
  東芝 dynabook リサイクルセンタ
  TEL　　　：043-303-0200
  受付時間：10:00 ～ 17:00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
  FAX　　　：043-303-0202（24時間受付）

【 回収・再資源化対象機器 】

ノートパソコン、デスクトップパソコン（本体）、液晶ディスプレイ／液晶一体型パソコン、ブラウン管（CRT）ディスプレイ／ブラウン管（CRT）一体型パソコン

＊ 出荷時に同梱されていた標準添付品（マウス、キーボード、スピーカ、ケーブルなど）が同時に排出された場合は、パソコンの付属品として併せて回収します。ただし、周辺機器（プリンタ他）、マニュアル、CD-ROMなどの媒体は回収の対象外です。

2 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を実施しております。
PCリサイクルマーク表示のある東芝製パソコンを産業廃棄物として回収・処理を行う場合の費用については、東芝パソコンリサイクルセンターにお問い合わせください。

【 問い合わせ先 】

東芝パソコンリサイクルセンター
TEL　　　：045-510-0255
受付時間：9:00 ～ 17:00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
FAX　　　：045-506-7983（24時間受付）

【 東芝ホームページでご紹介 】

ホームページ：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm

3 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

◆ データを「ごみ箱」に捨てる
◆「削除」操作を行う
◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
◆ ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
◆ 再セットアップ（リカバリ）を行い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの状態です。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることをお勧めします。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認をする必要があります。

本製品には、パソコン上のデータを消去する機能があります。

参照 「本項 5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

この機能は、Windows などの OS によるデータの消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域（＊）にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

＊ 内蔵ハードディスクからの再セットアップが可能な製品は、再セットアップに必要な領域は削除されません。

データ消去については、次のホームページも参照してください。
URL：http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

4 お客様登録の削除について

お客様登録されている製品を廃棄する場合は、ホームページまたは電話で登録情報の削除の手続きをしてください。

● ホームページから登録を削除する

東芝 ID（TID）をお持ちの場合はこちらからお願いいたします。

① インターネットで http://room1048.jp/ へ接続する

② ページ左側の［東芝 ID（TID)］と［パスワード］に入力し、［ログイン］ボタンをクリックする
「登録情報変更メニュー」にログインします。

③「退会」を選択し、登録を削除する

※ TID を退会されますと、「Shop1048」での TID 会員メニュー、およびポイントサービスなどもご利用いただけなくなりますので、あらかじめご了承ください。

● 電話で登録を削除する

「東芝 ID 事務局（お客様情報変更)」までご連絡ください。

東芝 ID 事務局（お客様情報変更）
TEL：03-3457-4861
受付時間：9:00 〜 17:00（土、日、祝日、東芝特別休日を除く）

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関する問い合わせ窓口です。
保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

法人のお客様の場合、サービス内容が家庭のお客様の場合と異なります。詳しくは、次のホームページを参照してください。
URL：https://room1048.jp/onetoone/info/business.htm

5 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。
なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

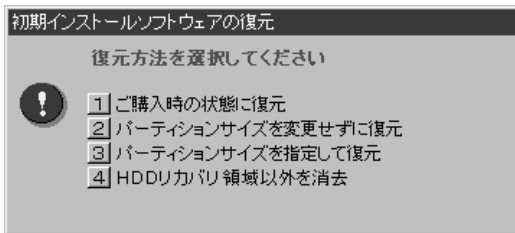
ハードディスクの内容をすべて消去する手順は、ご購入のモデルによって異なります。

【 リカバリ CD-ROM が同梱されていないモデル 】

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの⓪（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

4 ④キーを押す

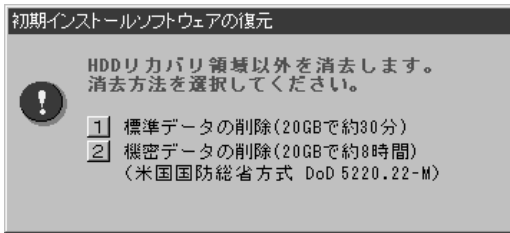
「HDD リカバリ領域以外は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。

5 Yキーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。

初期インストールソフトウェアの復元

HDDリカバリ領域以外を消去します。
消去方法を選択してください。

1 標準データの削除(20GBで約30分)
2 機密データの削除(20GBで約8時間)
(米国国防総省方式 DoD 5220.22-M)

6 目的にあわせて、1または2キーを押す

通常は、1キーを押してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、2キーを押してください。数時間かかりますが、HDD リカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除き、データは消去されます。

【 リカバリ CD-ROM が同梱されているモデル 】

1 リカバリ CD-ROM をセットし、パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

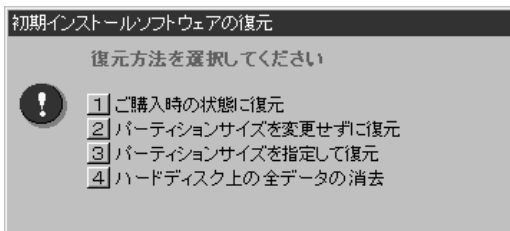
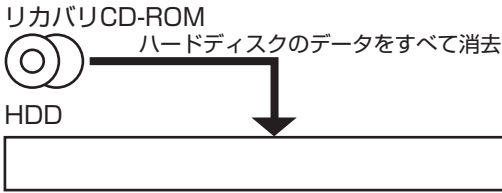
3 キーボードのF12キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

4 →または←キーで CD のアイコン（ ）にカーソルを合わせ、Enterキーを押す

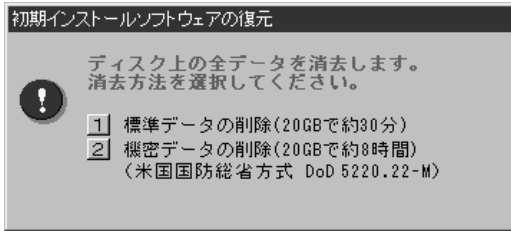
［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

初期インストールソフトウェアの復元

復元方法を選択してください

1 ご購入時の状態に復元
2 パーティションサイズを変更せずに復元
3 パーティションサイズを指定して復元
4 ハードディスク上の全データの消去

5 ④キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

6 Ⓨキーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。
処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。

7 目的にあわせて、①または②キーを押す

通常は、①キーを押してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、②キーを押してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。

8 Ⓨキーを押す

メッセージが表示され、データの消去処理が開始されます。

TPM の内容を消去する

TPM を使用している場合、ハードディスクドライブだけでなく、TPM 内部のデータを削除する必要があります。登録情報など、セキュリティに関する重要な情報が含まれているため、必ずデータを削除してください。

 TPM 『Trusted Platform Module 取扱説明書』

5 OS／アプリケーションについて

1 OSの問い合わせ先

＊2005年3月現在の内容です。

Windowsセキュリティセンターなど、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2セキュリティ強化機能搭載の新規機能についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://support.microsoft.com/

Windows XPに関する一般的なお問い合わせは、東芝PCダイヤルになります。

② アプリケーションの問い合わせ先

＊ 2005 年３月現在の内容です。
各社の事情で受付時間などが変更になる場合があります。

本製品に添付されているアプリケーションやプロバイダの問い合わせ先は、次のとおりです。
各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先までお問い合わせください。

Adobe Reader／ConfigFree／Fn-esse／Internet Explorer／Java™ 2 Runtime Environment／Microsoft IME／Microsoft Office OneNote／Outlook Express／PadTouch／TOSHIBA Smooth View／ TPM／Windows Media Player／指紋認証ユーティリティ／東芝HWセットアップ／東芝SDメモリカードフォーマット／東芝PC診断ツール／東芝省電力／内蔵モデム用地域選択ユーティリティ／東芝パスワードユーティリティ
東芝（東芝PCダイヤル） ナビダイヤル ： 0570-00-3100（サポート料無料） 受付時間 ： 9:00～19:00（年中無休） システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。 なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com上にてお知らせいたします。 電話番号はお間違えのないようお確かめのうえ、おかけくださいますようお願いいたします。お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。 拠点までの電話料金は有料となります。また海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。 ご注意 ・ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。 ・ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

Microsoft Office Excel／Microsoft Office Home Style+／ Microsoft Office Outlook／Microsoft Office Word
マイクロソフト 無償サポート 〈TEL〉 ＴＥＬ　：東京：03-5354-4500 　　　　　大阪：06-6347-4400 ※次の情報をお手元に用意してご連絡ください。 郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクトID 詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。 〈受付時間・お問い合わせ回数〉 ●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ 受付時間　：9:30～12:00、13:00～19:00（平日） 10:00～17:00（土曜日、日曜日） （マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の場合は営業いたします。その場合、振替休日は休業させていただきます） 回数　：指定はございません。 ●基本操作に関するお問い合わせ 受付時間　：9:30～12:00、13:00～19:00（平日） 10:00～17:00（土曜日） （マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く） 回数　：4インシデント（4件のご質問） 無償サポートは4件までです。 あらかじめ、インシデント制など詳細について、『Microsoft Office Personal Edition 2003 スタートガイド』の「お問い合わせについて」をご覧ください。 〈ホームページ〉 URL　：http://support.microsoft.com/ ※電話サポート（無償）もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。 備考　：マイクロソフトサポートWeb上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。 答えてねっと　：http://www.kotaete-net.net/

駅すぱあと
株式会社ヴァル研究所 「駅すぱあと」ユーザーサポートセンター 受付時間 ： 10:00〜12:00、13:00〜17:00（土・日・祝祭日・指定日を除く） T E L ： 03-5373-3522 F A X ： 03-5373-3523 E-mail ： support@val.co.jp ＊ユーザー登録されたお客様が対象になります。 ホームページ ： http://ekiworld.net/
Norton AntiVirus
●期限切れによる「更新サービスの延長」申し込み シマンテックストア ホームページ ： http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/regist/oem/toshiba/ 受付時間 ： 10:00〜17:00（土・日・祝日・年末年始を除く） TEL ： 0570-005557（ナビダイヤル） FAX ： 0570-005558（ナビダイヤル） ●ユーザー登録およびご購入前の一般的なご質問に関するお問い合わせ シマンテック コンシューマ カスタマーサービスセンター 受付時間 ： 10:00〜17:00（土・日・祝日・年末年始を除く） TEL ： 0570-054115（ナビダイヤル） FAX ： 0570-054116（ナビダイヤル） ※FAXでのお問い合わせはご回答までにお時間がかかる場合があります。お急ぎの場合は、お電話でのお問い合わせをお勧めいたします。 ●技術的なお問い合わせ シマンテック コンシューマ テクニカルサポートセンター 受付時間 ： 10:00〜17:00（土・日・祝祭日を除く） 本センターをご利用頂くためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートチケットをご購入頂くか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。 ※テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。 ユーザー登録サイト ： http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/regist/oem/toshiba/

駅探エクスプレス
駅探エクスプレスサポート 受付時間　：メールのため受付時間の制限はありません。 ※Webmasterからの返信は、基本的に平日（10:00～18:00）の対応とさせていただいております。 また、内容により返信できない場合、回答に日数を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。 E-mail　：express-support@ekitan.com ホームページ　：http://express.ekitan.com/
ゼンリンデータコム デジタル全国地図 its-mo Navi
ゼンリンデータコム　お客様相談室 E-mail　：itsmo_navi@zenrin-datacom.net ホームページ　：http://www.zmap.net/contactus/index.html
@nifty
@niftyブロードバンド導入ご相談窓口 受付時間　：毎日 9:00～22:00 ＊ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。 ＴＥＬ　：0120-50-2210（フリーダイヤル） E-mail　：https://www.nifty.com/support/madoguchi/form_join.htm ホームページ　：http://www.nifty.com/support/madoguchi/madoguchi_join.htm
DION
KDDIカスタマーサービスセンター ●サービス内容に関するお問合わせ ＴＥＬ　：0077-7192（無料／9:00～21:00／土・日・祝日も受付中） ●接続・設定等に関するお問合わせ ＴＥＬ　：0077-7084（無料／24時間受付／土・日・祝日も受付中） ホームページ　：http://www.dion.ne.jp/ ※メールでのお問い合わせはホームページから：http://cs119.kddi.com/dion/

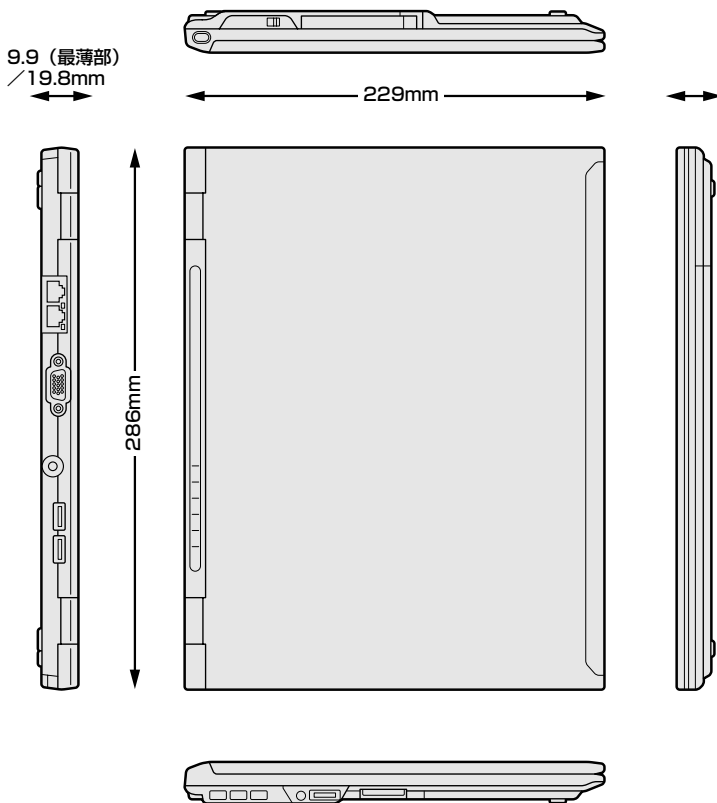
infoPepper
infoPepperインターネットサービス 受付時間　：10:00～12:00、13:00～17:00（休業日を除く月曜～金曜） TEL　：044-201-0450 ＦＡＸ　：044-246-1131 ＦＡＸ・音声情報サービス　：044-201-0449（24時間受付） E-mail　：support@staff.pep.ne.jp ホームページ　：http://www.pep.ne.jp/
ODN
ODNサポートセンター ●ODNサービスに関するお問い合わせ ＴＥＬ　：0088-86（無料。ダイヤルアップコース） 0088-222-375（無料。ADSL/光コース） 受付時間　：24時間自動受付（9:00～18:00はオペレーター受付も可能） ●接続に関するお問い合わせ ＴＥＬ　：0088-85（無料。ダイヤルアップコース） 0088-228-325（無料。ADSL/光コース） 受付時間　：24時間自動受付（9:00～18:00はオペレーター受付も可能。また、ADSL/光コースの場合、オペレーター受付は9:00～21:00） ●E-mailによるお問い合わせ ダイヤルアップコースサービス案内　：odn-support@odn.ad.jp ダイヤルアップコース接続サポート　：tech-support@odn.ad.jp ADSL/光コースサービス案内・接続サポート　：info-adsl@odn.ad.jp ●FAXによるお問い合わせ ODN FAXサービス：0088-218-586（無料。年中無休）
gooスティック
goo事務局 受付時間　：10:00～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く） ＴＥＬ　：045-848-4190 E-mail　：info@goo.ne.jp ホームページ　：http://stick.goo.ne.jp

付録

本製品について、外形や各インタフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

1　本製品の仕様

1 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。

2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 表示可能色数の詳細について「3 章 4-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

<table>
<tr><th>ビデオモード</th><th>形 式</th><th>解像度</th><th>フォントサイズ</th><th>色数</th><th>CRTリフレッシュレート(Hz)</th></tr>
<tr><td>0.1</td><td rowspan="6">VGA
テキスト</td><td>40 x 25字</td><td rowspan="2">8 x 8</td><td rowspan="6">16/256K</td><td rowspan="14">70</td></tr>
<tr><td>2,3</td><td>80 x 25字</td></tr>
<tr><td>0*,1*</td><td>40 x 25字</td><td rowspan="2">8 x 14</td></tr>
<tr><td>2*,3*</td><td>80 x 25字</td></tr>
<tr><td>0+,1+</td><td>40 x 25字</td><td rowspan="2">8(9) x 16</td></tr>
<tr><td>2+,3+</td><td>80 x 25字</td></tr>
<tr><td>4,5</td><td rowspan="2">VGA
グラフィックス</td><td>320 x 200ドット</td><td rowspan="2">8 x 8</td><td>4/256K</td></tr>
<tr><td>6</td><td>640 x 200ドット</td><td>2/256K</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="2">VGA
テキスト</td><td rowspan="2">80 x 25字</td><td>8(9) x 14</td><td rowspan="2">モノクロ</td></tr>
<tr><td>7+</td><td>8(9) x 16</td></tr>
<tr><td>D</td><td rowspan="7">VGA
グラフィックス</td><td>320 x 200ドット</td><td rowspan="2">8 x 8</td><td rowspan="2">16/256K</td></tr>
<tr><td>E</td><td>640 x 200ドット</td></tr>
<tr><td>F</td><td rowspan="2">640 x 350ドット</td><td rowspan="2">8 x 14</td><td>モノクロ</td></tr>
<tr><td>10</td><td>16/256K</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="2">640 x 480ドット</td><td rowspan="2">8 x 16</td><td>2/256K</td><td rowspan="2">60</td></tr>
<tr><td>12</td><td>16/256K</td></tr>
<tr><td>13</td><td>320 x 200ドット</td><td>8 x 8</td><td>256/256K</td><td>70</td></tr>
</table>

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
–	SVGAグラフィックス	640 x 480ドット	–	256/256K	60/75/85/100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット	–		
–		1600 x 1200ドット	–		60/75/85/100
–		1920 x 1440ドット*1	–		60/75/85
–		2048 x 1536ドット*1	–		60/75
–		640 x 480ドット	–	64K/64K	60/75/85/100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット	–		
–		1600 x 1200ドット	–		60/75/85/100
–		1920 x 1440ドット*1	–		60/75/85
–		2048 x 1536ドット*1	–		60/75
–		640 x 480ドット	–	16M/16M	60/75/85/100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット	–		
–		1600 x 1200ドット	–		60/75/85/100
–		1920 x 1440ドット*1	–		60/75/85
–		2048 x 1536ドット*1	–		60/75

＊1 外部ディスプレイのみ、拡張デスクトップで表示している場合にサポートします。
注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニタでは使用できません。

3 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。
使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする

2 画面左側のツリーから［ハードウェアリソース］をダブルクリックする

3 調べたい項目をクリックする

メモリマップ ：［メモリ］
I/O ポートマップ ：［I/O］
IRQ 使用リソース ：［IRQ］
DMA 使用リソース ：［DMA］

4 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 警 告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠ 注 意

- モデムボードの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。モデムボードの取り付け／取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、規格（PTT）ラベルの確認以外の目的でパソコン本体のカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【 取り付け 】

① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ ハードディスクドライブカバーのネジ 1 本をはずし、ハードディスクカバーとハードディスクドライブを取りはずす
⑤ 増設メモリカバー以外の、パソコン本体裏面のネジ 16 本をすべて取りはずす
⑥ パソコン本体を表に返し、キーボードホルダをはずし、その下のキーボードを取り付けネジ 2 本をはずす
⑦ キーボードをはずし、PC カードスロット固定ネジ 2 本をはずす
⑧ パソコン本体を裏返し、ベースカバーを取りはずす
⑨ モデムボードにハーネスを取り付ける
⑩ モデムボードを取り付け、モデムボード裏のコネクタをさし、固定用のネジ 2 本でとめる
⑪ 手順⑧ではずしたベースカバーを取り付け、パソコン本体を表に返し、手順⑦ではずした PC カードスロット固定ネジ 2 本をとめる
⑫ キーボードを取り付け、キーボード取り付けネジ 2 本でとめる
⑬ 手順⑥ではずしたキーボードホルダを取り付ける
⑭ パソコン本体を裏返し、ベースカバーを手順⑤ではずしたネジ 16 本でとめる
⑮ ハードディスクドライブとハードディスクカバーを取り付け、手順④ではずしたネジ 1 本でとめる
⑯ バッテリパックを取り付ける

【 取りはずし 】

① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ ハードディスクドライブカバーのネジ 1 本をはずし、ハードディスクカバーとハードディスクドライブを取りはずす
⑤ 増設メモリカバー以外の、パソコン本体裏面のネジ 16 本をすべて取りはずす
⑥ パソコン本体を表に返し、キーボードホルダをはずし、その下のキーボード取り付けネジ 2 本をはずす
⑦ キーボードをはずし、PC カードスロット固定ネジ 2 本をはずす
⑧ パソコン本体を裏返し、ベースカバーを取りはずす
PTT ラベルを確認することができます。
⑨ モデム固定用のネジ 2 本をはずし、モデムボードを取りはずす
⑩ モデムボードからケーブルを取りはずす
⑪ 手順⑧ではずしたベースカバーを取り付け、パソコン本体を表に返し、手順⑦ではずした PC カードスロット固定ネジ 2 本をとめる
⑫ キーボードを取り付け、キーボード取り付けネジ 2 本でとめる
⑬ 手順⑥ではずしたキーボードホルダを取り付ける
⑭ パソコン本体を裏返し、ベースカバーを手順⑤ではずしたネジ 16 本でとめる
⑮ ハードディスクドライブとハードディスクカバーを取り付け、手順④ではずしたネジ 1 本でとめる
⑯ バッテリパックを取り付ける

PTT 中国回線規格ラベルは、バッテリパックを取りはずすと確認できます。

5 回復コンソール

Windows XP に重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。
回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。
詳しい使用方法は『ヘルプとサポート センター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

回復コンソールのインストール

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥windows¥i386¥winnt32.exe /cmdcons」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

［Windows セットアップ］画面が表示されます。画面の指示に従ってインストールしてください。
インターネットに接続できない場合は、更新された Windows セットアップをダウンロードすることができませんが、回復コンソールのインストールはそのまま続行することができます。

回復コンソールの操作方法

1 電源スイッチを押す

パソコンを起動したときにオペレーティングシステム一覧が表示されます。
通常、システムを起動する場合は、「Microsoft Windows XP Professional」または「Microsoft Windows XP Home Edition」を選択してください。

2 「Microsoft Windows XP 回復コンソール」を選択し、Enterキーを押す

画面のメッセージに従ってください。

3 コマンドを入力する

「C:¥WINDOWS>_ 」が表示されているときに「help」を入力すると、回復コンソールで入力できるコマンドの一覧が表示されます。
各コマンドの説明については、『ヘルプとサポート センター』でご確認ください。
回復コンソールを終了したい場合は「exit」と入力してください。パソコンが再起動します。

2 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

1 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g IEEE802.11b	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャネルセット 】

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462
12	2467 *2
13	2472 *2
14	2484 *2

＊1 購入時にアドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

＊2 これらのチャネルが使用できるかどうかはご使用になる無線 LAN モジュールにより異なります。使用可能チャネルについては、同梱の『無線 LAN ご使用できる国／地域について』をご覧ください。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

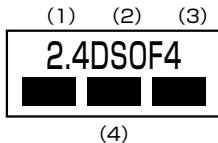
【 1.ステッカー 】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【 2.現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

(1) 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
(2) DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
　　OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
(3) 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
(4) ■■■　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 3.東芝PCダイヤル 】

受付時間　：9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル：0570-00-3100

付録

4 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名 ： PA3426U-1MPC
株式会社　ディーエスピーリサーチ　　　　認証番号：D04-0057003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthognal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G) (無線LAN標準規格(版数 B/G))
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証

無線LAN規格ラベルはバッテリパックを取りはずすと確認できます。

【 健康への影響 】

Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit étre prét à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.
To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecram de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The tern " IC " before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent étre utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a Particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 14　Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17　Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

3 Bluetoothについて

＊Bluetoothモデルのみ

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.2.0+EDR
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力＊1	最大＋4dBm（Power Class2）
	受信感度＊1	－70dBm
	通信距離	見通し10m＊2
電源電圧		3.3V
消費電流		最大200mA

＊1　アンテナの効率は含まれません。
＊2　周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetoothモジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

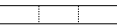
付録

3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【ステッカー】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

> この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
> 1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
> 2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
> 3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。

（1）2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
（2）FH　：変調方式がFH-SS方式であることを示す。
（3）1　：想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
（4）□□□　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝PCダイヤル】

受付時間　／9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル／0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYXF3CS
財団法人　電気通信端末機器審査協会　　　　認証番号　D05-0074001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Bluetooth™東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum（FHSS）無線技術を使用するあらゆるBluetooth™ワイヤレステクノロジを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.2.0+EDR
- Bluetooth Special Interest Groupの定義するBluetoothワイヤレステクノロジのLogo認証

メモ

本製品はすべてのBluetooth™ワイヤレステクノロジを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。
ご使用にあたっては、Bluetooth™ワイヤレステクノロジを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

（1）本製品はBluetooth™ Version2.0+EDR仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version1.0B仕様のBluetooth™ワイヤレステクノロジを用いた機器とは互換性がありません。

（2）2.4GHz帯のWireless-LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

(3) Bluetooth ™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth ™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

Bluetooth 規格ラベルはバッテリパックを取りはずすと確認できます。

【 健康への影響 】

Bluetooth ™ ワイヤレステクノロジを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth ™ ワイヤレステクノロジの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth ™ ワイヤレステクノロジを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth ™ ワイヤレステクノロジを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements
General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold.In addition, the product complies with the following.

European Union (EU)and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L ' utilisation de ce dispositif est autorisee seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit etre pret a accepter tout brouillage radioelectrique recu, meme si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Caution
FCC Interference Statement

This device complies with part15 of the FCC rules.
Operation is subject to the following two conditions:

■ This device may not cause harmful interference,and
■ This device must accept any interference received,including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution
Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.
Nevertheless,the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment,the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are licated on top of LCD distance of 20 cm.
Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.
The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.
Nevertheless,it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall nor change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

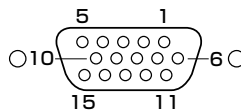
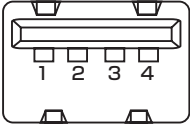
Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.
The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.
Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

4 各インタフェースの仕様

1 RGBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図

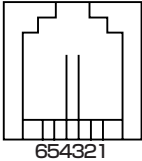
5 1
10 6
15 11

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

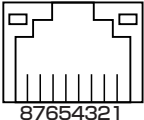
2 USBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

1 2 3 4

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 モデムインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	
コネクタ図			

654321

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 LANインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（＋）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（－）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（＋）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（＋）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（－）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（－）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（＋）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（－）	I/O
コネクタ図			
87654321			

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

5 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

「7章 2 その他 - Q.パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

省電力設定について「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook SS SX series, dynabook SS S20 series
Model number : PPR20

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector and USB connector. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

付録

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity

CE

TOSHIBA declares, that the product: PPR20* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

●回線規格ラベル

本製品の内蔵モデムには、次の回線規格ラベルのうちどちらかが貼付してあります。

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2005 年４月現在）

●自動再発信の制限

内蔵モデムは２回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を２回以下または再発信間隔を１分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は２回以内（但し、最初の発信から３分以内）」に従っています。

お願い

内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
The customer should be aware that compliance with the above conditions may not

prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
The IC registration number of the modem is shown below.
Canada: 4005B-ATHENS

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
  c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)
AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
ATS0=0 (not auto answer)
ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.

- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.

- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the

specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

6 東芝 PC ダイヤルのご案内

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。
技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

1 東芝 PC ダイヤル

ナビダイヤル
全国共通電話番号 **0570-00-3100**（サポート料無料）

＊受付時間／ 9：00 ～ 19：00（年中無休）
システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。
なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com 上にてお知らせいたします。
[電話番号はまちがえないよう、確認してかけてください]

電話は全国 6 箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これは全国 6 箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。

ナビダイヤルでは、NTT 以外とマイラインプラスを契約している場合でも、自動的に NTT 回線を使用することになります。

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT 以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780 でお受けしています。

円滑に対応するために、次ページの「本項 1 トラブルチェックシート」でパソコンの使用環境について確認してから、東芝 PC ダイヤルにお問い合わせください。

1 トラブルチェックシート

東芝PCダイヤル（前ページ参照）では電話でのdynabookの技術的な質問、お問い合わせにお答えいたします。円滑に対応させていただくために、次の内容をまとめ、お手元にお使いのパソコンをご用意のうえ、お問い合わせください。

Q.1 使用しているパソコンの型番は？
型番は本体裏面のラベルに記載されています。

Q.2 使用しているソフトウェア環境は？
Windows XPなど、使用しているシステムとアプリケーションは？
システムのバージョンやCPUの種類を「東芝PC診断ツール」で確認してください。

Q.3 どのような症状が起こりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？
表示された場合、表示内容をお知らせください。

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？
□ 一度発生したが、その後発生しない　□ 常に発生する
□ 電源を切らないと発生するが、電源を切ってから再起動すれば発生しない
□ 電源を切ってから再起動しても必ず発生する　□ その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？
□ ある一定の操作をすると発生する
□ どんな操作をしても発生する　□ その他：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合
プロバイダ名：　使用モデム名：
使用回線：□ ブロードバンド　□ ダイヤルアップ接続
□ ISDN接続　□ 携帯電話・PHS接続

Q.9 周辺機器に関する相談の場合
機器名（製品名）：　メーカー名：

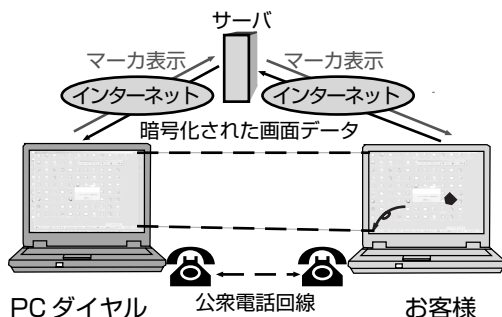
付録

2 遠隔支援サービス

URL：http://www.dynabook.com/assistpc/remote/index_j.htm

「遠隔支援サービス」は、お客様のパソコン画面をサポートスタッフがインターネット経由で拝見しながら、技術サポートを行うサービスです。
実際のパソコン操作は、サポートスタッフからの電話とお客様のパソコンに表示されるマーカの指示に従い、お客様ご自身で行っていただきます。

メモ

- 本サービスの利用を希望される場合は、事前にPCダイヤルにご相談をお願いします。ご相談されずに本サービスを利用することはできません。
- 画面の画像情報を通信するためにブロードバンド回線（ADSLなど）が必要となります。また、電話にてサポートを行うため、インターネットと同時に電話が接続できることも必須となります。
- 本サービスでは、画面情報のみ送信されます。画面に表示されない限り、スタッフがパソコン本体に保存されている情報を見ることはできません。また、本サービスはセキュリティ対策を行っております。情報は暗号化されて送られ、個人情報の漏洩などの危険はありません。
- 本サービスでは、お客様のパソコンに操作案内用のマーカを表示するためのデータを送りますが、お客様のパソコンの内部データを書き換えることは一切ありません。
- 本サービスは登録が不要です。同意事項を了承いただくことで、利用できます。本サービスは無償サービス*です。
  - ＊ PCダイヤルへの通話料金やインターネットに接続するための費用などは、お客様の負担となります。

お客様のPCの画面をPCダイヤル側で拝見します。その画面を見ながら、的確な操作方法を電話でお伝えします。

電話やマーカなどによる案内に従い、お客様ご自身でパソコンを操作していただきます。

さくいん

記号

A

B

C

D

F

H

L

N

P

R

S

T

U

W

ア

ト

ナ

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

ミ

ム

メ

モ

ユ

リ

ワ